姫 路 文 学 館 年 報

令和７年度(2025 年度)事業報告

第 34 号



ごあいさつ

姫路文学館は、平成３年４月に開館して以来、34年間にわたり、郷土の文学遺産を支え、文化的土壌を育むべく多彩な事業を実施してまいりました。その間、当館の発展のためにご協力くださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

令和7年度は、姫路出身者ではただ一人の直木賞作家車谷長吉（1945～2015）の没後10年を記念した「没後10年　作家 車谷長吉展」、昭和49年（1974）創刊の少女まんが雑誌『花とゆめ』（白泉社）の50周年を記念した「創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路」、そして、小野不由美の名作「十二国記」の装画・挿絵原画を一堂に展観した「「十二国記」山田章博原画展」の3つの特別展を開催しました。

さらに企画展として、外地（満洲・上海など）における移住者・旅行者・従軍者による刊行物や絵画、映画、音楽などを手掛かりに、その実態を問い直す「戦後80年　戦時下の大衆文化－〈外地〉へのまなざしを振り返る」を開催しました。

司馬遼太郎の誕生日８月７日に開催してまいりました「司馬遼太郎メモリアル・デー」では、作家の澤田瞳子氏が講演され、盛況のうちに終えることができました。38回目を迎えた和辻哲郎文化賞は、一般部門に日比嘉高氏、学術部門に渡名喜庸哲氏のご労作が受賞作に選ばれました。

今後とも変わらぬご厚情とともに、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和8年（2026）９月

館長　藤原正彦

目　次

ごあいさつ 2
目　次 3
第38回和辻哲郎文化賞 4
事業報告
1　展覧会
（1）特別展「没後10年　作家車谷長吉展」 10
（2）特別展「創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路」 20
（3）特別展「「十二国記」山田章博原画展」 27
（4）企画展「戦後80年　戦時下の大衆文化－〈外地〉へのまなざしを振り返る」 31
2　第４回藤原正彦姫路文学館長講演会 40
3　第27回司馬遼太郎メモリアル・デー 41
4　第11回藤原正彦エッセイコンクール 42
5　第14回「世界にひとつの絵本づくり」 43
6　第15回ＫＯＴＯＢＡまつり 44
7　第17回如月まつり 45
8　講座・読書会
（1）古典文学講座「源氏物語の世界」 46
（2）文学思想講座「よりよく自己を生きるために　日本文化と日本語」 46
（3）「司馬遼太郎の「項羽と劉邦」「花咲ける上方武士道」「街道をゆく」などを読む」読書会 47
9　博物館実習・「トライやる・ウィーク」ほか 48
10　出前講座 49
11　出版活動 50
資料概要
1　資料収集状況 51
2　協力者一覧 53
3　文学館資料の貸出状況 55
4　文学館資料の出版物等掲載状況 55
運営管理
1　利用状況
（1）入館者数 56
（2）団体見学受付状況 58
（3）館使用者数 59
（4）資料特別観覧申請 60
（5）出版物等販売数 61
2　組織および分掌事務 63
3　予算の概要 64
施設の概要 65
日誌抄 69
姫路文学館友の会 71
沿革 74
条例規則集 76
利用案内 84

第38回 和辻哲郎文化賞

姫路市制百周年と姫路出身の哲学者和辻哲郎の生誕百年を記念して、昭和63年度に姫路市が創設。和辻哲郎の幅広い学的業績を顕彰し、その著作の今日的意義を国の内外にわたって探るとともに、研究者の育成かつ市民の文化水準の向上に資することを目的とする。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術など、さまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられる。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた論文に与えられる。

授賞式典は和辻哲郎の生誕日が３月１日であることに因み、３月の第１日曜日に姫路にて開催する。

１　対　象

〇一般部門

令和６年（2024年）９月１日から令和７年（2025年）８月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活の関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性を有する評論。

〇学術部門

令和６年（2024年）９月１日から令和７年（2025年）８月31日までに発刊された（復刊は除く）著作物（単行本）の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

２　募集方法

自薦・他薦を問わず、推薦作を一般に募る。また全国の大学等研究機関、新聞社、出版社、研究者等にも推薦を依頼する。締切は令和７年（2025年）９月３日。

３　選考委員

〇一般部門

辻原　登（作家）
山内昌之（東京大学名誉教授）
ロバート キャンベル（早稲田大学特命教授）

〇学術部門

清水正之（聖学院大学名誉学長）
野家啓一（東北大学名誉教授）
関根清三（東京大学名誉教授）

令和７年1月に選考委員会を開催し、受賞作を決定した。

〇一般部門　選考委員会

令和８年１月８日開催。会場：私学会館アルカディア市ヶ谷

〇学術部門　選考委員会

令和８年１月10日開催。オンライン会議

４　推薦会

選考手続の補助として、令和７年度は以下の諸氏による推薦会を実施した。

〇一般部門

大森亮尚（古代民俗研究所代表）
石川　肇（京都日本文化資源研究所所長）
岡田勝明（姫路獨協大学名誉教授）

島村恭則（関西学院大学教授）
竹端　寛（兵庫県立大学教授）
通山由美（姫路獨協大学教授）
林　裕美子（元エリザベト音楽大学教授）
深尾葉子（大阪大学教授）
松宮園子（関西学院大学教授）
柳澤田実（関西学院大学准教授）

○学術部門
荒谷大輔（慶応義塾大学教授）
池田　喬（明治大学教授）
上原麻有子（京都大学大学院教授）
勢力尚雅（日本大学教授）
三重野清顕（東洋大学教授）

９月～12月にかけて全３回の推薦会を開催し、選考委員会に推薦する最終候補作５点を選考する作業を行った。オンライン会議システムを併用して開催した。

○一般部門　推薦会
第１回　令和７年９月11日開催　会場：姫路文学館
第２回　令和７年10月27日開催　会場：姫路文学館
第３回　令和７年11月19日開催　会場：姫路文学館

○学術部門　推薦会
第１回　令和７年９月８日開催　会場：アルカディア市ヶ谷 私学会館
第２回　令和７年10月30日開催　オンライン会議
第３回　令和７年12月８日開催　オンライン会議

５　賞

○正　賞　　蒔絵千姫源氏絵羽子板
（千姫が男山の天満神社に奉納したという羽子板を模した蒔絵漆芸品）
○副　賞　　100万円

第38回和辻哲郎文化賞受賞作



○一般部門
日比嘉高（名古屋大学大学院教授）
『帝国の書店―書物が編んだ近代日本の知のネットワーク』
（令和７年８月７日刊　岩波書店）
大日本帝国期において日本語の書物を扱った外地書店と書店取次の歴史をたどることで、近代日本を支えた文化的基盤のあり様を斬新な視点で描き出した力作。



○学術部門
渡名喜庸哲（立教大学教授）
『レヴィナスのユダヤ性』（令和７年２月20日刊　勁草書房）
レヴィナスの伝記的研究、ユダヤ教関連テキストの読解、ユダヤ思想史、イスラエル論に触れながら、包括的かつ周到な論述でレヴィナスの哲学とユダヤ性の関係を明らかにした意欲作。

応募点数の実績

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
一般部門	56	72	81	97	149	135	132	177	204	206	170	153	124	108	89
学術部門	10	22	41	70	61	62	77	75	125	87	99	63	79	83	72
合　計	66	94	122	167	210	197	209	252	329	293	269	216	203	191	161

	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	27回	28回	29回	30回
一般部門	98	102	110	105	101	90	109	95	98	115	111	123	132	138	130
学術部門	58	53	51	55	74	61	89	66	56	74	93	63	82	71	95
合　計	156	155	161	160	175	151	198	161	154	189	204	186	214	209	225

	31回	32回	33回	34回	35回	36回	37回	38回
一般部門	150	108	119	109	92	110	98	107
学術部門	70	86	70	65	62	69	76	72
合　計	220	194	189	174	154	179	174	179

第38回和辻哲郎文化賞授賞式

毎年３月の第１日曜日に開催し、式典と著名な作家等を招いての記念講演会を催す。

日　時　　令和８年３月１日（日）　午後1時30分～４時
会　場　　姫路市市民会館　大ホール
内　容　　《第１部》授賞式典
　　選考経過　ロバート キャンベル（一般部門）
　　関根清三（学術部門）
　　《第２部》記念講演会
　　講師／鷲田清一（哲学者、大阪大学名誉教授・京都市立芸術大学名誉教授）
　　演題／「しんがり」の心構え―地域社会と「私」



左から受賞者の日比嘉高氏、渡名喜庸哲氏


鷲田清一氏

これまでの受賞作

第１回（昭和63年度）
一般部門　大久保喬樹『岡倉天心　驚異的な光に満ちた空虚』（小沢書店）
学術部門　ウィリアム・Ｒ・ラフルーア「廃墟に立つ理性―戦後合理性論争における和辻哲郎の位相」（『戦後日本の精神史』（岩波書店）所収）
第２回（平成元年度）
一般部門　宇佐美斉　『落日論』（筑摩書房）
学術部門　上山安敏　『フロイトとユング―精神分析運動とヨーロッパ知識社会』（岩波書店）
第３回（平成２年度）
一般部門　中西　進　『万葉と海彼』（角川書店）
学術部門　永積洋子　『近世初期の外交』（創文社）
第４回（平成３年度）
一般部門　野口武彦　『江戸の兵学思想』（中央公論社）
学術部門　ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』（ぺりかん社）
第５回（平成４年度）
一般部門　郡司正勝　『郡司正勝刪定集』全六巻（白水社）
学術部門　大森荘蔵　『時間と自我』（青土社）
第６回（平成５年度）
一般部門　土居良三　『咸臨丸海を渡る―曽祖父・長尾幸作の日記より』（未來社）
学術部門　加藤尚武　『哲学の使命　ヘーゲル哲学の精神と世界』（未來社）
第７回（平成６年度）
一般部門　堀田善衞　『ミシェル城館の人』全三巻（集英社）
〃　山内　昶　『「食」の歴史人類学―比較文化論の地平』（人文書院）
学術部門　関根清三　『旧約における超越と象徴　解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会）
第８回（平成７年度）
一般部門　井上義夫　『評伝　Ｄ．Ｈ．ロレンス』全三巻（小沢書店）
学術部門　阿部良雄　『シャルル・ボードレール【現代性の成立】』（河出書房新社）
第９回（平成８年度）
一般部門　長谷川三千子『バベルの謎　ヤハウィストの冒険』（中央公論社）
学術部門　小野清美　『テクノクラートの世界とナチズム―「近代超克」のユートピア－』（ミネルヴァ書房）
第10回（平成９年度）
一般部門　徳永　恂　『ヴェニスのゲットーにて　反ユダヤ主義思想史への旅』（みすず書房）
学術部門　一ノ瀬正樹『人格知識論の生成―ジョン・ロックの瞬間』（東京大学出版会）
第11回（平成10年度）
一般部門　嶋田義仁　『稲作文化の世界観　「古事記」神代神話を読む』（平凡社）
学術部門　佐々木毅　『プラトンの呪縛―二十世紀の哲学と政治』（講談社）
第12回（平成11年度）
一般部門　西村三郎　『文明のなかの博物学　西欧と日本』（紀伊國屋書店）
〃　渡辺京二　『逝きし世の面影　日本近代素描Ⅰ』（葦書房）
学術部門　宇都宮芳明『カントと神　理性信仰・道徳・宗教』（岩波書店）
第13回（平成12年度）
一般部門　稲賀繁美　『絵画の東方　オリエンタリズムからジャポニスムへ』（名古屋大学出版会）
学術部門　小林道夫　『デカルト哲学とその射程』（弘文堂）
第14回（平成13年度）
一般部門　岡野弘彦　『折口信夫伝　その思想と学問』（中央公論新社）
〃　山折哲雄　『愛欲の精神史』（小学館）
学術部門　ケイト・Ｗ・ナカイ『新井白石の政治戦略　儒学と史論』（東京大学出版会）
第15回（平成14年度）
一般部門　長部日出雄『桜桃とキリスト　もう一つの太宰治伝』（文藝春秋）

学術部門　木村　敏　『木村敏著作集第七巻　臨床哲学論文集』（弘文堂）
〃　植村恒一郎『時間の本性』（勁草書房）

第16回（平成15年度）
一般部門　秋山　駿　『神経と夢想　私の『罪と罰』』（講談社）
学術部門　塩川徹也　『パスカル考』（岩波書店）

第17回（平成16年度）
一般部門　平川祐弘　『ラフカディオ・ハーン　植民地化・キリスト教化・文明開化』（ミネルヴァ書房）
学術部門　井上達夫　『法という企て』（東京大学出版会）

第18回（平成17年度）
一般部門　新倉俊一　『評伝　西脇順三郎』（慶應義塾大学出版会）
学術部門　佐藤康邦　『カント『判断力批判』と現代―目的論の新たな可能性を求めて―』（岩波書店）

第19回（平成18年度）
一般部門　大泉光一　『支倉常長　慶長遣欧使節の真相―肖像画に秘められた実像―』（雄山閣）
学術部門　今道友信　『美の存立と生成』（ピナケス出版）

第20回（平成19年度）
一般部門　岩下尚史　『芸者論　神々に扮することを忘れた日本人』（雄山閣）
学術部門　伊藤邦武　『パースの宇宙論』（岩波書店）

第21回（平成20年度）
一般部門　岡谷公二　『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久助・杉浦佐助・中島敦』（冨山房インターナショナル）
学術部門　森　一郎　『死と誕生　ハイデガー・九鬼周造・アーレント』（東京大学出版会）

第22回（平成21年度）
一般部門　今橋理子　『秋田蘭画の近代　小田野直武「不忍池図」を読む』（東京大学出版会）
学術部門　互　盛央　『フェルディナン・ド・ソシュール　〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』（作品社）

第23回（平成22年度）
一般部門　杉田弘子　『漱石の『猫』とニーチェ　稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』（白水社）
学術部門　権左武志　『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』（岩波書店）

第24回（平成23年度）
一般部門　末延芳晴　『正岡子規、従軍す』（平凡社）
学術部門　中畑正志　『魂の変容　心的基礎概念の歴史的構成』（岩波書店）

第25回（平成24年度）
一般部門　劉　岸偉　『周作人伝　ある知日派文人の精神史』（ミネルヴァ書房）
　　安住恭子　『『草枕』の那美と辛亥革命』（白水社）
学術部門　中島隆博　『共生のプラクシス　国家と宗教』（東京大学出版会）

第26回（平成25年度）
一般部門　池田美紀子『夏目漱石　眼は識る東西の字』（国書刊行会）
学術部門　野本和幸　『フレーゲ哲学の全貌　論理主義と意味論の原型』（勁草書房）

第27回（平成26年度）
一般部門　亀井俊介　『有島武郎　世間に対して真剣勝負をし続けて』（ミネルヴァ書房）
学術部門　稲垣良典　『トマス・アクィナスの神学』（創文社）
　　『トマス・アクィナス　「存在」の形而上学』（春秋社）

第28回（平成27年度）
一般部門　勝又　浩　『私小説千年史　日記文学から近代文学まで』（勉誠出版）
学術部門　佐藤　光　『柳宗悦とウィリアム・ブレイク　環流する「肯定の思想」』（東京大学出版会）

第29回（平成28年）
一般部門　山口謡司　『日本語を作った男　上田万年とその時代』（集英社インターナショナル）
学術部門　野矢茂樹　『心という難問　空間・身体・意味』（講談社）

第30回（平成29年度）
一般部門　保阪正康　『ナショナリズムの昭和』（幻戯書房）
学術部門　竹峰義和　『〈救済〉のメーディウム　ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』（東京大学出版会）

第31回（平成30年度）
一般部門　平川　新　『戦国日本と大航海時代　秀吉・家康・政宗の外交戦略』（中央公論新社）
学術部門　石川　求　『カントと無限判断の世界』（法政大学出版局）
第32回（平成31年度／令和元年度）
一般部門　白川方明　『中央銀行　セントラルバンカーの経験した39年』（東洋経済新報社）
学術部門　松井裕美　『キュビスム芸術史　20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』（名古屋大学出版会）
第33回（令和２年度）
一般部門　サンドラ・シャール『『女工哀史』を再考する―失われた女性の声を求めて』（京都大学学術出版会）
学術部門　宮本久雄　『パウロの神秘論　他者との相生の地平をひらく』（東京大学出版会）
第34回（令和3年度）
一般部門　三浦　篤　『移り棲む美術　ジャポニスム、コラン、日本近代洋画』（名古屋大学出版会）
学術部門　納富信留　『ギリシア哲学史』（筑摩書房）
第35回（令和4年度）
一般部門　多胡吉郎　『生命（いのち）の谺　川端康成と「特攻」』（現代書館）
学術部門　渋谷治美　『カントと自己実現―人間讃歌とそのゆくえ』（花伝社）
第36回（令和5年度）
一般部門　小坂洋右　『アイヌの時空を旅する―奪われぬ魂』（藤原書店）
学術部門　嶺　秀樹　『絶対無の思索へ　コンテクストの中の西田・田辺哲学』（法政大学出版局）
第37回（令和6年度）
一般部門　平井健介　『日本統治下の台湾―開発・植民地主義・主体性―』（名古屋大学出版会）
学術部門　鷲田清一　『所有論』（講談社）

（1）　特別展「没後10年　作家車谷長吉展」



姫路市出身の作家車谷長吉（1945‐2015）の没後10年を記念した大規模な回顧展。

作家の没後、夫人の高橋順子氏との間で、没後10年を節目に何か企画をという話が生まれ、2014年8月に東京都文京区の作家宅・通称「蟲息山房」に遺されていた遺品約2,200件を当館に搬送、12月に寄贈手続きが交わされた。

当館では、作家の生前2007年に「車谷長吉展」を開催しているが、今回は、これら膨大な資料によって、その69年の生涯の実像に、より肉薄することができ、結果、前回の展覧会よりも多くの観覧者を得た。

展覧会冒頭に展示した、当館との信頼関係が生じる以前の講演依頼への痛烈な断り状は、車谷長吉という反時代的作家像を如実に示す資料として注目を集めた。一方でその繊細な感性を示す恋文絵や書き損じの手紙群、愛らしい小物類、さらに最後に展観した三畳間の書斎復元にも感動の声が寄せられた。

会期中は、全国から多くの熱心なファンが駆けつけ、展示室で涙を見せる方もあるなど、あらためて読者との距離が近く、それぞれの心に深く刻まれた特別な作家であることがうかがえた。また、図録も好評を博し、会期中に完売した。本図録にご寄稿いただいた万城目学氏をはじめとし、松永Ｋ三蔵氏、吉村萬壱氏、小谷野敦氏、前田隆壱氏など現役作家の来訪も相次ぎ、作家に愛されるライターズ・ライターであったという側面も没後10年を経て照らし出された。

会　　期	令和７年（2025年）4月19日（土）～6月22日（日）
	※休館日：毎週月曜日（5月5日は開館）、5月7日（水）
会　　場	姫路文学館　北館
観 覧 料	一般800円、大学生・高校生460円、中学・小学生220円
	※20名以上の団体は２割引
主　　催	姫路文学館
開催日数	56日間
観覧者数	3,139人
出品点数	約500点
印刷物等	ポスターＡ３／チラシＡ４
図　　録	Ａ４判　40ページ　オールカラー　650部
	令和７年４月19日刊行
	販売価格1,000円
	〔寄稿〕
	「車谷長吉が愛したものたち」　高橋順子（詩人）
	「三度目のご挨拶」　万城目学（作家）

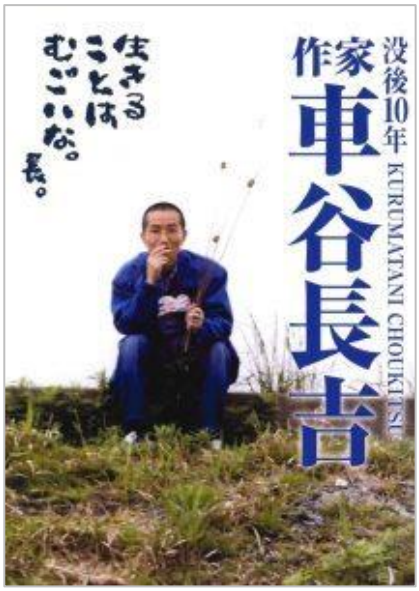


図　録

水屋珈琲（南館１階）提供　コラボメニュー

「車谷さんちの朝ごはん」

「アヤちゃんのミルクセーキ」

「晋平ちゃんのみっくすじゅーす」



開会式





第１会場



第２会場（書斎復元）

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂

（１）オープニング記念対談

「私だけが知っている車谷長吉」

日　時　　令和７年４月19日（日）　午後１時30分～３時

出　演　　高橋順子（詩人）

前田速夫（元「新潮」編集長）

進行：竹廣裕子（当館学芸員）

参加者　　250人



記念対談

（２）「抜髪」朗読会

日　時　　令和７年６月21日（日）　午後２時～２時30分
出　演　　小林みね子（劇団プロデュース・F）
　　福本サトミ（パーカッション）
参加者　　200人



左から小林みね子氏、福本サトミ氏

（３）展示解説会

講　師　　竹廣裕子（当館学芸員）
第１回　誕生から料理人時代の終わり（37歳まで）
　日　時　５月17日（土）　午後１時30分～３時
　参加者　100人
第２回　再上京後の作家生活（38歳以降）
　日　時　６月７日（土）　午後1時30分～３時
　参加者　150人



展示解説会



開会式　松永Ｋ三蔵氏（左）と高橋順子氏



万城目学氏



吉村萬壱氏



高橋順子氏

出　品　目　録

提供者の記載がない資料はすべて館蔵資料

テーマ	資料名	時期等	所蔵者・提供者
	車谷長吉からの姫路文学館宛ての断絶宣言のはがき	平成 10 年（1998）8 月 2 日	
	写真　車谷長吉肖像		撮影：北村泰生
第 1 章　少年期―「喪失感」の在処	写真　両親の結婚式	昭和 19 年（1944）5 月	
	写真　生家（南東より望む）		
	写真　生家の前栽		
	写真　生家北側から門に向かう道		
	図版　少年期の生家の間取り		
	写真　両親の結婚式	昭和 19 年（1944）5 月	
	写真　生家近くを流れる野田川		
	写真　生家近くの皆光寺		
	写真　1 歳の頃		
	写真　お稚児さん姿		
	フタバ保育園の保育証書	昭和 26 年（1951）3 月	
	写真　フタバ幼稚園		冨田悦子氏提供
	写真　幼稚園の頃		
	写真　お稚児さん姿		
	メモ帳「赤地蔵」／幼稚園について	昭和 50 年（1975）	
越境入学―二重生活	写真　小学校入学の頃	昭和 27 年（1952）	
	「銀冊子」5	昭和 45 年（1970）	
	写真　飾磨小学校	飾磨小学校 100 年記念誌より	姫路市立飾磨小学校
	メモ帳「二つのネープル」	昭和 48 年（1973）	
	写真　向島橋（姫路市飾磨区玉地）		撮影：奥田正彦
	「小説ノオト」	昭和 59 年（1984 ）	
	図版　メモ帳「灰」／「廣風土記」について	昭和 60 年（1985）6 月 2 日	
	小学校 3 年生の時の絵画	昭和 29 年（1954）頃	
	学制発布八十周年記念総合文化展覧会図画部金賞賞状	昭和 28 年（1953）11 月 3 日	
	王様商会芸術部の絵画展銀賞賞状	昭和 28 年（1953）11 月	
	図版　11 歳の時の年賀状(北村泰生宛)	昭和 32 年（1957）1 月	
	小学校時代の通信簿		
	写真　小学校 3 年生の頃（左）	昭和 29 年（1954）飾磨区細江で。	
	カバヤ文庫「月世界探検旅行」	昭和 28 年（1953）	
	『豊臣秀吉　太閤の巻』	昭和 13 年（1938）12 月 大日本雄辨會講談社	
	痛快時代絵物語『少年宮本武蔵』	昭和 30 年（1955）5 月　光文社	
	田中正雄作『ダルマくん』	昭和 31 年（1956）6 月　光文社	
	将棋の駒と花札		
	写真　劇の舞台で		
	小学校卒業の際、学業優秀者に贈られた賞状	昭和 33 年（1958）3 月	
	高橋順子宛絵手紙／「原田実君」について	平成元年（1989）4 月 30 日	
	「小説ノオト」	平成元年（1989）2 月 11 日	
	「文學界」（「金輪際」）	平成 7 年（1995）7 月	
十二歳－「置いてきぼり」	メモ帳「向嶋の雨」／中学進学時について	昭和 59 年（1984）	
	姫路市立飾磨中部中学校	第 13 回（1960）卒業アルバム	姫路市立飾磨中部中学校
	兵庫県下鉱物・岩石標本		
	顕微鏡（大・小）		
	石の彫刻		
	中学時代の通信簿		
十五歳の老人―人生のはじまり			
	28 歳の頃の手紙の下書き	昭和 48 年（1973）頃	
	写真　姫路市立飾磨高等学校	昭和 39 年（1964）卒業アルバムより	姫路市立飾磨小学校
	写真　飾磨高等学校入学の年、16 歳の夏	昭和 36 年（1961）8 月	撮影：北村泰生
	図版「銀冊子」5／姫路西高受験失敗について	昭和 45 年（1970）	
	原稿「お母ん」「母息子どんぶりの哀しさ」	昭和 47 年（1972）～48 年（1973）頃	
	手紙の下書き	昭和 48 年（1973）頃	
	母からの手紙	昭和 50 年（1975）7 月 16 日	
	蓄膿のこと「銀冊子」5（図版）	昭和 45 年（1970）	
	「小説ノオト」	昭和 62 年（1987）	
	未投函の絵手紙	昭和 62 年（1987）	
	蓄膿症の手術についてのメモ	昭和 59 年（1984）	
	写真　16 歳、自宅で。	昭和 36 年（1962）1 月	
	写真　16 歳の冬　白浜町の大年神社で	昭和 37（1962）年 1 月	撮影：北村泰生
	写真　御輿塚古墳（姫路市北平野）		
	写真　大学受験の頃（右）	昭和 39 年（1964）2 月	撮影：北村泰生
	図版　従兄の北村泰生宛はがき	昭和 38 年（1963）8 月 12 日付	
第 2 章　東京の十年　汝はだれか	写真　父と日比谷公園で	昭和 39 年（1964）	
田舎者の慶應ボーイ	図版「おぞうきん」で顔を洗って出直して来い」日記	昭和 48 年（1973）	
	写真　慶應義塾大学図書館（旧館）		
	フランツ　カフカ作品集	1965 年　ドイツ・フィッシャー版	
	「ボナペントゥラの夜警」原書	1964 年　ドイツ　RECLAM 版	
	「戯ればむ」原稿	昭和 39 年（1964）	
	「駟路」通巻 19 号（「起承転結のない話」）	昭和 40 年（1965)11 月	

	「駆路」通巻 22 号（「罪」）	昭和 41 年（1966）2 月	
	「駆路」通巻 47 号（「寓話　一蛙の嘘―」）	昭和 43 年（1968）4 月	
	写真　大学 1 年生の夏　東尋坊にて	昭和 39 年（1964）	
	写真　20 歳の頃	昭和 40 年（1965）7 月	撮影：北村泰生
	写真　姫路城にて	昭和 40 年（1965）3 月	撮影：北村泰生
	写真　大学 1 年生の時、多摩川にて	昭和 39 年（1964）	撮影：北村泰生
	大学時代の文庫本		
	最初期の創作ノート	昭和 41 年（1966）	
	車谷縉「汝はだれか」原稿	昭和 41 年（1966）	
	ガリ版刷文学雑誌「風船」	昭和 41 年（1966）	
青春の独白―銀冊子	図版「銀冊子」（5 冊）表紙		
	「銀冊子」1／李長吉の詩	昭和 41 年（1966）頃か	
	「現代詩手帖」（草森紳一「垂翅の客―李長吉伝―（1）」）	昭和 40 年（1965)9 月号	
	「「駄目でもともと」では納得できない日記」/草森紳一	昭和 48 年（1973）1 月 20 日	
	写真　大学時代に暮した女塚辺り	東京都大田区西蒲田	
	『女塚　車谷長吉初期作品輯』	平成 17 年（2005）4 月　作品社	
同居人「K」	「銀冊子」2（先輩「K」についての記述）	昭和 42 年（1967）	
	春日原浩（中原一浩）著『幽霊作家は慶應ボーイ』	平成 8 年（1996）9 月　藝神出版社	
	春日原浩『阿佐田哲也　色川武大　人生修羅場ノオト』	平成 11 年（1999）3 月　KK ベストセラーズ	
	小説のメモ／春日原との共同生活をテーマ	時期不詳	
	関西時代の書き損じはがき（春日原浩と大喧嘩）	宛先不明　時期不詳	
	図版「なりゆきまかせ日記」/春日原浩　僕の神・永遠の恋人	昭和 46 年（1971）7 月 13 日	
	大学時代に書いた原稿群		
	大学提出レポート「猿と断食芸人」	昭和 42 年（1967）9 月 3 日	
	卒業論文「フランツ・カフカと藝術」	昭和 43 年（1968）1 月	
三味線を習う営業マン	写真　大学卒業の日、母と	昭和 43 年（1968）3 月	
	写真　「刑務所裏」のアパート跡	東京都中野区沼袋	
	写真　豊多摩刑務所があった辺り	東京都中野区沼袋	
	坂本忠雄宛はがき	昭和 43 年（1968）12 月 10 日	
	「苦い欠伸」原稿（坂本忠雄書き込み）	昭和 43 年（1968）～44 年（1969）頃	
	愛用の三味線		
	図版「銀冊子」5（三味線（長唄）の稽古について）	昭和 45 年（1970）	
	「銀冊子」3／父母について	昭和 43 年（1968）	
	詩稿「北の冬夜」	昭和 43 年（1968）	
	「銀冊子」4／就職後の心境	昭和 45 年（1970）1 月 9 日	
	図版「銀冊子」5／仕事を辞める頃	昭和 45 年（1970）	
	写真　アパート「石静荘」跡（東京都新宿区高田馬場）		
最後尾へ―風呂桶の中の魚	『西行全歌集』（創元社文庫）	昭和 27 年（1952）11 月	
	永井龍男『青梅雨』（新潮文庫）	昭和 46 年（1971）4 月	
	図版「銀冊子」5／三島由紀夫についての記述	昭和 45 年（1970）	
	般若心経の写経		
	写真　深澤七郎とラブミー農場で（埼玉県菖蒲町）	昭和 46 年（1971）1 月	
	車谷の蔵書の深澤七郎著作		
	取材原稿「あこがれの味噌屋七兵衛さん」	昭和 46 年（1971）1 月	
	「なりゆきまかせ日誌」／郷土の因習について	昭和 46 年（1971）9 月 8 日	
	図版「なりゆきまかせ日誌」／職場の先輩からの罵声	昭和 46 年（1971）11 月 7 日	
	「新潮」（「なんまんだあ絵」）	昭和 47 年（1972）3 月号	
	「葬殮餅」初期稿	昭和 47 年（1972）	
	「あれッ、そういう訳だったの日誌」／「葬殮餅」がボツ	昭和 47 年（1972）9 月 22 日	
	母からの手紙	昭和 47 年（1972）11 月 2 日 昭和 48 年（1973）5 月 7 日	
	当時の原稿「おむめはん」		
	同人雑誌「轆」創刊号	昭和 47 年（1972）11 月	
	「「おぞうきん」で顔を洗って出直して来い日記」／スランプについて	昭和 48 年（1973）4 月 9 日	
	メモ帳「緑のぶどう」／「僕は行き詰った」	昭和 49 年（1974）9 月頃	
	坂本忠雄宛書簡／前借り礼状	昭和 49 年（1974）10 月 27 日	
	「贋風土記」初期稿断簡		
	丸坊主にした日の記述がある手帳	昭和 49 年（1974）6 月 16 日	
	手帳	昭和 50 年（1975）3 月 19 日	
	写真　「火の子」のあったビル（東京都新宿区西新宿区）		
	『火の子の宇宙』	昭和 57 年（1983）冬樹社	
	図版　「新潮」（「贋風土記」）	昭和 50 年（1975）5 月号	
	両親宛て手紙下書き	昭和 50 年（1975）	
	写真　昭和 50 年（1975）夏		撮影：北村泰生
	両親宛て手紙下書き／今後の生計について	昭和 50 年（1975）	
	メモ帳「赤地蔵」／「明日姫路の在所に帰る」	昭和 50 年（1975）	
第 3 章　関西の七年半―贋世捨人	前田速夫　車谷長吉宛書簡	昭和 50 年（1975）11 月 13 日付	
あかん男―「漂流物」時代	帰郷した翌日の日記	昭和 51 年（1976）1 月 29 日	
	帰郷後間もない頃	昭和 51 年（1976）4 月頃	撮影：北村泰生
	水野昭二著『今晩から役に立つ食卓の知恵』	昭和 46 年（1971）5 月　昭和書院	
	当時の日記「凹型の日常」	昭和 51 年（1976）7 月 22 日	
	田辺聖子『あかん男』（新潮文庫）	昭和 50 年（1975）10 月 30 日	
	尾崎一雄『暢気眼鏡』（新潮文庫）	昭和 40 年（1965）	

	幸田文『流れる』（新潮文庫）	昭和 53 年（1978）
	編集者・坂本忠雄に修行への覚悟を綴ったはがき	昭和 51 年（1976）12 月 8 日
	メモ帳「竹の戦き」／「調理師見習」のメモ	昭和 51 年（1976）
	写真　母と	昭和 51 年（1976）頃
	「柿傳」時代の坂本忠雄宛はがき	昭和 52 年（1977）6 月 24 日
	「料理ノオト」	
	メモ帳「修行日記」／「可愛い女」（新稿）のためのメモ	昭和 52 年（1977）
	「柿傳」時代の「失敗日記」	昭和 52 年（1977）6 月 23 日～7 月 27 日
	「柿傳」を辞める頃のはがき（未投函）	昭和 52 年（1977）
	料理人時代に着ていたオーバーコート	
	A6 判　メモ帳　8 冊	
	写真　「紅本陣」（姫路市岡町）	
	写真　「柿傳」時代	昭和 52 年（1977）
	写真　現在の「柿傳」（京都市上京区西洞院通）	
	写真　神戸時代に暮らした諏訪山付近（神戸市中央区諏訪山町）	
	写真　西宮時代に働いていた辺り（西宮市高松町）	
	写真　「朱雀」のあったビル（尼崎市神田南通り）	
	写真　「ゆかり」のあったビル（大阪市北区曽根崎新地）	
	写真　「はり半」のあった堺東高島屋地下食堂街（大阪府堺市堺区三国ケ丘）	
	写真　堺東高島屋（大阪府堺市堺区三国ケ丘）	
	写真　反正天皇陵	
	写真　三和市場（尼崎市建家町）	
	尼崎の「朱雀」に移った頃の坂本忠雄宛はがき	昭和 53 年（1978）2 月 15 日
	「朱雀」時代の日記	昭和 53 年（1978）
	坂本忠雄宛書簡／これまでの感謝と別れ	昭和 53 年（1978）4 月 25 日
	坂本忠雄宛書簡／小説やめる	昭和 54 年（1979）10 月 18 日
	坂本忠雄宛書簡／やっぱり書く	昭和 54 年（1979）10 月 28 日
	手紙の下書き／小料理屋経営計画	昭和 54 年（1979）頃
	メモ帳「緑の稲」／出店試算	昭和 54 年（1979）
	メモ帳「Le Mozart blue」／遺書の下書き	昭和 55 年（1980）2 月
	メモ帳「やあ青い、田んぼはすっかり青い」／恋文絵	昭和 54 年（1979）
	恋文絵　71 通	昭和 54 年（1979）10 月～昭和 55 年（1980）2 月
	「エーリヒ・ケストナー博士の抒情的救急箱」ノート	
	ドイツ語辞書	昭和 52 年（1977）三修社
	高橋健二訳『ケストナー博士の抒情詩・家庭薬局』	昭和 58 年（1983）かど創房
「萬蔵の場合」―芥川賞候補	写真　36 歳頃	昭和 56 年（1981）
	当時の日記（図版）	昭和 55 年（1980）3 月～昭和 57 年（1982）1 月
	日記	昭和 56 年（1981）6 月
	坂本忠雄宛添状／「萬蔵の場合」の原稿送付	昭和 56 年（1981）4 月
	坂本忠雄宛添状／「萬蔵の場合」掲載の喜び	昭和 56 年（1981）6 月
	「新潮」（「万蔵の場合」）	昭和 56 年（1981）8 月号
	芥川賞受賞の言葉草案	昭和 56 年（1981）
	単行本刊行の計画について（下書き）	昭和 56 年（1981）
	「なんまんだあ絵」の推敲稿	昭和 56 年（1982）頃
	写真　関西時代	昭和 56 年（1982）2 月
	写真　奈良・月ヶ瀬の梅林で	昭和 56 年（1982 ）3 月頃
	メモ帳「鳧の声」／芥川賞落選についての記述	昭和 57 年（1982）2 月 11 日
	「小説ノオト」／「児玉まで」の構想メモ	昭和 57 年（1982）～58 年（1983）頃
	「文學界」「雨過ぎ」（「ある平凡」と改題）	昭和 57 年（1982）5 月号
「ふみ」に慰められた日々	日記／「ふみ」での出来事（図版）	昭和 56 年（1981）4 月 23 日、5 月 6 日、6 月 4 日、6 月 9 日
	写真　のちに「ふみ」にて	平成 19 年（2007）6 月
第 4 章　再びの東京―命のやりとり	再上京を決めた頃の日記	昭和 58 年（1983）6 月 8 日～7 月 5 日
	長七首「粟田口近江守忠綱」	
	メモ帳「花と柳」／再上京を告げた時の母との会話	昭和 60 年（1985）
	俳句色紙「納屋の横失意の父が落葉焚く。」	
	図版「小説ノオト」／小説のテーマリスト	昭和 58 年（1983）
	写真　両親	昭和 52 年（1977）頃
	「新潮」（「児玉まで」）	昭和 58 年（1983）10 月号
蝸牛の歩み―「吃りの父が歌った軍歌」	写真　再上京後、最初に住んだアパートの跡地（東京都文京区白山）	
	松浦寿輝『そこでゆっくりと死んでいきたい気持ちをそそる場所』	平成 16 年 11 月　新潮社
	メモ帳「巣鴨」／「根無草」	昭和 58 年（1983）
	日記／上京直後	昭和 58 年（1983）8 月 10 日
	「吃りの父が歌った軍歌」構想メモ	昭和 59 年（1984）
	「小説ノオト」	昭和 59 年（1984）
	メモ帳「あのをなごの髪」／「佛滅さん」書き上げる	昭和 59 年（1984）12 月 23 日
	編集者への手紙の下書き	昭和 59 年（1984）
	創作メモ「花と柳」／「吃り…」題名代替案	昭和 60 年（1985）
	「新潮」（「吃りの父が歌った軍歌」）	昭和 60 年（1985）5 月号
	図版　メモ帳「花と柳」／「私小説は廃れ物」	昭和 60 年（1985）4 月 28 日
	メモ帳「花と柳」／「文学と命の遣り取りをする。」	昭和 60 年（1985）5 月 10 日

	メモ帳「灰」／「葬られた」「生埋めにされた」	昭和 60 年（1985）6 月 14 日
	メモ帳「あの青空」／孤独だけが私の根拠地	昭和 61 年（1986）12 月 13 日
	麻生やや作　少女の球体関節人形	
	「小説ノオト」／「人形のいいところ。」	平成 2 年（1990）
	『トランスモダンの作法』 『零の修辞学　歴史の現在』	平成 4 年（1992）6 月　リブロポート
	メモ帳「大雪の午後」／白洲正子の高評	昭和 61 年（1986）1 月 24 日
	白洲正子からの最初の手紙	昭和 62 年（1987）12 月 8 日
	写真　白洲正子と	平成 10 年（1998）
	白洲正子原稿「蜘蛛と金盥」	平成 4 年（1992）
	「文學界」／白洲正子対談「人の悲しみと言葉の命」	平成 10 年（1998）9 月号
生の時間―高橋順子との運命	メモ帳「函館の市電」／お前は誰からも愛されるな。	昭和 62 年（1987）4 月
	「マリ・クレール」	昭和 63 年（1988）5 月
	写真　高橋順子	
	高橋順子への最初の絵手紙	昭和 63 年（1988）9 月 11 日
	高橋順子からの返信	昭和 63 年（1988）10 月
	その後の高橋順子宛絵手紙（9 通）	平成元年（1989）
	「小説ノオト」／絵手紙天地逆について（図版）	昭和 63 年（1988）11 月 13 日
	高橋順子からの年賀状	昭和 64 年（1989）1 月
	図版「小説ノオト」／昭和 64 年（1989）元日日記	昭和 64 年（1989）1 月 1 日
	写真　転居先のアパート「岩下ハイツ」（東京都文京区千石）	
	坂本忠雄宛転居通知はがき	平成元年（1989）11 月 17 日
	写真　当時よく通った定食屋「さくら」	東京都文京区千石
	「小説ノオト」／「言うたらあかん…」	平成元年（1989）～2 年（1990）
	「とい」土竜　'90（「近什」）	平成 2 年（1990）5 月
	高橋順子詩集『幸福な葉っぱ』	平成 2 年（1990）7 月　書肆山田
	「花椿」486 号　第 8 回花椿賞発表号	平成 2 年（1990）
	写真　当時、高橋が暮らしていたアパート	東京都新宿区住吉町
	「花椿賞」パーティーに参加した日の日記	平成 2 年（1990）11 月 27 日
	高橋に初めて会った日の日記	平成 2 年（1990）12 月 31 日
	高橋に贈った積み木のレシート（図版）	平成 2 年（1990）
	宛先不明の未投函のはがき	時期不詳
	絵手紙の書き損じ	
	高橋順子宛に再開された絵手紙	
	写真　西印旛沼にて	47 歳頃
生前の遺稿―「鹽壺の匙」	「銀冊子」3／叔父の死について	昭和 43 年（1968）
	叔父の遺品　高坂正顯「ニーチェ」文庫本	昭和 27 年（1952）　弘文堂
	写真　叔父黒田宏之	昭和 31 年（1955）頃か
	写真　29 歳の時、取材のため初めて訪れた坊勢島で	昭和 50 年（1975）4 月 28 日
	家島取材ノート	昭和 50 年（1975）
	「鹽壺の匙」初期稿	昭和 60 年（1985）
	「小説ノオト」／「小説にとって大事なものは二つ」	
	「小説ノオト」／「鹽壺の匙」構想メモ	昭和 60 年（1985）6 月 2 日
	メモ帳「大雪の午後」／いったん書き上げた日の記述	昭和 60 年（1985）12 月 1 日
	「小説ノオト」／編集者からの駄目だしの記述	昭和 60 年（1985）12 月 5 日
	遺書	平成 2 年（1990）9 月 22 日
	「小説ノオト」／父の亡くなった日の記述（図版）	平成 3 年（1991）7 月 24 日
	写真　父の葬儀	平成 3 年（1991）7 月
	詩「業柱抱き」草稿	平成 2 年（1990）
	「小説ノオト」／「鹽壺の匙」書き上げた日の記述	平成 3 年（1991）9 月 1 日
	「小説ノオト」／『抜髪』書肆とい上板　目次案等（図版）	平成 3 年（1991）9 月
	前受金 100 万円の仮領収証	平成 3 年（1991）9 月 6 日
	日記／新潮社からの出版に悩む	平成 3 年（1991）11 月
	日記／作品を商品化することへの戸惑い	平成 4 年（1992）2 月 4 日
	高橋順子からのはがき／新潮社からの出版をすすめる	平成 4 年（1992）2 月 14 日
	「新潮」（「鹽壺の匙」）	平成 4 年（1992）3 月号
	『鹽壺の匙』	平成 4 年（1992）10 月　新潮社
	支払い通知書	平成 4 年（1992）11 月
	芸術選奨文部大臣新人賞賞状	平成 5 年（1993）3 月
	芸術選奨文部大臣新人賞の受賞を報告する高橋順子へのはがき	平成 5 年（1993）2 月 19 日
	高橋順子からの祝いはがき	平成 5 年（1993）2 月 23 日
	高橋順子への礼状	平成 5 年（1993）2 月 25 日
	高橋順子への礼状	平成 5 年（1993）3 月 15 日
	「新潮」（第 6 回三島由紀夫賞発表号）	平成 5 年（1993）7 月号
	三島由紀夫賞正賞時計	
	高橋順子からの書簡／思い告白	平成 5 年（1993）6 月 25 日
	高橋順子宛書簡／高橋の思いを受けて	平成 5 年（1993）6 月 27 日
	写真　岩手安比高原にて	平成 5 年（1993）8 月
	高橋順子からのはがき	平成 5 年（1993）9 月 2 日
	ベルリンの旅のアイテナリー（旅程）	平成 5 年（1993）9 月 5 日ー　15 日
	写真　新婚の家の前で（東京都文京区千駄木）	平成 6 年（1994）夏
	写真　虫を見つめる	平成 6 年（1994）頃
	写真　新婚の家の玄関からの眺め	

	写真　自筆の渋江抽斎「述志の詩」と	
	書「渋江抽斎　述志の詩」	
	書画「車谷長吉　述志の詩」	
	前田富士男宛　結婚報告はがき	平成 5 年（1993）10 月 4 日
	入籍後間もない頃のメモ	平成 5 年（1994）11 月 18 日
	俳句色紙「新妻の口髭を剃る薄暑かな。車谷長吉。」	
	俳句色紙「嫁が髪洗ふてみだる涅槃西風。車谷長吉。」	
書き損じの手紙	書き損じのハガキ群	
	上野千鶴子宛の絵手紙の反古	
	俳句色紙「人一人殺せしあとの新茶かな。車谷長吉。」	
	俳句色紙「変人も見上げる秋のあかね雲。車谷長吉。」	
	俳句色紙「淡雪やいよよ深まる我が業は。車谷長吉。」	
第 5 章 反時代的毒虫―作家車谷長吉。	「人間一生二萬六千日」草稿	平成 6 年（1994）
原稿は私の命―「神さまに向って」	「新潮」（「抜髪」）	平成 6 年（1994）8 月号
	『抜髪』	平成 8 年（1996）7 月 1 日　湯川書房
	「週刊新潮」	平成 6 年（1994）7 月 28 日号
	「抜髪」について編集者たちの意見メモ	
	白洲正子書簡	平成 6 年（1994）7 月 8 日
	「漂流物」推敲原稿	
	「文學界」（「漂流物」）	平成 7 年（1995）2 月号
	奥本大三郎が描いてくれた蝶の絵	平成 7 年（1995）7 月
	原稿「Kleine Erzählungen　淋しさ骨牌(カルタ)」（畸篇小説集「愚か者」初期稿）	
	「口藝のいろいろ」メモ	平成 5 年（1993）～6 年（1994）頃
	「物の怪」草稿	平成 5 年（1993）～6 年（1994）頃
	写真　河川敷を散歩	平成 6 年（1994）9 月 17 日
執念―「赤目四十八瀧心中未遂」	はがき（コピー）／尼崎について（図版）	昭和 53 年（1978）2 月（推定）
	「失戀日記」／赤目四十八瀧に出掛ける前日	昭和 55 年（1980）8 月 25 日
	写真　赤目四十八瀧で	昭和 55 年（1980）8 月 26 日
	メモ帳「川鴉」／「赤目四十八瀧心中」の文字	昭和 55 年（1980）
	メモ帳「巣鴨」「小説ノオト」/「アヤちゃん」構想	昭和 58 年（1983）・59 年（1984）
	小説ノオト／「『赤目四十八瀧心中未遂』執念で仕上げる」	平成元年（1989）
	「赤目四十八瀧心中未遂」初期稿	時期不詳
	「小説ノオト」／高橋順子宛書簡下書き	平成 3 年（1991）9 月
	「赤目四十八瀧心中未遂」創作メモ	時期不詳
	「赤目四十八瀧心中未遂」初期稿冒頭部分と「赤目四十八瀧心中未遂」ノオト	時期不詳
颱風―癲狂院日乗	写真　転居した家	文京区千駄木 5 丁目
	心の変調への恐れを綴ったメモ	時期不詳
	生の怖れについて　メモ	時期不詳
	写真　取手大花火大会で	平成 8 年（1996）7 月 27 日
	「文學界」（「赤目四十八瀧心中未遂」連載第 1 回）	平成 8 年（1996）11 月
	写真　関西への取材	平成 8 年（1996）8 月
	写真　台所で鯛をさばく	平成 9 年（1997）7 月 3 日
	写真　平林たい子賞受賞式	平成 9 年（1997）7 月 11 日
	高橋順子詩集『時の雨』	平成 8 年（1996）11 月　思潮社
	平林たい子賞正賞時計	
	俳句色紙「職のない男の背中に百舌鳥の鳴く。」	
男子の本懐－直木賞受賞	『赤目四十八瀧心中未遂』	平成 10 年（1998）1 月　文藝春秋
	写真　受賞会見　二次会	平成 10 年（1998）7 月 16 日
	「オール讀物」第 119 回直木賞発表号	平成 10 年（1998)9 月
	「直木賞修羅日乗」が掲載された「文藝春秋」	平成 10 年（1998）10 月
	第 119 回直木賞目録と正賞の懐中時計	
	直木賞お祝いへの礼状	平成 10 年（1998）
	書店のショーウィンドウ	平成 10 年（1998)9 月
	書店でのサイン会	平成 11 年（1999）1 月
	江藤淳との対談「私小説に骨を埋める」	「文學界」平成 10 年（1998）3 月号
	映画「赤目四十八瀧心中未遂」台本と初号（試写会）の案内状	平成 15 年（2003）
	寺島しのぶ書簡	平成 15 年（2003）
	写真　上映館を訪れた際	
	「赤目四十八瀧心中未遂」ポスター	
	パンフレット	平成 15 年（2003）
	映画　赤目四十八瀧心中未遂　大全	平成 17 年（2005）3 月　株式会社アートン
	写真　姫路での上映会のもよう	平成 16 年（2004）5 月３０日
	販促グッズ	
	書作品「悲生悟中」	平成 17 年（2005）頃
	書作品「愚者壹得」	平成 17 年（2005）頃
	書作品「心遊寂滅」	平成 17 年（2005）頃
終の住処―蟲息山房の日々	終の住処となった路地裏の家（左）	平成 18 年（2006）頃撮影
	カブトムシの「武蔵丸」と	平成 11 年（1999）
	大野隆司作　版画「しみじみとした暮らしがしたい」	平成 29 年（2017）4 月
	「武蔵丸」	「新潮」平成 12 年（2000）2 月号
	「蟲息山房」	

	第 27 回川端康成賞正賞		
	「武蔵丸」ドイツ語版	2000 年　CASS	
	武蔵丸のアートブック	平成 25 年（2013）	
	写真　姫路での講演（姫路市市民会館大ホール）	平成 14 年（2002）8 月 1 日	
	姫路文学館特別展の会場で母と（姫路文学館）	平成 19 年（2007）10 月 12 日	
	姫路で着用していた防弾チョッキ		
	姫路市芸術文化大賞を受賞（姫路キャッスルホテル）	平成 20 年（2008）3 月 21 日	
	遍路姿で西二階町を歩く	平成 20 年（2008）3 月 20 日姫路市	
	「文學界」（「忌中」）	平成 15 年（2003）11 月	
	小説「忌中」（平成 15 年）の元となった夕刊記事コピー（朝日夕刊、日経新聞夕刊、毎日新聞夕刊）	昭和 59 年（1984）8 月 18 日	
	「鹽壺の匙」補遺	「新潮」平成 14 年（2002）12 月号	
	坊勢小学校の子供たちと黒田先生		
	坊勢　弁天島海神社にて	平成 14 年（2002）8 月 2 日	
	「古墳の話」	「群像」平成 15 年（2003）4 月号	
	「古墳の話」に登場する祝詞の実物		
	「小説ノオト」/創作ノートに書かれた瓢塚古墳についてのメモ	平成 12 年（2000）	
	写真　瓢塚古墳にて	平成 14 年（2002）8 月	撮影：北村泰生
	御奥塚古墳（姫路市北平野）	平成 14 年（2002）8 月	撮影：北村泰生
	木庭山古墳（姫路市木場）	平成 14 年（2002）8 月	撮影：北村泰生
	「凡庸な私小説作家廃業宣言」	「新潮」平成 17 年（2005）2 月号	
	「灘の男」	「文學界」平成 17 年（2005）4 月	
	『灘の男』	平成 19 年（2007）5 月 15 日文藝春秋	
	写真　16 歳の頃　松原・桜大刀自神社で	昭和 36 年（1961）8 月	撮影：北村泰生
	写真　アルバムの中にあった灘祭り風景		
	写真　灘祭りで	平成 14 年（2002）10 月 15 日	
	掛軸「乳母車寺へ消えゆく雨月かな。」		
	掛軸「甘樫の丘に上ればきりぎりす。」		高橋順子氏蔵
	『車谷長吉全集』1～3 巻	平成 22 年（2010）	
旅	写真　ピースボート「トパーズ号」		
	写真　夫婦で揃いで仕立てた法被を着て		
	写真　イースター島のモアイ像の前で		
	写真　月夜のデッキにて		
	写真　リオ・デ・ジャネイロのコパカバーナビーチにて		
	南アフリカ共和国、ナミビアの木彫		
	「文學界」（「世界一周恐怖航海記」）	平成 18 年（2006）3 月	
	『世界一周恐怖航海記』	平成 18 年（2006）7 月　文藝春秋	
	高橋順子はがき／世界一周の旅のお礼	平成 19 年（2007）3 月 24 日	
	写真　吉野川で	平成 20 年（2008）2 月 17 日	
	写真　第十二番焼山寺への「遍路ころがし」と呼ばれる山道で	平成 20 年（2008）2 月 18 日	
	写真　第二十八番大日寺への山道で	平成 20 年（2008）3 月 9 日	
	写真　高知の宿で		
	写真　大岐海岸で	平成 20 年（2008）3 月 24 日	
	巡礼を記録したノート	平成 20 年（2008）	
	「文學界」（「四国八十八ヶ所感情巡礼」）	平成 20 年（2008）5 月	
	「四国遍路ひとり歩き同行二人」（地図篇）		
	巡礼でもとめたお守り		高橋順子氏蔵
	『四国八十八ヶ所感情巡礼』	平成 20 年（2008）9 月　文藝春秋	
	写真　秋田・森吉山の安の滝にて	平成 19 年（2007）	
	写真　秋田・駒ヶ岳男岳にて	平成 20 年（2008）	
	写真　福島・磐梯山にて	平成 21 年（2009）	
	写真　蔵王にて	平成 23 年（2011）	
	愛用のリュックサック		
	携帯用の石鹸		
	パスポート、ピースボートの乗船証		
	俳句色紙「馬も嗅ぐ花くちなしのいのちかな。車谷長吉。」		
	俳句色紙「狐飼ふ農家の背戸に梅の花。車谷長吉。」		
	俳句色紙「啓蟄や深呼吸して歩き出す。車谷長吉。」		
暮らし	写真　蟲息山房（東京都文京区向丘）の前で		
	写真　夏目漱石旧居跡		
	写真　おばけ階段		
	写真　根津神社で		
	写真　薮下通り		
	写真　「千駄木倶楽部」跡		
	写真　ガマガエルと		
	写真　鯰の信子はん		
	写真　荒川土手にて		
	荒川・隅田川散策絵図		
	俳句ノオト		
	写真　居間で		
	写真　お好み焼きを作る		
	「うらら」／夫妻の朝食	平成 18 年（2006）創刊号	
	高橋順子『博奕好き』	平成 10 年（1998）新潮社	

	高橋順子『けったいな連れ合い』	平成 13 年（2001）　PHP 研究所	
	白洲正子揮毫「無一物」		
	写真　書斎でワープロに向かう		
	高橋順子『博奕好き』	平成 10 年（1998）　新潮社	
	高橋順子『けったいな連れ合い』	平成 13 年（2001）　PHP 研究所	
愛したもの	写真　犬張子と		
	いせ辰製犬張子		
	招き猫コレクション		
	マッチ箱コレクション		
	虫好きならではの品		
	猫の小物コレクション		
	「千駄木蟲息山房」法被		
	万年筆と「僕は萬年筆が好き」というメモ		
	帳箪笥		
	南部鉄の特大風鈴		
	愛用の布かばん		
	高橋順子の実家製の下駄		
	蛙の文鎮		
	眼鏡		
	名刺		
	落款		一部　高橋順子氏蔵
	蔵書の一部		
	（図版）「小説ノオト」／全集、著作集を全て読んだ作家	平成 12 年（2000）	
	縁起物コレクション		
慈母の存在―母・信子	母からの書簡	昭和 60 年（1985）8 月 21 日	
	日記／山陽電車飾磨駅での母との別れ（図版）	昭和 58 年（1983）8 月 9 日	
	母からのはがき	昭和 60 年（1985）8 月 12 日	
	母が車谷に頼まれて送った播磨関係の文献	昭和 60 年（1985）	
	写真　直木賞授賞式のために上京した母と	平成 10 年（1998）8 月	
	母への見舞い状	平成 23 年（2011）1 月 26 日、8 月 5 日、9 月 26 日	
	写真母の葬儀の際	平成 25 年（2013）2 月 17 日	
	手元に置いていた病床の母の写真		
	写真　生家の門で	平成 19 年（2007）6 月	
終幕－死の光			
	「俳句ノオト」の絶筆	平成 27 年（2015）2 月 5 日	
	書斎机の上にあったもの		
	写真　富士霊園・文学者の墓		
	写真　書斎につくられた祭壇		
	写真　書斎の畳に残った痕跡		
	写真　吉野川にて		
	「文學界」での追悼文	平成 27 年（2015）7 月号	
	「新潮」での追悼文	平成 27 年（2015）7 月号	
	「脈」特集号　車谷長吉の文学世界	平成 27 年（2015）11 月号	
	「三田文學」車谷長吉特集	平成 28 年（2016）秋季・特大号	
	『蟲息山房から　車谷長吉遺稿集』	平成 27 年（2015）12 月　新書館	
	高橋順子『夫・車谷長吉』	平成 29 年（2017）5 月　新書館	
	『癲狂院日乗』	令和 6 年（2024）8 月　新書館	
	高橋順子『この世の道づれ』	令和 6 年（2024）8 月　新書館	
	写真　浮野の里（埼玉県加須市）ノウルシの群生地にて	平成 6 年（1994）	

（２）　特別展「創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路」

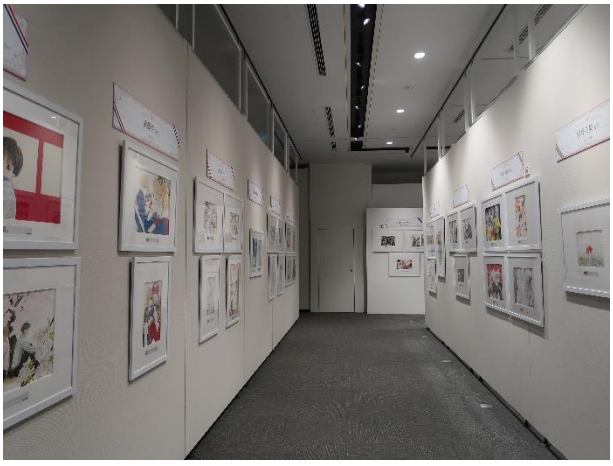


1974年に創刊された少女まんが雑誌『花とゆめ』の50周年を記念した展覧会。歴代74名の作家の原画・原稿類をじっくりと味わうことができる内容となった。「パーティー」がキーワードとなった会場では、歴代のふろくに、アニバーサリーケーキや等身大キャラクターパネル、黄金のパタリロ像などが、より一層、会場を華やかなものにした。

会場には、東北地方や九州地方、また海外からと、世代、性別、地域を超えて多くのファンたちが訪れ、半世紀にわたって魅力的な登場人物や物語を提供し続けてきた『花とゆめ』の歴史そのものを感じさせた。

草創期から現在に至るまでの作家の作品が一堂に展示されたことで、手書き原稿からデジタル原稿への変遷、社会の変化なども感じられ、観覧者に新たな発見をもたらす機会ともなった。

会　　期	令和7年（2025年）7月5日（土）～9月15日（月・祝） ※休館日：毎週月曜日（７月21日、8月11日、9月15日は開館）、７月22日（火）
会　　場	姫路文学館　北館
観 覧 料	一般1,200円、大学・高校生700円、中学・小学生340円　※20名以上の団体は２割引
主　　催	姫路文学館
企画協力	産経新聞社、白泉社
後　　援	サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティＦＭ21、ラジオ関西
開催日数	64日間
観覧者数	13,100人
出品点数	約200点
印刷物等	ポスターＢ２、Ｂ３、Ａ３／チラシＡ４





展覧会場

関連行事

（1）　師走ゆき先生サイン会
日　時　令和７年８月16日（土）
　　１回目：午前10時30分～12時
　　２回目：午後１時～２時30分
会　場　姫路文学館講堂
参加者　各回80人



サイン会

その他

来場者限定プレゼントとしてサンキューカード（絵柄は10種）を１枚進呈した。

出　品　目　録

【原画】

No.	作者名	作品名	初出時用途	初出掲載媒体
1-1	美内すずえ	ガラスの仮面	扉用イラスト	『花とゆめ』1976 年 1 号
1-2	美内すずえ	ガラスの仮面	「第 1 章第 1 回」まんが原稿	『花とゆめ』1976 年 1 号
	美内すずえ	ガラスの仮面	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1979 年 9 号
1-3	美内すずえ	ガラスの仮面	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1994 年 13 号
2-1	山岸涼子	アラベスク（第 2 部）	扉用イラスト（複製）	『花とゆめ』1975 年 5 号
	山岸涼子	アラベスク（第 2 部）	カラーまんが原稿（複製）	『花とゆめ』1975 年 1 号
2-2	山岸涼子	アラベスク（第 2 部）	扉用イラスト（複製）	『花とゆめ』1975 年 15 号
3-1	和田慎二	スケバン刑事	巻頭カラー扉用イラスト（複製）	『花とゆめ』1976 年 1 号
3-2	和田慎二	スケバン刑事	巻頭カラー扉用イラスト（複製）	『花とゆめ』1977 年 24 号
3-3	和田慎二	スケバン刑事	巻頭カラー扉用イラスト（複製）	『花とゆめ』1982 年 19 号
3-4	和田慎二	スケバン刑事	「卒業」まんが原稿（複製）	『花とゆめ』1982 年 24 号
4-1	三原順	われらはみだしっ子	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」1976 年 2 月
4-2	三原順	はみだしっ子　クリスマスローズ咲く頃	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1979 年 8 号
4-3	三原順	はみだしっ子	カレンダー表紙用イラスト	『三原順 はみだしっ子 1982 カレンダー』1981 年
4-4	三原順	はみだしっ子	LP ジャケット用イラスト	キャニオン・レコード『サウンド・コミック・シリーズ はみだしっ子』1983 年
5-1	神坂智子	シルクロード 宇宙ゆく帆船	カラーまんが原稿	『花とゆめ』1983 年 11 号
5-2	神坂智子	シルクロード 宇宙ゆく帆船	扉用イラスト	『花とゆめ』1983 年 11 号
5-3	神坂智子	シルクロード ヘディンの手帳	扉用イラスト	『花ゆめ EPO』1987 年 1 月号
6-1	魔夜峰央	パタリロ！	扉用イラスト	『花とゆめ』1979 年 14 号
	魔夜峰央	パタリロ！	扉用イラスト	『花とゆめ』1980 年 3 号
6-2	魔夜峰央	パタリロ！	LP ジャケット用イラスト	キングレコード『パタリロ！オリジナル・アルバム』1982 年
	魔夜峰央	パタリロ！	「君の名はプララ」まんが原稿	『花とゆめ』1982 年 18 号
7-1	高口里純	ワルツの似合うころ	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』1982 年 6 号
	高口里純	愛し合ってなんかいられない	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』1983 年 10 号
7-2	高口里純	ポップン・ロール胸さわぎ	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』1982 年 20 号
8-1	酒井美羽	もういちど愛して！ーミミと州青のラブコメディー	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1982 年 3 号

8-2	酒井美羽	ミルクタイムにささやいてーミミと州青のラブコメディー	雑誌ふろく「特大ポスター」用イラスト	『花とゆめ』1983 年 17 号
8-3	酒井美羽	ミルクタイムにささやいてーミミと州青のラブコメディー	扉用イラスト	『花とゆめ』1984 年 15 号
9-1	愛田真夕美	マリオネット・8　黒のコレット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1985 年 5 号
	愛田真夕美	マリオネット・5　ガラス細工の森	「第 1 回」まんが原稿	『花とゆめ』1983 年 17 号
10-1	野妻まゆみ	羽根くんの今夜はあなたにワインをふりかけ	扉用イラスト	『花とゆめ』1983 年 14 号
	野妻まゆみ	羽根くんの 10 年ロマンス	まんが原稿	『花とゆめ』1984 年 2 号
11-1	野間美由紀	パズルゲーム☆はいすくーる	2 色ページ扉用イラスト	『花とゆめ』1987 年 4 号
11-2	野間美由紀	パズルゲーム☆はいすくーる	「NOTE9」まんが原稿	『花とゆめ』1984 年 15 号
12-2	柴田昌弘	紅い牙 ブルー・ソネット	販促ポスター用イラスト	コロムビアレコード『ロック・シンフォニー 紅い牙 ブルー・ソネット』1982 年
12-1	柴田昌弘	紅い牙 ブルー・ソネット	「第 29 回」まんが原稿	『花とゆめ』1982 年 17 号
	柴田昌弘	紅い牙 ブルー・ソネット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1983 年 13 号
13-1	佐々木倫子	動物のお医者さん	雑誌表紙用イラスト（複製）	『花とゆめ』1992 年 18 号
	佐々木倫子	動物のお医者さん	「第 1 話」まんが原稿（複製）	『花とゆめ』1988 年 1 号
13-2	佐々木倫子	動物のお医者さん	雑誌表紙用イラスト（複製）	『花とゆめ』1989 年 8 号
13-3	佐々木倫子	動物のお医者さん	巻頭カラー扉用イラスト（複製）	『花とゆめ』1993 年 3 号
14-1	山内直実	ざ・ちぇんじ！	巻頭カラー扉用イラスト	『花ゆめ EPO』1988 年 9 月号
14-2	山内直実	なんて素敵にジャパネスク	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1989 年 8 号
14-3	山内直実	なんて素敵にジャパネスク	「巻第二 其の二十六」まんが原稿	『花とゆめ』1991 年 3 号
14-4	山内直実	なんて素敵にジャパネスク	雑誌ふろく「ジャパネスク BIG ポスター」用イラスト	『花とゆめ』1992 年 4 号
15-1	河惣益巳	ジパング―ツーリング・エクスプレス特別編―	巻頭カラー扉用イラスト	『別冊花とゆめ』2003 年 9 月号
15-3	河惣益巳	ツーリング Exp. Euro	扉用イラスト	『別冊花とゆめ』2009 年 8 月号
15-2	河惣益巳	炎の月―ジェニーシリーズ―	巻頭カラー扉用イラスト	『別冊花とゆめ』2005 年 5 月号
15-4	河惣益巳	火輪	扉用イラスト	『花とゆめ』1987 年 13 号
16-1	日渡早紀	ぼくの地球を守って	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1987 年 2 号
16-2	日渡早紀	ぼくの地球を守って	応募者全員プレゼント「早紀ちゃんのおまかせ BOOK」用イラスト	『花とゆめ』1988 年 3 号
16-3	日渡早紀	ぼくの地球を守って	「第 49 話」まんが原稿	『花とゆめ』1989 年 14 号
16-4	日渡早紀	ぼくの地球を守って	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1993 年 18 号
17-1	星野架名	青い銀河の夜明け―緑野原学園シリーズ―	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ プラネット増刊』1992 年 11 月 1 日号
17-2	星野架名	青い銀河の夜明け―緑野原学園シリーズ―	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」1993 年 2 月
18-1	川原泉	笑う大天使	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1987 年 4 号
18-2	川原泉	笑う大天使	「最終話」まんが原稿	『花とゆめ』1987 年 19 号
	川原泉	笑う大天使 よみきり 3 部作 夢だっていいじゃない	扉用イラスト	『花とゆめ』1988 年 23 号
18-3	川原泉	笑う大天使 よみきり 3 部作 空色の革命	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1988 年 3 号
19-1	山口美由紀	フィーメンニンは謳う	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1990 年 9 号
19-2	山口美由紀	フィーメンニンは謳う	「第 10 回」まんが原稿	『花とゆめ』1990 年 19 号
19-3	山口美由紀	フィーメンニンは謳う	雑誌ふろく「ミルッヒ・ポスター」用イラスト	『花とゆめ』1991 年 3 号
20-1	神谷悠	迷宮・震える蛇	扉用イラスト	『別冊花とゆめ』1998 年 10 月号
	神谷悠	花迷宮―幽鬼館の殺人―	まんが原稿	『別冊花とゆめ』2002 年 3 月号
20-2	神谷悠	迷宮・怒る男	巻頭カラー扉用イラスト	『別冊花とゆめ』1999 年 5 月号
21-1	那州雪絵	ここはグリーン・ウッド	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』1988 年 4 号
	那州雪絵	ここはグリーン・ウッド	扉用イラスト	『花とゆめ』1988 年 21 号
21-2	那州雪絵	プロトウィンド	まんが原稿	『花ゆめ EPO』1986 年 2 月号
	那州雪絵	月光	扉用イラスト	『花とゆめ』1994 年 12 号
22-1	遠藤淑子	マダムとミスター	扉用イラスト	『花とゆめ』1996 年 16 号
23-1	立野真琴	そりゃないぜ BABY	扉用イラスト	『花とゆめ』1994 年 5 号

	立野真琴	そりゃないぜ BABY	「第 36 話」まんが原稿	『花とゆめ』1995 年 17 号
24-1	加藤知子	異国館ダンディ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1993 年 6 号
	加藤知子	異国館ダンディ	扉用イラスト	『花とゆめ』1991 年 23 号
25-1	由貴香織里	天使禁猟区	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1997 年 2 号
25-2	由貴香織里	天使禁猟区	扉用イラスト	『花とゆめ』1997 年 9 号
25-3	由貴香織里	天使禁猟区	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2000 年 22 号
25-4	由貴香織里	伯爵カイン ゴッドチャイルド	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2002 年 17 号
26-1	喜多尚江	空の帝国	扉用イラスト	『花とゆめ』1995 年 22 号
27-1	藤田貴美	EXIT UNDER THE SUN	扉用イラスト	『花とゆめ』1990 年 14 号
27-2	藤田貴美	EXIT	まんが原稿	『花とゆめ』1989 年 13 号
28-1	立花晶	サディスティック・19	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」3 巻 1994 年 1 月
29-1	羅川真里茂	赤ちゃんと僕	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1994 年 11 号
29-2	羅川真里茂	赤ちゃんと僕	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1996 年 10 号
29-3	羅川真里茂	ニューヨーク・ニューヨーク	扉用イラスト	『花とゆめ』1995 年 19 号
29-4	羅川真里茂	しゃにむに GO	扉用イラスト	『花とゆめ』2009 年 7 号
30-1	武藤啓	ネバギバ！	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2001 年 13 号
30-2	武藤啓	ネバギバ！	扉用イラスト	『花とゆめ』2001 年 16 号
31-4	山田南平	オトナになる方法	雑誌ふろく「美少年いっぱい♡BIG ポスター」用イラスト	『花とゆめ』1995 年 14 号
31-1	山田南平	紅茶王子	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2003 年 17 号
31-2	山田南平	紅茶王子	「TSP.1」まんが原稿	『花とゆめ』1996 年 21 号
31-3	山田南平	紅茶王子	アプリページトップ用イラスト	「マンガ Park」2020 年
32-1	藤崎真緒	瞳・元気 KINGDOM	扉用イラスト	『花とゆめ』1994 年 5 号
	藤崎真緒	KINGDOM―子供達の王国―	まんが原稿	『花とゆめ プラネット増刊』1993 年 9 月 1 日号
33-1	高屋奈月	フルーツバスケット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2000 年 10 号
33-2	高屋奈月	フルーツバスケット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2002 年 24 号
33-3	高屋奈月	フルーツバスケット	「第 129 話」まんが原稿	『花とゆめ』2006 年 15 号
33-4	高屋奈月	フルーツバスケット	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』2006 年 24 号
34-1	望月花梨	笑えない理由	扉用イラスト	『花とゆめ』1998 年 13 号
35-1	仲村佳樹	スキップ・ビート！	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2002 年 3 号
35-2	仲村佳樹	スキップ・ビート！	「ACT.1」まんが原稿	『花とゆめ』2002 年 3 号
35-3	仲村佳樹	スキップ・ビート！	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2006 年 19 号
35-4	仲村佳樹	スキップ・ビート！	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2009 年 16 号
36-1	中条比紗也	花ざかりの君たちへ	扉用イラスト	『花とゆめ』1996 年 20 号
36-2	中条比紗也	花ざかりの君たちへ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1998 年 16 号
36-3	中条比紗也	花ざかりの君たちへ	「第 47 話」まんが原稿	『花とゆめ』1999 年 9 号
36-4	中条比紗也	花ざかりの君たちへ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』1999 年 10 号
37-1	松下容子	闇の末裔	単行本カバー用イラスト	『松下容子キャラクターブック 闇の末裔』1999 年 8 月
37-2	松下容子	闇の末裔	「第 32 回」まんが原稿	『花とゆめ』1999 年 16 号
37-3	松下容子	闇の末裔	雑誌ふろく「スタイリッシュ★HC カバー」用イラスト	『花とゆめ』2010 年 5 号
38-1	日高万里	世界でいちばん大嫌い	応募者全員プレゼント「プレミアム★タペストリー」用イラスト	『花とゆめ』1999 年 11 号
38-2	日高万里	世界でいちばん大嫌い	「第 75 回」まんが原稿	『花とゆめ』2001 年 12 号
	日高万里	ひつじの涙	応募者全員プレゼント「スーパーBIG★クリアポスター」用イラスト	『花とゆめ』2002 年 10 号
38-3	日高万里	V・B・ローズ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2005 年 4 号
39-1	樋口橘	学園アリス	雑誌ふろく「2006 花ゆめ ALL☆STAR カレンダー」（2 月）用イラスト	『花とゆめ』2006 年 1 号
39-2	樋口橘	学園アリス	「第 120 回」まんが原稿	『花とゆめ』2009 年 20 号
39-3	樋口橘	学園アリス	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2012 年 20 号
40-1	絵夢羅	Wジュリエット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2000 年 19 号

40-2	絵夢羅	Wジュリエット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2001 年 8 号
40-3	絵夢羅	Wジュリエット	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2001 年 22 号
41-1	高尾滋	ディア マイン	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」4 巻　2001 年 8 月
	高尾滋	ディア マイン	「最終話」まんが原稿	『花とゆめ』2001 年 10 号
42-1	サカモトミク	ナデシコクラブ	扉用イラスト	『花とゆめ』2001 年 10 号
43-1	冴凪亮	よろず屋東海道本舗	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2001 年 5 号
43-2	冴凪亮	よろず屋東海道本舗	「FILE21」まんが原稿	『花とゆめ』2002 年 1 号
44-1	福山リョウコ	覆面系ノイズ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2015 年 12 号
44-2	福山リョウコ	覆面系ノイズ	扉用イラスト	『花とゆめ』2013 年 23 号
44-3	福山リョウコ	恋に無駄口	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2023 年 15 号
45-1	藤原規代	アラクレ	扉用イラスト	『花とゆめ』2006 年 8 号
45-2	藤原規代	アラクレ	「第 46 話」まんが原稿	『花とゆめ』2008 年 16 号
46-1	菅野文	オトメン（乙男）	扉用イラスト	『別冊花とゆめ』2011 年 5 月号
46-2	菅野文	オトメン（乙男）	「第 1 話」まんが原稿	『別冊花とゆめ』2006 年 5 月号
	菅野文	オトメン（乙男）	「第 1 話」まんが原稿	『別冊花とゆめ』2006 年 5 月号
47-1	木内たつや	男水！	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2017 年 2 号
48-1	南マキ	S・A	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2008 年 11 号
48-2	南マキ	S・A	「第 17 話」まんが原稿	『花とゆめ』2005 年 1 号
49-1	イチハ	女子妄想症候群	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』2004 年 13 号
	イチハ	女子妄想症候群	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』2003 年 5 号
50-1	西形まい	ヴィーナス綺想曲	扉用イラスト	『花とゆめ』2006 年 22 号
51-1	椿いづみ	俺様ティーチャー	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」24 巻（ドラマ CD 付初回限定版）2017 年 7 月
	椿いづみ	俺様ティーチャー	「第 168 話」まんが原稿	『花とゆめ』2020 年 5 号
51-2	椿いづみ	俺様ティーチャー	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2020 年 5 号
52-1	ふじもとゆうき	キラメキ☆銀河町商店街	扉用イラスト	『花とゆめ』2007 年 4 号
53-1	椎名橙	それでも世界は美しい	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」25 巻　2020 年 8 月
53-2	椎名橙	それでも世界は美しい	「第 5 話」まんが原稿	『花とゆめ』2012 年 3 号
54-1	草凪みずほ	暁のヨナ	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』2023 年 22 号
	草凪みずほ	暁のヨナ	「第 47 話 甘雨」まんが原稿	『花とゆめ』2012 年 1 号
54-2	草凪みずほ	暁のヨナ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2024 年 1 号
54-3	草凪みずほ	暁のヨナ	雑誌ふろくポスター用イラスト	『花とゆめ』2024 年 6 号
55-1	水森暦	はじまりのにいな	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」1 巻 2011 年 7 月
56-1	松月滉	幸福喫茶 3 丁目	雑誌表紙用イラスト	『花とゆめ』2008 年 12 号
	松月滉	幸福喫茶 3 丁目	扉用イラスト	『花とゆめ』2008 年 9 号
57-1	伊沢玲	執事様のお気に入り	雑誌表紙用イラスト	『別冊花とゆめ』2015 年 7 月号
57-2	伊沢玲	執事様のお気に入り	「最終話」まんが原稿	『別冊花とゆめ』2015 年 7 月号
58-1	鈴木ジュリエッタ	神様はじめました	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」17 巻　2014 年 12 月
58-2	鈴木ジュリエッタ	神様はじめました	扉用イラスト	『花とゆめ』2011 年 8 号
	鈴木ジュリエッタ	神様はじめました	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」25 巻　2016 年 8 月
58-3	鈴木ジュリエッタ	推しに甘噛み	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2022 年 10・11 合併号
59-1	音久無	執事・黒星は傅かない	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2021 年 23 号
59-2	音久無	花と悪魔	「第 57 話」まんが原稿	『花とゆめ』2010 年 23 号
60-1	こうち楓	LIFE SO HAPPY	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」2 巻 2017 年 10 月
60-2	こうち楓	LIFE SO HAPPY	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」3 巻 2019 年 4 月
61-1	ミユキ蜜蜂	野良猫と狼	扉用イラスト	『ザ花とゆめ　甘々』2022 年 3 月 1 日号
61-2	ミユキ蜜蜂	なまいきざかり。	「第 1 話」まんが原稿	『花とゆめ』2013 年 22 号

	ミユキ蜜蜂	春の嵐とモンスター	「Day 1」まんが原稿	『花とゆめ』2022 年 15 号
62-1	平間要	ぽちゃまに	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」8 巻 2020 年 3 月
62-2	平間要	ぽちゃまに	扉用イラスト	『別冊花とゆめ』2016 年 9 月号
63-1	友藤結	贄姫と獣の王	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2016 年 13 号
63-2	友藤結	贄姫と獣の王	「episode.56」まんが原稿	『花とゆめ』2018 年 21 号
64-1	師走ゆき	多聞くん今どっち！？	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2021 年 22 号
64-2	師走ゆき	高嶺と花	「最終話」まんが原稿	『花とゆめ』2020 年 16 号
65-1	幸村アルト	コレットは死ぬことにした	雑誌ふろく「FAN BOOK」・単行本付属画集用イラスト	『花とゆめ』2021 年 6 号・「花とゆめ COMICS」18 巻（特装版）2021 年 2 月
65-2	幸村アルト	コレットは死ぬことにした	「最終話」まんが原稿	『花とゆめ』2021 年 21 号
	幸村アルト	ピチカートの眠る森	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」1 巻 2023 年 3 月
66-1	堤翔	フラレガール	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2019 年 7 号
66-2	堤翔	夜明けを乞うけものたち	「第 6 話」まんが原稿	『マンガ Park』2023 年 6 月 16 日
67-1	赤瓦もどむ	神さま学校の落ちこぼれ	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2021 年 17 号
67-2	赤瓦もどむ	神さま学校の落ちこぼれ	「第 15 話」まんが原稿	『花とゆめ』2022 年 13 号
68-1	惣司ろう	忘却の首と姫	扉用イラスト	『花とゆめ』2014 年 1 号
68-2	惣司ろう	忘却の首と姫	「第 1 話」まんが原稿	『花とゆめ』2012 年 9 号
69-1	柚木色	ぬこづけ！	「10 周年記念イラスト」	『マンガ Park』2022 年 4 月 11 日
70-1	千歳四季	蒼竜の側用人	巻頭カラー扉用イラスト	『ザ花とゆめ』2017 年 6 月 1 日号
71-1	安斎かりん	顔だけじゃ好きになりません	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2021 年 19 号
71-2	安斎かりん	顔だけじゃ好きになりません	「#vol.19」まんが原稿	『花とゆめ』2021 年 19 号
71-3	安斎かりん	顔だけじゃ好きになりません	雑誌表紙用カラーイラスト	『花とゆめ』2023 年 1 号
72-1	sora	墜落ＪＫと廃人教師	巻頭カラー扉用イラスト	『花とゆめ』2023 年 18 号
72-2	sora	墜落ＪＫと廃人教師	「episode.1」まんが原稿	『花とゆめ』2017 年 16 号
	sora	墜落ＪＫと廃人教師	雑誌ふろく「Hanayume ALLSTAR FLOWER PARTY CALENDAR 2024」（6 月） 用イラスト	『花とゆめ』2024 年 1 号
73-1	柴宮幸	呪い子の召使い	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」9 巻 2023 年 2 月
	柴宮幸	呪い子の召使い	「最終話」まんが原稿	『花とゆめ』2022 年 24 号
74-1	サカノ景子	鬼の花嫁は喰べられたい	単行本表紙用イラスト	「花とゆめ COMICS」8 巻 2023 年 11 月
74-2	サカノ景子	鬼の花嫁は喰べられたい	「第四十四話」まんが原稿	『花とゆめ』2023 年 6 号

その他、展示コーナー

1　作家の仕事場の再現コーナー

　福山リョウコ、草凪みずほ

2　ラフ画・ネーム展示コーナー

3　雑誌の歴代付録コーナー

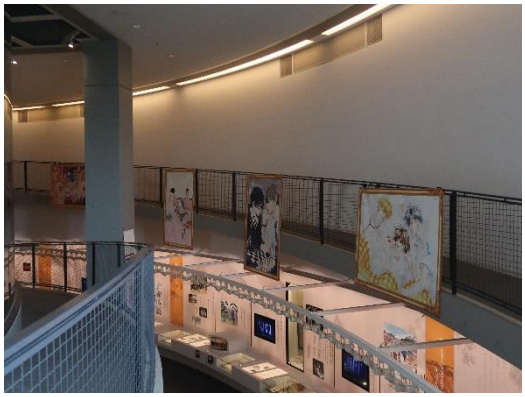
4　メディアミックスバナー

5　名ゼリフパネル

6　館内バナー

　美内すずえ、佐々木倫子、由貴香織里、山田南平、中条比紗也、

　草凪みずほ、ミユキ蜜蜂、師走ゆき



館内バナー

フォトスポット他

1　北館中２階：交流ひろば

アニバーサリーケーキ、キャラクターパネル、サインボード

＊サインボードは撮影不可

2　北館２階：特別展示室前

パタリロ！おみくじ、推しシェアボード

＊推しシェアボードは撮影不可

3　南館1階：さんかくギャラリー

『花とゆめ』歴史年表、コミックス表紙パネル、花とゆめフォトスポット、花ゆめ編集部のひみつの小窓、レジェンド作品名場面

【音声ガイド】※姫路文学館友の会の協力により運営

声優の下野紘さんと島崎信長さんがパーソナリティを務める「花とゆめ 男子会!?らじお」と展覧会がコラボし、二人のナビゲートで『花とゆめ』の魅力に迫るもの。収録時間は約40分。



撮影スポット：パタリロ！おみくじ



撮影スポット：
アニバーサリーケーキとキャラクター—パネル

（2）　特別展「「十二国記」山田章博原画展」



小野不由美氏の名作「十二国記」の世界を、美麗な筆致で彩ってきた山田章博氏の装画・挿絵原画約400点を中心に展示した過去最大規模の展覧会。新潮社《完全版》、講談社《X文庫ホワイトハート版》、アニメ「十二国記」を網羅する「十二国記」の原画を一堂に展観することで、装画・挿絵によって巧みに生み出されるファンタジー世界のリアリティを届けた。

奇しくも、本展の開催期間がミュージカル『十二国記　－月の影 影の海－』の公演時期と重なり、実際の舞台衣裳や造形作品、デザイン画の展示も実現。広がり続ける十二国記の世界を深く堪能できる内容となった。

また、山田氏の漫画やその他の小説の装画も展示し、数多の世界を描き分ける氏の創作の軌跡も追いながら、熟練された線と色、その独自性と創造性を伝えたことも、本展の大きな見どころとなった。

細部の描き込みや筆の運びまで感じられる原画を間近で鑑賞した来場者からは、SNS等でたくさんの感想が寄せられたほか、会期中にはミュージカルでヨウコを演じた柚香光氏、脚本・歌詞を手がけた元吉庸泰氏、演出をつとめた山田和也氏も来場。作品を愛する多くの方々とその魅力を共有した展覧会となった。

会　　期	令和７年（2025）９月27日（土）～12月14日（日） ※休館日：月曜日、10月14日(火)、11月4日(火）、11月25日(火)
会　　場	姫路文学館　北館
観 覧 料	一般1000円、大学・高校生580円、中学・小学生280円　※20名以上の団体は２割引
主　　催	姫路文学館
特別協力	新潮社
協　　力	東宝、幻冬舎コミックス
後　　援	朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティＦＭ21、毎日新聞姫路支局、読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	68日間
観覧者数	14,216人
出品点数	約550点
印刷物等	ポスターＢ２、Ｂ３、Ａ３／チラシＡ４



第１会場



第２会場



ミュージカル『十二国記 -月の影 影の海-』関連展示



屋外展示（延王・延麒と姫路城）

関連行事

（1） 山田章博サイン会
日　時　　令和７年９月27日（土）　午前11時～３時15分
会　場　　姫路文学館講堂
参加者　　150人



山田章博氏（右）と編集者の鈴木真弓氏（左）

（2）朗読会「十二国記の世界へ」
日　時　　令和７年11月１日（土）　午後１時30分～３時
出　演　　久川綾（声優）
会　場　　姫路市市民会館　大ホール
参加者　　800人



久川綾氏

（3）ミュージカル×原画展トークショー
「越境する〈十二国記〉ーミュージカルで表現する物語」
【姫路文学館友の会協賛事業】
日　時　　令和７年11月２日（日）午後１時30分～３時
登　壇　　山田章博、中原幸子（衣裳デザイナー）、
竹谷隆之（造形作家）、羽尾万里子（宣伝デザイナー）
司会：竹平晃子（フリーアナウンサー）
会　場　　姫路文学館講堂
参加者　　300人
備　考　　11月21日～12月14日まで、本イベントのアーカイブ上映を実施した。



衣裳の話題で盛り上がる登壇者

（4）〈十二国記の日〉展覧会ポスタープレゼント
内　容　　12月12日〈十二国記の日〉を記念し、来場者に本展のポスターをプレゼントした（抽選）。
日　程　　令和７年12月12日（金）

出　品　目　録

特に記載のないものは新潮社蔵、●:幻冬舎コミックス蔵、〇:東宝蔵、■:個人蔵、□:姫路文学館蔵

作品名	点数	発表年・刊行年	出版社	所蔵
Prologue　世界を象る				
展覧会・イベント開催記念色紙　山田章博「楽俊」		2025 年		□
『魔性の子』		1991 年	新潮社	■
講談社 X 文庫 ホワイトハート『十二国記』　全 11 冊　（以下、WH 版）		1992 年 6 月～2001 年 5 月	講談社	■
新潮文庫 完全版『十二国記』episode0～9　既刊 15 冊　（以下、完全版）		2012 年 7 月～2019 年 11 月	新潮社	□
THE TWELVE KINGDOMS　　SEA OF WIND		2007 年	TOKYOPOP	□
『十二国記』完全版　カバー背《飾り文様》		2012 年		
『「十二国記」画集《第一集》久遠の庭』目次イラスト		2014 年		
『「十二国記」画集《第二集》青陽の曲』目次イラスト		2022 年		
等高線地図（中田圭祐 作成）				
Episode0　『魔性の子』				
服部南郭注『唐詩選』(王維「送祕書晁監還日本國」)　※姫路文学館金井寅之助文庫				□
『魔性の子』装画		1991 年		
『魔性の子』完全版　装画（カバー表裏）・同ラフ画・挿絵	9	2012 年		
Episode1　『月の影 影の海』				
『月の影 影の海』上下　WH 版　　装画・挿絵	12	1992 年		
『月の影 影の海』上下　完全版　装画（カバー表裏）・同ラフ画・挿絵	18	2012 年		
Episode2　『風の海 迷宮の岸』				
『風の海 迷宮の岸』上下　WH 版　装画・挿絵	10	1993 年		
『風の海 迷宮の岸』完全版　装画（カバー表裏）・挿絵	7	2012 年		
Episode 3　『東の海神 西の滄海』				
『東の海神 西の滄海』WH 版　　装画・挿絵	6	1994 年		
『東の海神 西の滄海』完全版　装画（カバー表裏）・挿絵	7	2013 年		
Episode 4　『風の万里 黎明の空』				
『風の万里 黎明の空』上下　WH 版　　装画・挿絵	13	1994 年		
『風の万里 黎明の空』上下　完全版　装画（カバー表裏）・挿絵	14	2013 年		
Episode 5　『丕緒の鳥』				
『丕緒の鳥』完全版　装画（カバー表裏）・同ラフ画・挿絵	7	2013 年		
Episode 6　『図南の翼』				
『図南の翼』WH 版　　装画・挿絵	6	1996 年		
『図南の翼』完全版　装画（カバー表裏）・挿絵	7	2013 年		
Episode 7　『華胥の幽夢』				
『華胥の幽夢』WH 版　　装画・挿絵	8	2001 年		
『華胥の幽夢』完全版　装画（カバー表裏）・扉絵	7	2014 年		
Episode 8　『黄昏の岸 暁の天』				
『黄昏の岸 暁の天』上下　WH 版　　装画・挿絵	12	2001 年		
『黄昏の岸 暁の天』完全版　装画（カバー表裏）・同ラフ画（表第 1 稿／表第 2 稿／裏）・挿絵	10	2014 年		
Episode 9　『白銀の墟 玄の月』				
『白銀の墟 玄の月』全 4 巻　完全版　装画（カバー表裏）・同ラフ画（4 巻裏《黒麒》）・挿絵	29	2019 年		
extra 1．Artworks for Animatimon				
展覧会イベント・朗読会「十二国記の世界へ」久川綾氏使用台本（11 月 2 日～展示）		2025 年		□
『「十二国記」アニメ設定画集』装画		2024 年		
アニメ「十二国記」キャラクター設定画	110	2000 年～2003 年		
DVD「十二国記　月の影 影の海」全 5 巻　装画（ジャケット）	5	2002 年～2003 年（放送：2002 年）		
DVD「十二国記　風の海 迷宮の岸 」全 2 巻　装画（ジャケット）	2	2003 年（放送：2002 年）		
DVD「十二国記　転章」　装画（ジャケット）		2003 年（放送：2002 年）		
DVD「十二国記　風の万里 黎明の空 」全 6 巻　装画（ジャケット）	6	2003 年（放送：2002 年～2003 年）		
DVD「十二国記　東の海神 西の滄海」全 2 巻　装画（ジャケット）	2	2004 年（放送：2003 年）		
DVD「十二国記の世界　月の影 影の海 篇/風の海 迷宮の岸 篇/風の万里 黎明の空 篇」 各装画（ジャケット）・装飾画	4	2004 年		
CD「月迷風影」装画・装飾画	2	2002 年		
CD「十二幻夢絵巻」装画・装飾画	2	2002 年		
CD ドラマ「十二国記夢三章」装画・装飾画	2	2003 年		
CD「十二幻夢組曲」		2002 年		
CD ドラマ『魔性の子』装画（表裏）	2	1997 年		
Blu-ray＆DVD BOX「月の影 影の海」 BOX 装画・文様画・ジャケット（景王陽子・景麒／延王尚隆・延麒）	4	2009 年		
Blu-ray＆DVD BOX「風の海 迷宮の岸」 BOX 装画・文様画・ジャケット（泰王驍宗・泰麒）	3	2009 年		
Blu-ray＆DVD BOX「風の万里 黎明の空 」 BOX 装画・文様画・ジャケット（供王珠晶・供麒／采王黄姑・采麟）	4	2010 年		
Blu-ray＆DVD BOX「東の海神 西の滄海」 BOX 装画・文様画・ジャケット（小松尚隆・六太）	3	2010 年		
Blu-ray BOX「十二国記」装画		2015 年		
extra 2．Artworks for Anniversary				
『「十二国記」画集《第一集》久遠の庭』装画・扉絵・描き下ろし（蒼猿・楽俊・珠晶）	5	2014 年		
『「十二国記」画集《第二集》青陽の曲』装画・同ラフ画・扉絵	3	2022 年		
十二国記 30 周年記念　ちびキャラ（26 種）、同ラフ画 4 点	30	2021 年		
「十二国記」の日記念プレゼント　特別イラスト		2012 年		
「十二国記」の日記念プレゼント　年賀状イラスト（2019 年・2021 年）		2019 年・2021 年		
山田章博公式情報サイト　年賀状イラスト（2020 年）		2020 年		

『丕緒の鳥』刊行記念　読者プレゼント　暑中見舞い描き下ろし（2013 年）		2013 年		
山田章博「十二国記」カレンダー　表紙 （2002 年・2003 年・2004 年・2005 年アニメ版・2006 年アニメ版・2015 年・2021 年）		2002 年～2021 年		
山田章博「十二国記」カレンダー　描き下ろし（2004 年・2015 年・2021 年）		2004 年～2021 年		
山田章博「十二国記」ポストカードブック　装画、描き下ろし		2006 年		
「芸術新潮」2022 年 6 月号（特集「十二国記」絵師　山田章博の世界）表紙・同ラフ画		2022 年		
【映像】山田章博の How to Draw（2022 年 5 月 25 日公開）		2022 年		
extra 3．Manga ＆ Illustrations				
【参考展示】山田章博氏使用画材（コピック・ペン・筆・インク・絵具・紙など）	複数			□
『ラストコンチネント 上』（新装版）		2014 年	幻冬舎コミックス	□
『ラストコンチネント 下』（新装版）		2014 年	幻冬舎コミックス	□
『百花庭園の悲劇』（新装版）		2014 年	幻冬舎コミックス	□
『夢の博物誌』（新装版）		2015 年	幻冬舎コミックス	□
『人魚變生』（新装版）		2015 年	幻冬舎コミックス	□
『紅色魔術探偵団』（新装版）		2016 年	幻冬舎コミックス	□
『おぼろ探偵帖』（新装版）		2016 年	幻冬舎コミックス	□
『機巧亭茶館』（新装版）		2016 年	幻冬舎コミックス	□
『BEAST of EAST ～東方眩暈録～』1～4 巻		2002 年～2011 年	幻冬舎コミックス	□
『絵巻眩暈誌 BEAST of EAST』		2008 年	幻冬舎コミックス	□
「おぼろ探偵帖」新装版 装画		2016 年		●
「おぼろ探偵帖」〈第 1 話 東京宵闇三途恋塚〉原稿、〈第 3 話 百物語後日返報〉原稿	4	1990 年		●
「百花庭園の悲劇」新装版 装画		2014 年		●
「百花庭園の悲劇」原稿	7	1983 年～1984 年		●
「ラストコンチネント 上」新装版 装画		2014 年		●
「ラストコンチネント」Act2　原稿		1985 年		●
「ラストコンチネント 下」新装版 装画		2014 年		●
「ラストコンチネント」Act6　原稿		1988 年		●
「夢の博物誌」新装版 装画		2015 年		●
「人魚變生」新装版 装画		2015 年		●
「人魚變生」原稿		1979 年		●
「紅色魔術探偵団」新装版 装画		2016 年		●
「紅色魔術探偵団」〈第 7 話 大襲来！お笑い宇宙戦争〉原稿		1988 年		●
『機巧亭茶館』（新装版）装画		2016 年		●
「鋼鉄のパンドラ」原稿		1991 年		●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」1 巻　装画（2 層仕様）	2	1998 年	スコラ	●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」1 巻より〈二之段　鬼王丸〉原稿	3	1988 年		●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」2 巻　装画（2 層仕様）	2	2000 年	ソニーマガジンズ	●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」2 巻より〈三之段　玉藻〉原稿	2	2000 年		●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」3 巻　装画（2 層仕様）	2	2007 年	幻冬舎コミックス	●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」3 巻より〈五之段　将門〉原稿	2	2007 年		●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」4 巻　装画（2 層仕様）	2	2011 年	幻冬舎コミックス	●
「BEAST of EAST ～東方眩暈録～」4 巻より〈六之段　桔梗〉原稿	2	2011 年		●
「絵巻眩暈誌 BEAST of EAST」より 3 点、未収録 1 点	4	2008 年		●
菊地秀行『ウエスタン武芸帳』（ソノラマ文庫）全 3 巻		1986～1988 年	朝日ソノラマ	□
「ウエスタン武芸帳 1　異西部の剣士」装画		1986 年		■
香山滋、福島正実『怪獣総進撃（怪獣小説全集 I ）』		1993 年	出版芸術社	□
「怪獣総進撃（怪獣小説全集 I ）」装画		1993 年		■
黒沼健、吉田誠、小林晋一郎『怪獣大戦争（怪獣小説全集 II ）』		1993 年	出版芸術社	□
「怪獣大戦争（怪獣小説全集 II ）」装画		1993 年		■
宮部みゆき『ドリームバスター』全 4 巻		2001～2007 年	徳間書店	□
「ドリームバスター 4 」装画		2007 年		■
田中芳樹『アルスラーン戦記』（光文社文庫）全 16 巻		2012～2020 年	光文社	□
「アルスラーン戦記 1　王都炎上」装画		2012 年		■
「アルスラーン戦記 3　落日悲歌」扉絵		2012 年		■
日向理恵子『火狩りの王』全 4 巻・外伝		2018～2021 年	ほるぷ出版	□
「火狩りの王〈四〉　星ノ火」装画		2014 年		■
フランシス・ホジソン・バーネット／川端康成 訳『小公子』（新潮文庫）		2020 年	新潮社	□
「小公子」（新潮文庫）装画		2020 年		■
extra 4．Focus on Musical				
ミュージカル『十二国記 -月の影 影の海- 』 ビジュアル撮影使用　水禺刀・碧双珠（造形：谷口順一・井田恒之・竹谷隆之 ）		2025 年		○
竹谷隆之「水禺刀　アレンジ案」（複製）		2025 年		○
ミュージカル『十二国記 -月の影 影の海- 』 ビジュアル撮影使用　ヨウコ制服（制作：中原幸子 ）（11 月 5 日～30 日）		2025 年		○
中原幸子「陽子／ヨウコ 制服 ver.デザイン」（複製）		2025 年		○
メインビジュアルタペストリー　柚香光（ヨウコ・『月の影 影の海 （上）』（完全版）ポーズ）	1	2025 年		○
ビジュアルバナー　柚香光（ヨウコ）2 種／加藤梨里香（陽子）2 種	4	2025 年		○
【映像】ミュージカル×原画展 トークショー「越境する〈十二国記〉ーミュージカルで表現する物語」 アーカイブ上映（11 月 21 日～）		2025 年		□
来館記念色紙　中原幸子氏・元吉庸泰氏		2025 年		□
『月の影 影の海』上下　完全版　※ミュージカルカバー		2025 年（※カバー頒布時期）	新潮社	□

（４）　企画展「戦後80年　戦時下の大衆文化―〈外地〉へのまなざしを振り返る」



昭和６年（1931）の満洲事変から、日中戦争、太平洋戦争を経て、昭和20年（1945）に終戦を迎えるまでの十五年戦争の間に〈外地〉を通して行われた作家、画家たちの文化活動に注目した展覧会を開催した。

中国大陸での兵士や戦場の様子を描いた戦記文学に、中国各地や南方の風土や慣習を紹介した書籍、絵画、スケッチ。また画家たちの絵をもとに大量に製作された軍事郵便絵葉書の数々。加えて、国際日本文化研究センターにアメリカ人コレクターのドナルド・ラップナウ氏から寄贈されたラップナウ・コレクションを併せ、約700点にのぼる資料を展示した。

日本の中国大陸や南方進出により生まれた〈外地〉だが、拡大する日本を支えるために多くの従軍作家や従軍画家などが動員され、書物や絵画によって〈外地〉の情報を〈内地〉の人々に伝え、国民に興味関心を持たせようとした当時の政府や軍部が考えた仕組みの一端を知ることができる展覧会であった。

会　　期　令和８年(2026年)１月17日（土）～３月29日（日）
※休館日：毎週月曜日（２月23日は開館)、２月12日（木)、２月24日（火）
会　　場　姫路文学館　北館
観 覧 料　一般450円、大学生・高校生300円、中学・小学生150円（常設展料金）　※20名以上の団体は２割引
〈3月1日以降〉
一般450円（常設展料金)、18未満無料　※30名以上の団体は２割引
主　　催　姫路文学館
共　　催　国際日本文化研究センター
協　　力　京都日本文化資源研究所
監　　修　劉建輝（国際日本文化研究センター教授）
開催日数　60日間
観覧者数　2,365人
出品点数　約700点
印刷物等　ポスターＡ３／チラシＡ４
図　　録　Ｂ５版　カラー　40頁
制作：国際日本文化研究センター
※会期中、アンケートの感想記入者の内、希望者先着200名に配布した。





展 覧 会 場

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂

（1）井上章一・劉建輝対談
「十五年戦争中、作家と画家たちが〈外地〉で何を見て、また国民に何を伝えたか―その歴史と意味を考える」
（第３回友の会研修講座として実施）
日　時　　令和８年（2026年）１月31日（土）
　　午後１時30分～３時
出　演　　井上章一（国際日本文化研究センター所長）
　　劉建輝（国際日本文化研究センター教授）
参加者　　150人



対談　井上章一氏

（2）講演会「顕現と隠蔽―軍事郵便絵葉書にみる十五年戦争」
日　時　　令和８年（2026年）２月21日（土）
　　午後１時30分～３時
講　師　　劉建輝（国際日本文化研究センター教授）
参加者　　80人



対談　劉建輝氏

出　品　目　録

特に明記のない資料は、第１章～第３章は個人蔵、第４章は国際日本文化研究センター蔵

テーマ等	種　類	資　料　名
■第１章　作家と兵士が見た大陸－満蒙・華北・華中・華南		
１．従軍作家と兵士たちの戦場	〈絵画〉	額：金山泰展「通河の燈台」 額：井上治「マーチョ（馬車） 額：松本富太郎「満洲の田舎」 掛軸：朝一圭鳳「錦州城外」 額：伊谷賢蔵「張家口」 額：安宅安五郎「張家口の町」 掛軸：梅津秋穂「長城万里千仞山」 額：倉垣辰夫「北京」 額：「北京故宮」
	〈地図〉	「満洲概念図」パナー
	〈書籍〉	火野葦平『麦と兵隊』改造社　装丁：中川一政　昭和13年９月 火野葦平『土と兵隊』改造社　装丁：中川一政　昭和13年11月 火野葦平『花と兵隊』改造社　装丁：中川一政　昭和14年8月 後堂荘四郎『馬と兵隊』テンセン社　昭和14年3月 林芙美子『戦線』朝日新聞社　装丁：林芙美子　挿絵：藤田嗣治　昭和13年12月 上田廣『黄塵』改造社　装丁：無縁寺心澄　挿絵：向井潤吉　昭和13年11月 岸田國士『従軍五十日』創元社　装丁：野口良一呂　昭和14年5月 丹羽文雄『報道班員の手記』改造社　昭和18年4月 栗林農夫『兵隊とともに』改造社　装丁：鈴木信太郎　昭和14年4月 本田功『陣火』文芸春秋社　装丁：川端龍子　昭和19年4月 時雨音羽『御用船』新興出版社　写真：細川潤一　和15年12月 中谷孝雄『漏杭日記』砂子屋書房　昭14年1月 横島敏雅『戦塵抄』スメル書房　昭和17年3月 丸山一雄（海軍大佐）『艦橋夜話』安土書房　昭和19年6月 桜井豊・田谷吐師『戦線手記 軍靴の跡』東京図書新報社　昭15年4月 齋藤瀏『わが悲懐』那珂書店　昭和17年2月 大谷忠一郎『詩集 大陸の秋』ぐろりあ・そさえて　序文：萩原朔太郎　昭和16年1月 堀場正夫著『遠征記　富水渡河より武漢まで』文明社　昭和16年9月 大隈俊雄『母と分隊長』淡海堂出版　昭和17年11月 工藤芳之助『従軍絵日記』第一書房　昭和15年11月 佐藤光貞『支那海』英語通信社　昭和15年5月 福田清人『桜樹』翼賛出版協会　昭和17年10月 梶山盛夫（陸軍軍医中尉）『前線繃帯所』三省堂　昭和16年11月 朝日新聞社編『支那事変 戦線より帰りて』朝日新聞社　昭和12年9月 小川忠憲『いくさの山河』好文館書店　昭和17年6月 寒川光太郎『死の帆走兵』偕成社　昭和19年2月 朝原吾郎『帰還兵に聴く〈兵站戦線〉』青年書房　昭和15年3月 佐々木元勝『野戦郵便旗』日本講演通信社　昭和16年2月 林大『戦地より父母へ』人文書院　序文：佐々木信綱　昭和14年１月 福田善念（従軍僧）編著『涙の陸戦隊』忠誠堂　昭和16年7月 谷内尚文『銃眼』三省堂　昭和16年5月 谷口勝（中野部隊上等兵）『征野千里 一兵士の手記』新潮社　昭和13年12月 末常卓郎『従軍記者』中央公論社　装丁：中村研一　昭和15年2月 石川達三『武漢作戦』中央公論社　昭和15年9月 石川達三『生きてゐる兵隊』海口書店　昭和21年10月 山上次郎『弾雨に禊ぐ』中央公論社　装画：栗林信　昭和19年4月 岩田豊雄『海軍』朝日新聞社　装丁：川端龍子　昭和18年2月 中谷英雄『上等兵と支那人』清水書房　昭和18年1月 和田國雄編著『名作鑑賞 陣中短歌』前進社　昭和14年4月 小泉苳三『従軍歌集 山西前線』立命館出版部　序文：板垣征四郎　昭和15年5月 寺田弘編『傷痍軍人詩集』四季書房　序文：高村光太郎　昭和18年10月 佐藤春夫『詩集 大東亜戦争』龍吟社　装丁：藤田嗣治　昭和18年2月 佐佐木信綱・伊藤嘉夫編『傷痍軍人聖戦歌集 第一輯・第二輯』人文書院　昭和14年1月 火野葦兵『広東進軍抄』新潮社　昭和14年3月 宮原無花樹『牛づれ兵隊』フタバ書院成光館　昭和18年1月 栗井家男『兵隊物語』翼書房　昭和18年3月 林芙美子『北岸部隊』中央公論社　昭和14年1月
２．満蒙	〈書籍〉	大陸文芸懇話会『開拓地帯』春陽堂書店　装丁：吉田謙吉　昭和14年10月 田中惣五郎『大陸の先駆者』興亜文化協会　昭和14年10月 上田廣『建設戦記』改造社　装丁：無縁寺心澄　昭和14年4月

		菅野正男『土と戦ふ』満州移住協会　装丁・挿絵：夏丘人　昭和15年1月 小泉菊枝『満洲人の少女』月刊満州社　昭和13年12月 中西伊之助『満洲』近代書房　昭和9年2月 北村謙次郎『春聯』新潮社　装丁：水谷清　昭和17年3月 今枝折夫『満洲異聞』月刊満州社　装丁：池邊青李　昭和10年11月 保田與重郎『蒙彊』生活社(装丁者不明)昭和18年4月 山本實彦『蒙古』改造社　装丁：川端龍子　昭和10年11月 F.Aラルソン著・高山洋吉訳『蒙古風俗誌』改造社　装丁：白山道夫　昭和14年11月 石川善助『亜寒帯』原尚進堂　装丁：亀山巌　昭和11年10月 衛藤利夫『満洲夜話』吐風書房　装丁：小林輝夫　康徳7年7月 丸山義二『庄内平野』朝日新聞社　装丁：福田豊四郎　昭和15年2月 北野邦雄『ハルビン点描』光画荘　昭和16年12月 永見文太郎『新京案内 康徳六年版』新京案内社　装丁：池邊青李　康徳6年1月 濱本浩『旅順』六興商会出版部　装丁：小川眞吉　昭和17年2月 西嶋東洲『鮮、満、北支を語る』紙業出版社　昭和16年2月 藤山一雄『新満州風土記』満日文化協会　康徳4年10月 小山貞知編『満洲農村雑話』満州評論社　昭和14年6月 日野岩太郎『西北満雁信』育英書院　昭和18年9月 石川敬介『満洲をのぞく』カニヤ書店　昭和12年7月 吉本米子『満洲旅行記』冬柏発行所　昭和9年8月 神田正雄『満洲から北支へ』海外社　昭和11年6月 金丸精哉『満洲雑暦』滿洲日日新聞社出版部　装丁：甲斐巳八郎　昭和14年12月 久留島秀三郎・竹歳茂雄『馬賊を語る 増補改訂版』昭和27年2月（初版：鞍山製鉄所鉄魂 昭和7年） 小林彰『満支草土』東京社　昭和19年6月 林芙美子『三等旅行記』改造社　昭和8年5月 小泉菊枝『満洲少女』全国書房　昭17年6月 島木健作『或る作家の手記』創元社　昭和15年12月 島之夫『満洲国視察記』東京大阪博多成象堂　昭和15年5月 駒井徳三『大陸への悲願』講談社　装丁：川端龍子　昭和27年11月 木下立安『乾ける国へ 満鮮支那旅行』鉄道時報局　大正12年5月 細谷清『満蒙伝説集』滿蒙社　昭和11年6月 大隈為三『満蒙美観』中日文化協会　昭和5年3月 福田新生『北満のカザック』刀江書院　昭和16年2月 板谷英生『満洲農村記』大同印書館　昭和18年9月 高橋鏡子『女性の踏破せる滿蒙』日本軍用図書株式会社　昭和8年4月 小生夢坊『僕の見た満鮮』月旦社　昭和9年12月 尾崎士郎『成吉思汗』新潮社　昭和15年7月 櫻田常久『従軍タイピスト』赤門書房　昭和16年4月
3．華北	〈書籍〉	村上知行『北京の歴史』大阪屋號書店　装丁：柳瀬正夢　昭和16年9月 立野信之『北京の嵐』博文館　装丁：島崎鶏二　昭和19年2月 清水安三『朝陽門外』朝日新聞社　装丁：伊原宇三郎　昭和14年4月 桜井徳太郎『広安門』刀江書院　装丁：桜井誠人　昭和14年4月 加藤将之『華北の風物文化』山雅房　装丁：居塚春惠　昭和18年6月 みづの・かほる（水野薫）『北支の農村』華北交通社員会　装丁：井川捷三　昭和16年11月 藤田元春『支那研究　北支中支の風物』博多成象　昭和13年10月 山下謙一『山西通信』三元社　装丁：山下謙一　昭和16年4月 宮本幹也『黄河』興亜書局　装丁：生澤朗　昭和18年2月 毎日新聞社編『大黄河』毎日新聞社　昭和13年6月 長井壽助『淮河の四季』六芸社　装丁：小川眞吉　昭和16年9月 村上知行『北京十年』中央公論社　装丁：小穴隆一　昭和17年3月 阿部知二『長編 北京』第一書房　昭和13年4月
4．華中	〈書籍〉	横光利一『上海』三笠書房　装丁：菊岡久利　昭和15年8月 村松梢風『上海』東京騒人社　昭和2年4月 村松梢風『燃える上海』駿河台書房　装丁：野間仁根　昭和28年4月 松井翠聲『上海案内』栗田書店　昭和13年1月 吉田東祐『上海無邊』中央公論社　装丁：三雲祥之助　昭和24年3月 内山完造『上海風語』改造社　装丁：三雲祥之助　昭和16年8月 内山完造『上海夜話』改造社　装丁：三雲祥之助　昭和15年3月 白須賀六郎『上海無宿』宮越太陽堂書房　昭和15年2月 星野芳樹『上海路地裏の人々』世界社　昭和22年11月 犬養健『南京六月祭』改造社　装丁：小穴隆一　昭和4年4月 山本和夫『南京城（上)』六芸社　装丁：中村研一　昭和16年11月 村松梢風『思ひ出の上海』自由書房　昭和22年2月 内山完造『上海漫語』改造社　昭和13年1月 金谷正夫『上海記』興風館　昭和19年3月 佐佐木茂索『南京の皿』改造社　昭和3年4月 井上八蔵『大揚子江』叢文社　昭和55年10月 エリザベス・ルウイズ（小出正吾訳）『揚子江の傅さん』実業之日本社　昭和17年3月 栗本寅治『長江三十年』内山書店　昭和15年1月 井東憲『上海夜話』平凡社　昭和4年12月 若江得行『上海生活』講談社　昭和17年6月

5．華南	〈書籍〉	南支那研究所編纂『南支那年鑑(昭和十四年版)』臺灣實業界社　昭和14年8月 大阪毎日新聞社編『南支那』大阪毎日新聞社　昭和14年2月 池田孝道『南支那の話』金の星社　装丁：佐倉愛土　昭和20年3月 西晴雲『廣東百題』冨山房　装丁：西晴雲　昭和15年3月 西晴雲『江南百題』冨山房　装丁：西晴雲　昭和13年12月 村松梢風『南華に遊びて』大阪屋号書店　装丁：水谷仲吉　昭和16年3月 吉田謙吉『南支風土記』大東出版社　装丁：吉田謙吉　昭和15年5月 美濃部正好編『江南の旅』華中鉄道股份有限公司　昭和17年6月 神田正雄『躍進支那を診る（中支から南支へ)』海外社　昭和12年5月 ハリー・フランク・満鉄弘報課訳『南支遊記』朝日新聞社　装丁：足立源一郎　昭和16年1月 伊藤金次郎『暁の海南島』忠文館書店　装丁：木原芳樹　昭和17年11月 米内山庸夫『雲南四川踏査記』改造社　昭和15年7月
6．大陸全般	〈書籍〉	村上知行『大陸』大阪屋號書店　装丁：柳瀬正夢　昭和15年12月 山本實彦『支那』改造社　装丁：小杉放庵　昭和11年9月 平木多嘉志『支那の生活』昭和書房　昭和15年10月 小林愛雄『支那印象記』敬文館　装丁：横山大観　明治44年11月 村松梢風『支那風物記』河原書店　昭和16年5月 嘉村滿雄『大陸の微苦笑』滿洲有斐閣　装丁：千種達夫　康徳10年3月 米田祐太郎『支那の女』教材社　昭和15年８月 中村孝也『支那を行く』講談社　装丁：吉村忠夫　昭和17年4月 菟田俊彦『大陸の断想』同朋舎　装丁：平岡潤　昭和17年9月 長野朗『支那三十年』大和書店　装丁：吉田謙吉　昭和17年2月 土出忠治『大陸漫筆』駸々堂書店　装丁：松村天籟　昭和16年2月 清水安三『支那人の魂を掴む』創造社　昭和18年1月 早川正雄『大陸生活四十年』博文館　装丁：河野通勢　昭和18年6月 室伏高信『支那游記』日本評論社　昭和10年9月 湯沢三千男『支那に在りて思ふ』創元社　昭和15年8月 米内山庸夫『支那風土記』改造社　昭和16年2月 原四郎『支那あちらこちら』春秋社　昭和14年8月 原口統太郎『支那人の心を掴む』実業之日本社　昭和14年10月 長野朗『支那は動く 支那を見よ』ジャパンタイムス社出版部　昭和12年2月 田中克己『大陸遠望　詩集』子文書房　昭和15年9月 阿部知二『大河』新潮社　昭和22年6月 内山完造『両辺倒』乾元社　昭和28年4月 大鹿卓『梅花一両枝』洗心書林　昭和23年12月 緒方昇『支那裸像』大同出版社　昭和16年11月 井東憲『支那風俗綺談』大東出版社　昭和15年8月 夏目一拳『子供にきかせる支那の話』南光社　昭和11年7月 井東憲『変り行く支那』秋豊園出版部　昭和15年9月 小林橘川『随筆 支那』教育思潮研究会　装丁：橋本越南　昭和18年1月 米内山庸夫『日本と大陸』北光書房　装丁：笠松紫浪　昭和20年1月 水谷温『支那情調』銀座書院　昭和15年3月 土出忠治『大陸茶話』内山書店（販売）　昭和15年5月 岡村津三郎『部落民』南光社　装丁：内藤良治　昭和17年４月 中山樵夫訳『苦悶する支那』萬里閣昭和17年6月 松村梢風『支那漫談』騒人社書局　昭和3年5月 駒井徳三『大陸小志』講談社　昭和19年11月 相馬基編『支那人』東京日日新聞社・大阪毎日新聞社　昭和14年9月
■第二章　従軍画家の描いた大陸前線－戦場・陣中・風景・風俗		
	〈書籍〉	池部鈞・服部亮英ほか『漫画の満洲』大阪屋号書店　昭和2年10月 野間仁根等『銃と画筆と』有光社　昭和18年1月 川島理一郎『北支と南支の貌』龍星閣　昭和15年4月 橋本関雪『支那山水随縁 絵と文』文友堂書店　昭和15年6月 藤田實彦『髯はほほ笑む―帰順工作と宣撫』鶴書房　昭和17年3月 井岡咀芳『満支習俗考』湯川弘文社　昭和17年8月 高井貞二『中支風土記』大東出版社　昭和14年7月 雑誌『銃後』第5巻第10号
	〈その他〉	パンフレット「北京」「張家口」 軍事郵便「上海」「南京」「蘇州」（地図付き） 色紙　正夫「大同郊外」 色紙　みつを「街上スケッチ」 色紙　作者不明「寄席風景・風火毒熱気」 色紙　寺島祥五郎「北支の花嫁」 絵葉書袋7枚
1．戦場と戦闘	〈絵葉書〉	青山龍水「夜襲」、「敵前二百米」「江湾鎮時計臺」 向井潤吉「突撃（第二十五回二科美術展覧会出品)」「中山門攻撃」 寺本忠雄「太原城へ突撃の我歩兵部隊」 長坂春雄「光家宅の攻撃」 高橋亮「三義里激戦の跡」 三迫星洲「突撃!!　突貫!!　―タンクを楯に―」

		御厨純一「上海陸戦隊ノ奮戦　上海事変」 太田天橋「戴家山攻略　敵前決死渡河の勇士達」 清水登之「江南戦跡（独立美術協会第八回展覧会）」 久保田金仙「廟行鎮に於ける鉄条網爆破隊」 小磯良平「娘子関を征く」 藤島武二「蘇州河激戦の跡（未完成）」
2．陣中生活	〈絵葉書〉	小倉静三「暖をとる兵士」 清水登之「温泉に浴する勇士（湯水鎮）」 鶴田吾郎「釣り」 袖山「陣中ノ炊事」 古島松之助「内地からの便り」 和田三造「野戦病院」 南薫造「船艙内の演芸会を覗く」 水平譲「椰子の葉蔭の陣中風呂（海南）」 三上知治「戦塵を洗ふ」 小早川篤四郎「床屋と兵隊さん」 鶴田吾郎「散髪」 長谷川春子「荷物を運ぶ兵士」
3．宣撫工作	〈絵葉書〉	三上知治「難民を保護」 大野隆徳「難民と兵隊」 清水登之「警備兵と難民」 五味清吉「蕪湖瞥見」「日本兵士と支那小兒」 古島松之助「難民に給与」 三国久「中支農家」 小早川篤四郎「仲よくお洗濯」 青山龍水「良民復帰」「蘇州所見」 川島理一郎「難民の行列」 小倉保一郎「避難地より帰る」
4．風景と風俗	〈絵葉書〉	高橋亮「瑷琿の夕陽」 栗原信「秋のハルピン」「哈爾濱の冬」「北満の酪農部隊」「北京」「蒙古の旅」 今村嘉吉「二龍山」「満州風景」「吉林北山雪景」 三迫星洲「酷寒の満洲ー曠野を行くー」「春光麗朗ー満洲農家の春ー」「牧草を追ってー南口附近にてー」「長城の涯ー張家口羊毛市場ー」「遊牧の民ー熱河密林の紅葉ー」 小倉静三「街上」「子供等」「鵜飼」 太田天橋「洋車（奉天所見）」「お嫁入行列」「潜山東門」「広野を行く」 真山孝治「苦力（満洲風俗）」「奉天北陵」「大石橋迷鎮山娘々廟」 鶴田吾郎「大陸の耕作」「北京城外玉泉山」「肉売る男」「黄河の女」 中山巍「王道楽土（満洲記念）A」「王道楽土（満洲記念）B」 和田香苗「瑠璃牌楼（熱河）」「熱河（普寧寺大仏殿）」 矢崎千代二「中央寺院」「熱河喇嘛廟（第三回文部省美術展覧会出品）」「熱河丘廟と棒槌山」 藤田嗣治「ハイラル」「承徳」「ノモンハン　破壊せる敵戦車」 荒谷直之助「相撲（蒙古風俗）」 広本了「蒙古包と家族（蒙古風俗）」 丸野豊司「耕作を終へて（蒙古風俗）」 藤島武二「蒙古高原　紀元二千六百年奉祝美術展覧会出品」 内田正男「北京正陽門」「娘子関」「易水河畔」 森忠雄「懐来県城遠望」「北京天橋市場 小鳥売」 梅原龍三郎「長安街暁靄」「紫禁城　紀元二千六百年奉祝美術展覧会出品」「琵琶」 中村研一「北京官話　紀元二千六百年奉祝美術展覧会出品」 中沢弘光「天壇」「庭園」「白塔より景山を見る」 西原良蔵「宣化城内」「包頭黄河渡船場」「厚和白塔」 小野田元興「黄河（包頭附近）昭和十六年秋」「雲崗寺（大同）昭和十六年秋」「枯れ山」 三輪孝「黄河」「水ヲ汲ム」 小椋繁治「悠久たり大黄河」 小島宗一郎「堯帝祭」 井上自助「山西の少女」 小島宗一郎「霍県西門外」 永瀬義郎「水郷済南」「青島小港」 神谷万吉「宜昌前線より敵地を望む」 青山龍水「水都蘇州」「町の一角」 小早川篤四郎「姑娘の寄席」「公園にて」 小林万吾「江湾鎮」「蘇州郊外」「蘇州獅子林」「五老峯」 奥瀬英三「蘇州滄浪亭」 鈴木貞三「江湾鎮」「蘇州寒山寺」「蘇州風景」 猪熊弦一郎「長江埠の子供達」 恩地孝四郎「廟へ登る道」 片岡銀蔵「路傍の一景」「市街の一角（漢口）」「クリーク（九江）」 熊岡美彦「回香得福（南京鶏鳴寺）」 大野隆徳「南京玄武湖の初秋」 奥瀬英三「長江小景」 多田北烏「街頭の物売」「春日悠々」

		田口省吾「子供心」「見物席」「阿片吸飲之図」 宮尾しげお「三人の子供」「馬車」「抽鈴売」 古島松之助「川辺の洗濯」「平和のまどい」「苦力の朝餉」「芝居」 広本季与丸「青い服」 小室孝雄「四排楼之熱閙」「六榕古塔」 長谷川春子「南支東江下流峡口夕景」「南支新会県城公園」 橋本八百二「広東愛群ホテル附近」 川島理一郎「海珠橋の一角から覗いたバンドの風景」 三国久「上海市政府」 鶴田吾郎「最前線の仮眠」 鶴田吾郎「最前線の仮眠」原画 三国久「上海市政府」
	〈地図〉	「日中戦争の推移」（劉建輝・石川肇/編『戦時下の大衆文化　統制・拡張・東アジア』KADOKAWA　2022年2月）より
	〈絵画〉	掛軸：文挟克明「山西省地方の一部落」 額：大歳暁「上海市政府」 掛軸：菅生「支那上海にて」 額：小室孝雄「蘇州の橋」 額：作者不明「南京郊外」 額：金山泰展「上海」
向井潤吉	〈書籍〉	向井潤吉『絵と文 北支風土記』大東出版社　昭和14年1月
	〈絵葉書〉	「天津　南開大学俯瞰」「平地泉の前線にて」「蒙疆好日」「朝陽門内」「平地泉　爆撃さるゝ敵陣地」「展望哨の立つ支那寺　於平地泉」「宣撫」「万全県城」「宛平県城南門」「張家口の朝」「張家口崖上のトーチカ」「綏遠の南門」「姑蘇雨情」「街頭所見」「復興の門」「南船」
吉田博	〈絵葉書〉	「戦の跡」「杭州山上」「杭州之柳」「部隊宿舎」「星子門」「南支風景１」「南支風景２」「南支風景３」「南支風景４」「南支風景５」
石井柏亭	〈書籍〉	石井柏亭『美術の戦』宝雲舎　昭和18年6月 石井柏亭『山河あり』明日香書房　昭和23年4月
	〈絵葉書〉	「遼西の古都」「朝陽峨外」「麻雀」「中海公園」「張家口城眺望」「龍華の塔」「上海油公司の戦闘」「江南水郷（蘇州）」「大同府西門」「揚州五亭橋」
長瀬宝	〈書籍〉	長瀬宝『姑娘通信』大鐙閣　昭和19年3月
	〈絵画〉	「姑娘通信」原画　3点
古城江観	〈絵画〉	スケッチ原画「南京」「揚州」 絵葉書原画「床屋さん」「水夫」「海南島市場」
	〈絵葉書〉	「光華門全景（陸軍従軍画展覧会）」「蘇州にて」「胡蘇城外」「場末」「杭州西湖畔にて」「大道商人」「揚州五柳橋附近」「床屋さん」「水夫」「海南島市場」「海南島零族一家」
川端龍子	〈絵葉書〉	「八達嶺長城線の攻撃図」「朝陽来（大陸策四部作の一）」「長城日出」「蘆溝橋」「蒙古の月」
■第三章　南へのまなざし－画家たちの“南洋”表象		
1. 作家と兵士による南方表象	〈書籍〉	南進青年会編『大南洋を拓く　南進青年の手引』拓南社　昭和17年1月 武田麟太郎『ジャワ更紗』筑摩書房　昭和19年12月 大江賢次『ジャワを征く旗』朝日新聞社　口絵：大山英夫　昭和18年7月 長谷川春子『南の処女地』興亜日本社版　装丁：長谷川春子　昭和15年12月 東恩納寬惇『泰 ビルマ 印度』講談社　装丁：東恩納洋　昭和16年5月 中村地平『マライの人たち』文林堂双魚房　装丁：栗原信　昭和19年3月 榊山潤『南国風物』高山書院　昭和16年5月 中野實『佛印縦走記』講談社　装丁：伊原宇三郎　昭和16年7月 加藤鐐五郎『蘭印行』新愛知新聞社　昭和16年8月 岩倉具栄『南国の日射し』霞ケ関書房　装丁：大内青坡　昭和17年7月 海音寺潮五郎・井伏鱒二編『作家部隊随筆集 マライの土』新紀元社　装丁：塚本圀太郎　スケッチ：栗原信　昭和18年3月 玉井政雄『南方画廊』春陽堂書店　装丁：久保田久一　昭和17年7月 太田恒彌『赤道従軍 ボルネオからフィリッピンへ』富士書店　昭和18年7月 山本和夫『詩集 亜細亜の旗』みたま出版　昭和19年1月 読売新聞社出版部編『神兵 大東亜陸戦記』読売新聞社　昭和17年10月 井出淺龜『佛印ものがたり』皇国青年教育協会　昭和17年5月 明石哲三『南方絵筆紀行』鶴書房　昭和17年12月 浅野晃『ジャワ戡定余話』白水社　昭和19年1月 東京日日新聞社・大阪毎日新聞社編『大東亜戦史ジャワ作戦』東京日日新聞社・大阪毎日新聞社　昭和17年11月 長生俊良『戦記 司令部南進』日本報道社　装画：田中佐一郎　昭和19年12月 岡崎文勲（述）『南方翔破万里』太平洋協会出版部　装丁・挿絵：岡崎文勲　昭和18年12月 都築等『南方そぞろある記』三友堂　装丁：霊泉　昭和19年10月 内藤英雄『シンガポール』愛国新聞社出版部　昭和16年11月 武藤夜舟『南方の姿』高山書院　装丁：新居廣治　昭和16年11月 阿部艶子『比島日記』東邦社　昭和19年2月 和田敏明『マニラ脱出記』成徳書院　装丁：吉田貫三郎　昭和17年5月 松下紀久雄『南を見てくれ』新紀元社　表紙：松下紀久雄　昭和19年8月 読売新聞社編『大東亜戦史 比島作戦』読売新聞社　装丁：猪熊弦一郎　昭和17年11月 武富邦茂『南方の国めぐり』新潮社　装丁：恩地孝四郎　昭和17年12月 山本實彦『巨いなる歩み』改造社　装丁：川端龍子　昭和17年10月 長谷川春子『東亜あちらこちら』室戸書房　昭和18年1月
2. 絵葉書に描かれた南方	〈絵葉書〉	向井潤吉「比島スケッチ１」「比島スケッチ１」「前線朗景」 宮本三郎「シンガポール英軍の降伏」「山下、パーシバル両司令官会見図」 藤田嗣治「河内附近ドアンピー」 鶴田吾郎「神兵バレンバンに降下す」「スコール後の西貢」 伊原宇三郎「焦土のビルマ」「ビルマノ僧侶」

		高橋亮「酋長任命式」 古嶋松之助「煙草売と馬車」 矢崎千代二「マゲランの銀座通り」 星野勝次郎「安南田舎の母子」 開秀水「マレイの子供（男）」「マレイの子供（女）」 栗原信「ジヨホール遠望」 福田豊四郎「ジヨホールより昭南島を望む」 鶴井実「キヤツポ寺院」 橋本八百二「仏印ハノイ音楽堂附近を散歩する皇軍将兵」 川島理一郎「ワットポー寺院ノ尖塔　バンコック」 永井保「タルラック軍兵站支部」 鈴木栄二郎「大東亜戦第一春」「爆撃行の朝」「コレヒドールの桟橋」 鈴木栄二郎「市場風景フイリッピン」「バタアンにて」「街を往く人々」「マニラ近郊（バタアン半島を望む）」「比島南部の水牛車」 荻須高徳「ポアント デ ブラギョール（サイゴン）昭和17年2月」「サイゴン河」「メコンの渡し（プノンペン）昭和17年3月」「アンコールトム（佛印）昭和17年3月」
3. 画家が描いた南方	〈書籍〉	古城江観『南を描く』大雅堂　昭和18年6月
古城江観	〈絵画〉	「爪哇・ヒンズー寺院」「爪哇・バタビア」「爪哇・スマラン」「バリ島ギャニャール」「爪哇・スラバヤ」「爪哇・バッサル」
清水登之	〈書籍〉	清水登之『南方従軍書信』国際情報社出版部　昭和18年10月
	〈絵葉書〉	「昭南 筑紫山を望む」「ボルネオ ボルネオ・イガン河畔ダイヤの踊」「仏印 仏印のマライ女」
宮本三郎	〈書籍〉	宮本三郎『宮本三郎南方従軍画集』陸軍美術協会出版部　序文：藤田嗣治　昭和19年3月
	〈絵葉書〉	「プキテマ三叉路（シンガポール）」「マライの水売」「マライの少女」
伊東深水	〈絵葉書〉	絵葉書16枚
その他	〈書籍〉	橋本関雪『南を翔ける』朝日新聞社（表紙：橋本関雪）昭和18年5月 高見順・伊原宇三郎・田村孝之介『共栄圏文化 ビルマ』陸軍美術協会出版部（装画：田村孝之介）昭和19年2月
	〈雑誌〉	住喜代志『南方画信 50』 陸軍美術協会出版部　昭和17年9月 住喜代志『南方画信 第二輯 80』陸軍美術協会出版部（表紙：田村孝之介）昭和17年12月
	〈地図〉	「外南洋ニ於ケル邦人拓植事業状況図」　昭和13年3月　拓務省 「大東亜共栄圏及び太平洋要図」　昭和16年4月　内閣印刷局
■第四章　前線と銃後を支える大衆－ラップナウ・コレクションに見る戦時下の文化生産		
1. 労働動員	〈絵葉書〉	中村研一「護れ傷兵郷土の誉」 堀文子「落下傘を造る少女」 伊原宇三郎「火花散る必勝の生産拡充」 柴田安子「木材供出」 朝倉摂「晴晨」 京都絵画専門学校共同作品「収穫」 大野隆徳「銃後の農村」
	〈その他〉	宣伝チラシ「軍人精神もて・・・・・・産業を振興せよ。」
2. 前線への慰問	〈絵葉書〉	竹中英太郎「慰問文」 作者不明「陸軍省受付ノ雑踏」 岩田専太郎「慰問袋」 多田北鳥「慰問文」 富田千秋「慰問袋と兵士」 作者不明「千人針風景」
	〈その他〉	チラシ：日本百貨店組合「陸軍省御選定慰問袋に関する標語八種」 皇軍慰問軍人お面 海洋少年団お面
3. 銃後を支える女性たち	〈絵葉書〉	川田茂「祈武運長久」 高畠華宵「武運を祈りて」 小林万吾「戦傷兵を慰む」 作者不明「輝く対面」 福田豊四郎「銃後の田園」 杉浦幸雄「あなたの戦果に私の戦果」
	〈その他〉	絵葉書袋：陸軍省「聖戦第二周年」 チラシ：「女性進軍」
4. 国債と募金による前線支援	〈絵葉書〉	作者不明「街頭募金」 大阪逓信局「無題」
	〈その他〉	日本勧業銀行「戦時報国債券 金拾圓」（昭和17年） 大日本帝国政府「支那事変国庫債券 五拾圓」（昭和15年） リーフレット：大蔵省「支那事変国債」 リーフレット：大蔵省「支那事変国債」（第8回） リーフレット：大蔵省「知那事変国債」（第11回） リーフレット：大蔵省「支那事変国債・郵便局売出し」（第12回） チラシ：「長期建設・貯金報国」（日本昼夜銀行・安田経営）
5. 産業界からの支援	〈その他〉	ポスター：大阪朝日新聞社主催「大東亜建設博覧会」 ポスター：京都府国防協会主催「第二線国防大展覧会」 リーフレット：大阪朝日新聞社主催「支那事変 聖戦博覧会」 チラシ：渋谷 二幸「在満洲皇軍慰問 甲州園ブドウ酒」試飲宣伝 ラベル：会社名不明「国防靴下」 ポスター：富山市 広貫堂「躍進日本 アジアの広貫堂」 ポスター：科学動員協会・日刊工業新聞社主催「国防科学大博覧会」

		登録商標「入城印」学生服 皇軍御慰問「文化ウツシエ」
6. 家族を守る保険と医療	〈その他〉	リーフレット：日本徴兵保険株式会社「徴兵保険案内」 リーフレット：日本徴兵保険株式会社「愛児の希望」 リーフレット：日本徴兵保険株式会社「生存保険案内」 リーフレット：第一徴兵保険株式会社「護国養老保険」 リーフレット：日本赤十字社「国の華 忠と愛との赤十字」 リーフレット：国華徴兵保険株式会社「徴兵保険案内」 軍属に配布される「日用品袋」（陸軍需品本廠）
7. 国内外への宣伝	〈その他〉	宣伝チラシ「諸君‼ 国を守るは誰か？それは軍人の力……」 宣伝チラシ「生命線の危機」 宣伝チラシ「日本軍大勝利（裏面：告中国民衆）」（中国語） 宣伝チラシ「中日速携手 便得見太平 我們是一家 自古説至今」（中国語） 紙風船「一本の古釘も！国の力‼」（表）、「一億進軍の時来る！」（裏：パネル） 空襲に対する家庭の心得（岐阜県） 中国人抵抗者に呼び掛ける日本軍の「投降票」
8. 米軍による宣伝ビラ（伝単）		宣伝ビラ「空襲予告」 宣伝ビラ「南洋は南洋 日本は日本」 宣伝ビラ「日本軍部は独逸の車夫」 宣伝ビラ「住民に対する注意」 宣伝ビラ「日本が老人と女子供ばかりの国となってもよいか」、裏面パネル 宣伝ビラ「大東亜共栄圏」、裏面パネル 米軍の宣伝ビラ「非戦闘員への避難勧告」 米軍投下の「落下傘ニュース」 米軍文書「ソ連、日本に宣戦を布告」
その他	〈地図〉	「太平洋地図」　昭和17年1月　高踏社 大阪毎日新聞社編「帝国国防大地図」　昭和8年1月　大阪毎日新聞 日本放送協会編「大東亜戦争放送ニュース聴取用地図」　昭和17年1月　日本放送出版協会
	〈その他〉	チラシ「戦勝市民の歌」
■姫路市平和資料館協力「〈外地〉からの便り　軍事郵便絵葉書」：姫路市平和資料館蔵		
	〈絵葉書〉	作者不明「北京臥佛寺之鐘」 作者不明「嘉興風景」 中村直人「山西省　太原平野にて」「山西省大谷」 作者不明「呉淞クリーク」 作者不明「仰ぐ銀翼」 石井光楓「放鳩」 作者不明「西郭祠浜」 伊谷賢蔵「戦のあと」 和田香苗「紫金山」「石佛」 恩地孝四郎「紫金山望見」 曙堂「張家口」 川島理一郎「輝く東亜の道」 栗原信「イヤサカ村（ジャムス）」 池田實人「広東珠江」 作者不明「南京入場式　昭和12年12月17日　中山門　歩兵部隊の入城」 小早川秋声「戦塵を洗ふ」「事変発祥の地　龍王廟」「月下」「愛撫」 鶴田五郎「町からの帰り」「路上の菓子売」 奥瀬英三「輸送船遡行」「岳陽楼」「無題」 向井潤吉「進撃スル野砲隊」 水平護「文昌江の眺め」 野中勲夫「マニラ市場」 古島松之助「蘇州所見」 H.AKIYOSI「無題」「無題」 大東亜戦争記念報国葉書　第１集（逓信省発行） 　吉岡堅二「ハワイ真珠湾強襲」・小磯良平「香港黄泥涌高射砲陣地奪取」・宮本三郎「シンガポール英軍の降伏」 入隊後の訓練や生活の様子を漫画で描いた絵葉書2種　44枚
	〈その他〉	軍事郵便・簡易封筒タイプ（陸軍恤兵部発行） 　橋本八百二「南支最南戦地」 　武藤夜舟「珠江河口」 封筒表
	〈書籍〉	陸軍省報道部編「大陸戦史　画と文」陸軍画報社　昭和16年3月
■播磨ゆかりの作家たちの〈外地〉：姫路文学館蔵		
	〈書籍〉	木山捷平『長春五馬路』筑摩書房　昭和43年10月 木山捷平『大陸の細道』新潮社　昭和37年7月 阿部知二『火の島―ジャワ・バリ島の記』　昭和19年7月　創元社 阿部知二『死の花』昭和22年9月　新文芸社 阿部知二『北京』昭和13年４月　第一書房 阿部知二『大河』昭和22年6月　新潮社　装幀：中西利雄
	〈絵葉書〉	岸上大作　父からの軍事郵便　昭和18年（1943）～昭和20年（1945）　5点
戦況を伝える当時の新聞：個人蔵		

2　第４回藤原正彦姫路文学館長講演会

我が国のオピニオンリーダーの一人である藤原正彦姫路文学館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が、現在の日本社会、日本文化について講演するもの。

日　時　　令和７年６月１日（日）　午後１時 30 分～３時
会　場　　姫路キャスパホール
参加者　　330 人
演　題　　「明治に学ぶこれからの日本」
内容等　　古来、世界的にも稀有な教養と礼節を持ちえた日本人が、近代以降、欧米諸国との交わりのなかで根なし草と化し、現代の混迷に至った経緯を検証。「欧米の民主主義を支えてきた、自由、平等、人権は、外に向けて叫ぶことであり、論理の衝突を招く。それを防ぐには惻隠の情や誠実をもって内省すること」と説き、世界の平和のためには「今こそ本来の日本人の美質が学ばれるべき」と力説した。



3　第27回司馬遼太郎メモリアル・デー

現代日本を代表する作家であった司馬遼太郎の業績を顕彰するために、毎年司馬の生誕日である８月７日に開催。

講師に作家の澤田瞳子氏を招き、司会はラジオ関西番組のパーソナリティを務める田名部真理氏が担当した。

澤田氏は、「司馬さんは、歴史小説として歴史的な事実を巧みにフィクションに織り込んでいかれた。時代の変革の中で生きている人を書くのが一番の本領だった」とし、「歴史小説とはなにか」と題して以下のように話された。

歴史小説は、歴史を作っていく存在である。例えば幕末といえば、薩長土肥と奥羽越列藩同盟、佐幕か倒幕などのイメージがあるが、多くの藩はどちらでもなく、そうでない幕末だった。一般的な幕末のイメージは豊富にある創作物によって生まれたものである。織田信長、土方歳三、坂本龍馬の三人も、明治から戦前、戦後と、歴史小説に書かれることにより人物像が変わってきた。現在の多くの人が思う土方や龍馬の人物像は、司馬さんの影響が大きい。

歴史小説は、翻訳小説と考える。その時代の雰囲気を残しつつ、今の人に親しみやすい言葉や描写に作り変えることは、一種の翻訳に近い作業といえる。

歴史小説は、研究と不仲という人もいるがそんなことはない。司馬さんは研究者と仲が良かった。学問であり、固有の方法と分析によって過去の事実を再現する歴史学と基本的に虚構の歴史小説では、歴史へのアプローチの仕方が違う。小説を読んで歴史に興味を持ち、自分なりに知識を深めていってくれればうれしい。研究者が新しい知見を得て、新しい事実を知り、書いた論考から、新しい物語が生まれていく。二者は双の車輪であるべきだ。

歴史小説は、書いていても楽しいし、読んでも楽しい。研究者が書かないことを掬い上げ、歴史のイメージというものを我々に身近に感じさせてくれる小説は、我々が生きていく日常を豊かにしてくれるものである。自身もそういう作品を書いていきたいし、多くの歴史創作に触れて楽しく世の中について学んでいきたい。

ラジオ関西が１時間の特別番組に編集し、８月 20 日（火）午後６時から放送した。
全記録を「姫路文学館紀要　No.28」に収録している。

日　　時　　令和７年８月７日（木）　午後１時 30 分～３時
会　　場　　姫路文学館講堂
協　　賛　　公益財団法人司馬遼太郎記念財団
参加者数　　250 人
講　　演　　澤田瞳子（作家）
　　「歴史小説とはなにか」



澤田瞳子氏

4　第11回藤原正彦エッセイコンクール

エッセイストとしても人気の高い当館の藤原正彦館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が「読書」とともに推奨する「書くこと」の大切さを伝えるため、平成27年度に創設した。「生きることとは創ること」という藤原館長の言葉をキャッチフレーズに、何気ない日常、出会った人や書物など、心のどこかに宿り自分自身をつくり出しているものを見つめ、考え、文章にする機会を全国に発信するものである。

入賞作品は、表彰式において配布する作品集（冊子）や、姫路文学館ホームページに掲載。また、各部門の最優秀作は文化雑誌「バンカル」139号（令和８年３月　姫路市文化国際交流財団発行）でも紹介した。

■賞の概要

（1）応募規定

対象は中学生以上、テーマは自由、400字詰め原稿用紙５枚以内。日本語で書かれた自作で、未発表のものに限る。令和７年９月18日〆切。

（2）審査員

姫路文学館館長　藤原正彦（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）

（3）賞

各部門とも〈最優秀賞〉〈優秀賞〉〈佳作〉各１編。賞状、藤原正彦館長のサイン入り著書と副賞を贈呈。

〔副賞〕

	最優秀賞	優秀賞	佳　作
中学生部門	図書カード1万円分	図書カード5千円分	図書カード2千円分
高校生部門	図書カード3万円分	図書カード1万円分	図書カード5千円分
一般部門	10万円	3万円	1万円

■受賞作及び受賞者

※学年、職業は発表日（令和７年12月20日）時点

【中学生部門】

最優秀賞　「五時間目という戦場」尾上直孝（兵庫県 姫路市立琴陵中学校２年）

優 秀 賞　「月桃」平山心陽（青森市立西中学校１年）

佳　　作　「散髪代は三千円」田内颯太（兵庫県　姫路市立広畑中学校１年）

【高校生部門】

最優秀賞　「本とともに」平野琴葉（兵庫県立姫路西高等学校１年）

優 秀 賞　「私の一歩」河野陽菜（山梨県　駿台甲府高等学校２年）

佳　　作　「画面に映らない幸せ」塚田あすみ（東京都　青稜高等学校２年）

【一般部門】

最優秀賞　「いのちを生きる」日沼よしみ（無職　山梨県南アルプス市）

優 秀 賞　「つなぐ」井口未来（主婦　東京都練馬区）

佳　　作　「父への詫び状」二村直子（主婦　三重県四日市市）

■応募点数

1,931点（中学生部門　547点、高校生部門　761点、一般部門　623点）

■表彰式

日　時　　令和８年１月18日（日）　午後１時30分～３時

会　場　　姫路文学館講堂

内　容　　表彰式、各部門最優秀作（計３点）の朗読（音訳ボランティア サークルさえずり　佐藤えりこさん、松下由美さん、伊藤恵美さん）、藤原正彦姫路文学館長による講評・講演
参加者　　100名



5　第14回「世界にひとつの絵本づくり」

二回の授業でおはなしづくりから製本まで一から自分だけの絵本をつくり上げる、夏休み恒例のワークショップ。たつの市出身で京都在住の画家・絵本作家の成広のり子氏による指導が好評で、準備してきたプロットにそって手を動かす子や、絵本の展開について議論する親子など、参加者の真剣な姿がみられた。

講　師　　成広のり子（画家・絵本作家）
会　場　　姫路文学館講堂
日　時　　令和７年７月26日（土）、８月２日（土）
●午前の部　午前10時～12時
●午後の部　午後２時～４時
対　象　　小学１年生～中学３年生
参加費　　１人（１冊）500円
参加者　　計91名と保護者



6　第15回ＫＯＴＯＢＡまつり

会　期　　令和７年７月12日(土)～令和８年３月７日（土）　　全４イベント
会　場　　姫路文学館講堂

幅広い年齢層の参加者がさまざまなイベントを通して「ことば」との出会いを楽しむことのできる恒例行事。

■　琴丘高生の案内で江戸時代のガイドブック『名所図会』にトラベル！

江戸時代に旅行案内本として人気のあった『江戸名所図会』に登場する名所旧跡・景勝地や人気の土産物を、姫路市立琴丘高等学校図書文芸部の学生が解説。解説の後、学生から和綴じの方法について説明を受けながら、ノート作りに挑戦した。


姫路市立琴丘高等学校図書文芸部

日　時　　令和７年７月12日（土）
　　午後２時～２時40分
出　演　　姫路市立琴丘高等学校図書文芸部
参加者　　40人

■　『遠野物語』朗読会

播磨ゆかりの民俗学者・柳田國男（1875年・明治8年～1962年・昭和37年）の生誕150年を記念し、初期の代表作にして「民俗学の最高傑作」とも評される「遠野物語」を、声優の桂佑輔氏が朗読。〈山に住む異人〉〈里の生活〉〈妖怪の消息〉〈魂の行方〉の四つのテーマで朗読箇所を抜粋し、学芸員の解説と共にお聞きいただいた。


桂佑輔氏

日　時　　令和７年10月18日(土)
　　午後１時30分～３時
出　演　　桂佑輔（声優）
参加者　　110人

■「兵庫県立大学環境人間学部　卒業設計展―建築からひろがる風景―」

兵庫県立大学環境人間学部の学生による卒業設計展の５回目。建築模型を展示するとともに、プレゼンテーション映像やパネル展示などを通して、設計の意図や、作品に込めた想いを紹介した。同学部２年生・３年生の設計演習優秀作品も展示。


展示風景

会　期　　令和８年２月14日（土）～２月20日（金）
協　力　　兵庫県立大学環境人間学部
来場者　　236人

■絵本朗読劇「おなべ おなべ にえたかな？」

兵庫県立姫路工業高等学校演劇部が絵本「おなべ おなべ にえたかな？」（こいでやすこ作　福音館書店）の朗読劇を上演。演劇と朗読が一体となった独自の演出で、小さなお子様から大人まで、幅広い年齢層の観客を楽しませた。



日　時　　令和８年３月７日（土）
　　午前11時～15時
　　（全４回公演・各回20分）
出　演　　兵庫県立姫路工業高等学校演劇部
参加者　　のべ70人

7　第17回如月まつり

地域との連携として、文学館東隣りの男山八幡神社厄神祭の開催日にあわせて開催。常設展を無料開放し、姫路文学館友の会ボランティアによる常設展ガイド、古本市などを開催した。

日　時　　令和８年２月18日（水）・19日（木）　午前10時～午後５時
会　場　　姫路文学館
来場者　　673人

○常設展（企画展）無料開放
　企画展「戦後80年　戦時下の大衆文化―〈外地〉へのまなざしを振り返る」（北館）を開催。
○文学館クイズラリー
　こども用・おとな用２種類のクイズを作成し、答えを探しながら見学できるようにした。
○常設展ボランティアガイド
　姫路文学館友の会ボランティアの展示ガイドグループ５人が担当した。
○おはなし会
　図書室（南館）前にて、姫路文学館友の会ボランティアのおはなし会グループ４人が絵本の読み聞かせを行った
○古本市（南館さんかくギャラリー）
　市民から提供された古本を50円～100円で販売。



おはなし会



古本市

8　講座・読書会

（1）古典文学講座「源氏物語の世界」

講　師　　中川正美（梅花女子大学名誉教授）
会　場　　姫路文学館講堂
日　時　　原則として第２金曜日　※６月は第４金曜日　午後1時30分～3時
受講料　　（10回通しで）6,000円
受講者　　113人

日程と内容

令和７年４月11日（金）	柏木巻①	煙の贈答
５月９日（金）	柏木巻②	黛出産と女三宮出家
６月27日（金）	柏木巻③	夕霧の見舞い
７月11日（金）	柏木巻④	黛五十日祝
９月12日（金）	柏木巻⑤	夕霧の落葉宮訪問
10月10日（金）	横笛巻①	朱雀院から筍
11月14日（金）	横笛巻②	夕霧と落葉宮合奏
12月12日（金）	横笛巻③	柏木、夕霧の夢に出現
令和８年１月９日（金）	鈴虫巻①	女三宮持仏開眼供養
２月13日（金）	鈴虫巻②	冷泉院での月の宴

（2）文学・思想講座「よりよく自己を生きるために　日本文化と日本語」

講　師　　岡田勝明（姫路獨協大学名誉教授）
会　場　　姫路文学館講堂
日　時　　原則として第１木曜日　午前10時～11時30分
※８月の回は、７月の第５木曜日
※令和８年１月は、第２木曜日
受講料　　（10回通しで）6,000円
受講者　　115人

日程と内容

令和７年４月３日(木)　藤田正勝
『日本文化をよむ』　…日本文化の自画像
５月１日(木)　石川九楊
『日本語とはどういう言語か』　…日本語の特質
６月５日(木)　今野真二
『日本語のミッシング・リンク』　…江戸と明治の日本語
７月３日(木)　向井一太郎　向井修太郎
『ふすま―文化のランドスケープ』　…「ふすま」から見える日本文化

７月31日(木)　魚住孝至
『芭蕉 最後の一句』　…ほんとうの辞世の句
10月２日(木)　森田良行
『日本人の発想　日本語の表現』　…日本人の思考様式
11月６日(木)　金谷武洋
『日本語文法の謎を解く』　…借り物でない文法
12月４日(木)　飛田良文
『明治生まれの日本語』ことばの造語過程
令和８年１月８日(木)　長滝祥司
『知覚とことば』…始原的な知覚世界
２月５日(木)　吉田金彦
『地名語源からの万葉集』…風土語源学からの視角

（３）「司馬遼太郎の「項羽と劉邦」「花咲ける上方武士道」「街道をゆく」などを読む」読書会

南館・司馬遼太郎記念室において常設展示している司馬遼太郎の作品を読む読書会。参加者が、課題図書の内容にそって考えを自由に述べあい、作品の理解を深めることを目的とする。

令和7年度は、中国を舞台とした小説「項羽と劉邦」、初期の小説「花咲ける上方武士道」、紀行文集「街道をゆく」などの作品を取り上げた。

会　場　　姫路文学館会議室
日　時　　原則として毎月第２土曜日　午前９時30分～12時
参加者　　23人

課題図書
令和７年５月10日（土）　『街道をゆく20　中国・蜀と雲南のみち』
６月14日（土）　『花咲ける上方武士道　上・下』
７月12日（土）　『司馬遼太郎が考えたこと２』
８月９日（土）　『おれは権現』
９月13日（土）　『項羽と劉邦　上・中（前半)』
10月11日（土）　『項羽と劉邦　中（後半)・下』
11月８日（土）　『日本人の内と外』
12月13日（土）　『街道をゆく16　叡山の諸道』
令和８年２月14日（土）　『アームストロング砲』
３月14日（土）　『妖怪　上・下』

9　博物館実習・「トライやる・ウィーク」ほか

■博物館実習

学芸員資格取得の講座を持つ下記の大学からの依頼をうけ、次のとおり実施した。

期　間　　令和７年７月31日（木）～５日（火）　計５日間

実習生　　神戸芸術工科大学　１人　　岡山大学　１人　　神戸松蔭大学　１人　京都府立大学　１人
　　関西学院大学　　１人　　神戸学院大学　２　　計　７人

	午　前		午　後	
７月31日（木）	9:30～10:00 オリエンテーション 課題（企画展立案）説明	会議室	13:00～13:30 文学館活動概説　前半	会議室
			13:30～15:30 ガイドボランティア　活動見学	館　内
	10:00～11:00 館内（バックヤード）見学	館　内	15:30～16:30 文学館活動概説　後半	会議室
	11:00～12:00 企画展の実務の流れ	会議室	16:30～17:00 実習ノート、企画展構想　自習など	
８月１日（金）	9:30～11：00 掛軸・巻子取り扱い 資料の状態チェック、調書の実務	会議室	13:00～14:30 キャプション、企画展リード文等の作成について　解説と実作	会議室ほか
	11：30～12:00 中性紙箱の組み立て作業		14:30～15:30 絵本づくりワークショップ会場設営	
			15:30～17:00 企画展構想　自習	
８月２日（土）	9:30～12:00 絵本づくりワークショップ補助 ※途中、半分の実習生は、1時間程度、ＳＮＳ情報用の取材と撮影	講　堂ほか	13:00～16;30 絵本づくりワークショップ補助 ※途中、半分の実習生は、1時間程度、ＳＮＳ情報用の取材と撮影	講　堂
８月３日（日）	9:30～11:00 南館収蔵庫清掃及び点検口確認作業	収蔵庫	13:00～15:30 北館収蔵庫清掃及び点検口確認作業	収蔵庫
	11:00～12:00 ＳＮＳ情報発信用のテキスト、写真加工など作成。	会議室	15:30～17:00 企画展構想自習	会議室
８月５日（火）	9:30～12:00 企画展構想　発表準備 （発表用資料のコピー等）	会議室	13:00～15:00 課題（企画展立案）の発表	会議室
			館内の事務補助など	
			16:00～17:00 実習ノートまとめ	

■トライやる・ウィーク

兵庫県が平成10年度から県内の中学２年生を対象として実施している地域での体験活動週間。令和７年度は、下記の中学校から４人の生徒を受け入れた。生徒は、館職員の指導のもと、図書室に設置するお薦め本の紹介パネル作成をはじめとして、資料取り扱い実技、郵送物準備作業、館ボランティアとの発送作業や、館内の清掃、受付業務など、さまざまな業務を体験した。

期　間　　令和７年６月３日（火）～６月６日（金）　計４日間

受入生徒　　姫路市立城乾中学校　　１人　　姫路市立東光中学校　　１名
　　姫路市立夢前中学校　　２人

■トライやるＤａｙｓ

近隣の私立賢明女子学院中学校から職業体験学習として２年生４人の生徒を受け入れた。生徒は、館の業務について説明を受け、館職員の指導のもと、郵送物準備作業、イベントの準備、受付業務などの業務を体験した。

期　間　　令和７年７月24日（木）　１日間

10　出前講座

実 施 日	出 講 先	内　　容	講　　師
５月13日	高砂市高齢者大学	車谷長吉展について	竹廣裕子学芸課長
５月14日	姫路市立前之庄公民館	むかしむかしのはりまのおはなし	甲斐史子副館長
５月31日	朝日カルチャーセンター中之島	車谷長吉　虚実のはざまを生きた作家	竹廣裕子学芸課長
５月31日	神戸学院大学「博物館実習Ⅰ」	文学館とは何か―その特性と可能性	甲斐史子副館長
６月14日	たつのあいあい塾	没後10年 作家車谷長吉について	竹廣裕子学芸課長
７月６日	淡交会姫路支部連合会	茶と美と文芸を愛した姫路城主　酒井宗雅	甲斐史子副館長
７月19日	加東市成人学習事業「文学講座」	第１回　詩人「坂本遼」の生涯	甲斐史子副館長
７月29日	碧川かたを朝ドラの主人公にする会	龍野ゆかりの歌人　安田青風　人と作品	竹廣裕子学芸課長
８月10日	加東市成人学習事業「文学講座」	第２回　作品（詩、児童小説）から見える「坂本遼」	甲斐史子副館長
８月27日	姫路市立城の西公民館	文学に描かれた播磨　和歌でめぐる播磨　姫路を中心に	杉田陽子学芸員
９月14日	アクリエひめじ	楽市楽座トークショー2025への出演	甲斐史子副館長
10月25日	関西大学校友会神崎支部総会	福崎町出身の夭折の歌人・岸上大作	竹廣裕子学芸課長
10月28日	姫路ロータリークラブ	播磨が生んだ抒情詩人　有本芳水	甲斐史子副館長
11月15日	神河町公民館 成人ゼミナール	詩人　坂本遼	甲斐史子副館長
11月23日	文化財活用講座 （於 網干・旧山本家住宅）	網干ゆかりの俳人　赤尾兜子と森澄雄	竹廣裕子学芸課長
3月20日	兵庫県立歴史博物館「博物館ボランティアコーディネーター養成セミナー」	“双方向”の関係づくりを目指して―姫路文学館ボランティアの場合	甲斐史子副館長
５月31日	神戸学院大学 学芸員課程	文学館とは何か―その特性と可能性	甲斐史子副館長
３月14日	あまかわ文庫 姫路駅前店	南陀楼綾繁氏とのトークショー「文学と人が出会う場所」への出演	竹廣裕子学芸課長

12　出版活動

姫路文学館では、展覧会に際しての図録やパンフレットの制作、館報「手帖・姫路文学館」や目録、紀要の発行等を行っている。

（１）姫路文学館紀要の発行

学芸部門の研究成果を世に問う場として、平成９年度より紀要を発行している。(年刊)

『姫路文学館紀要　№29』
令和8年３月31日　　編集・発行／姫路文学館
A5判　135頁　300部　￥800
内容　〔第27回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演ほか〕
□講演「歴史小説とはなにか」　澤田瞳子（作家）
〔記録〕
□「没後十年　作家　車谷長吉展　開幕記念対談　高橋順子・前田速夫「私だけが知っている車谷長吉」」　高橋順子・前田速夫・竹廣裕子
□「令和３年度企画展　絵本作家長谷川集平の仕事展　絵本デビュー46年のキープ・オン・ロッキン！」　甲斐史子

（２）館報「手帖･姫路文学館」の定期発行

年４回　　令和７年４月１日（第135号）　　令和７年７月１日（第136号）
令和７年10月１日（第137号）　　令和８年１月１日（第138号）
A4判　８頁　非売品



手帖 姫路文学館 135号



136号



137号



138号

資 料 概 要

1　資料収集状況

（1）令和７年度収集資料数

※登録番号を採番した（整理をおこなった）資料の数。

種別	購入	寄贈	制作	寄託	その他	計
書籍・雑誌	321	2,556	8		17	2,902
原稿	2	628			2	632
書簡	5	3				8
書画・墨蹟	1				9	10
遺品						
その他		15			34	49
写真						
映像・音声					3	3
レプリカ						
計						3,604

資料総数　約18万点

主な新資料

〔寄贈〕

小林万里氏　　三上参次書扁額「清貞凌俗」
山野博史氏　　柳田國男関連資料　６点
関　考人氏　　五十嵐播水主宰俳誌「九年母」表紙　中村徳三郎画　８点
上岡克年氏　　横溝正史作品掲載雑誌　65点
井澤邦輔氏　　車谷長吉書簡　18点
笹尾勝彦氏　　笹尾誠一関連資料　243件
中岡千代美氏　川柳誌「番傘」　540点
越智久美子氏　永田耕衣書扁額「桃花窟」、永田耕衣旧蔵掛軸「高橋新吉書」
池野まき子氏　「播磨鑑」乾本　１点（11冊）
木割大雄氏　　赤尾兜子関連資料　５点

〔購入〕

五味康祐草稿「雪の恨み」
浦山桐郎シナリオ草稿
司馬遼太郎草稿「『うたう』という話」
馬場文耕『皿屋舗辨疑録』全五巻（写本）

（2）情報検索システム登録件数（令和８年５月31日現在）

種別	件数
書籍	74,597
雑誌	53,845
書簡	14,990
書画・遺墨	2,108
原稿	5,500
写真	1,089
映像・音声	1,060
その他	17,533
文人基本データ	327
デジタルアーカイブ	1,441
絵本・児童書	2,254
計	174,744

システム開発　株式会社ハナテックコンピュータシステム（旧・環境総合研究所）

2　協力者一覧（50音順　敬称略）

【個人】

明石久美子	麻生直子	荒木　茂	有本倶子	井口文彦	以倉紘平	石井正己
井出和枝	伊藤松溪	井上琢智	宇井十間	植村初子	上野一孝	ウチダスエヒロ
江里昭彦	大谷司郎	大野とくよ	大橋毅彦	岡田　功	岡田清治	尾崎美紀
小澤紘司	小畑庸子	鎌倉佐弓	上岡克年	上村亮二	香山雅代	川涯利雄
木割大雄	小坂忠弘	小嶋菜温子	坂口太郎	佐々木啓子	佐藤岳俊	佐野けい
城野千里	白石　烈	白濵忠信	城谷　章	末永　航	鈴木眞紀子	高島愼助
高橋順子	田口麻奈	谷　昭佳	玉井洋子	恒藤滋生	坪内稔典	東海晴美
時里二郎	徳田隆一	中岡千代美	中野隆之	長福香菜	中村猛虎	中山幹雄
成広のり子	難波正司	はおまりこ	林　桂	日向理恵子	藤居　健	藤保君子
堀千枝子	前田隆弘	牧田榮子	牧野有通	茉莉亜まり	三浦木兎	宮島光志
宮本久雄	森永陽一郎	山田英子	山田佳乃	山野博史	山本淑美	横山美代子
吉田昌志	吉田萬壱					

【法人】

青森県立郷土館	明石市立天文科学館	明石市立文化博物館	明石文化・スポーツ室歴史文化財担当	秋田県立博物館
あきば詩書工房	赤穂義士顕彰会	赤穂市教育委員会	赤穂市美術工芸館田淵館	赤穂市立歴史博物館
あさご芸術の森美術館	旭川市井上靖記念館	芦屋市谷崎潤一郎記念館	梓俳句会	尼崎芸術文化協会
尼崎市文化振興財団	石川近代文学館	石川県西田幾多郎記念哲学館	石川県立美術館	石坂洋次文学記念館
泉鏡花記念館	一茶記念館	井上靖記念館	井上靖記念文化財団	茨木市立川端康成文学館
いぶき発行所	いわき市教育文化事業団	いわき市立草野心平記念文学館	岩手県立博物館	印刷博物館
印南野半どんの会	NHK出版	円虹発行所	大洗町幕末と明治の博物館	大倉精神文化研究所
大阪国際児童文学振興財団	大阪俳句史研究会	大阪歴史博物館	大田区立龍子記念館	大手前大学史学研究所
岡崎市美術博物館	岡山シティミュージアム	小川未明文学館	大佛次郎記念館	小野市立考古館
「香・大賞」実行委員会	香川県歴史ミュージアム	学習院大学上方文学研究会	学習院大学史料館	かごしま近代文学館かごしまメルヘン館
加西短歌の会	風花随筆文学賞実行委員会	霞城館・矢野勘治記念館	火星俳句会	風の道　雨の匂　石の刻
神奈川近代文学館	神奈川文学振興会	金沢文化振興財団	金沢文芸館	蒲郡俊成短歌大会実行委員会
嘉麻市教育委員会	軽井沢高原文庫	Currentの会	河井継之助記念館	川崎市市民ミュージアム
菊池寛記念館	北九州市立文学館	北九州市立松本清張記念館	京都市学校歴史博物館	京都文化博物館
虚子記念文学館	麒麟俳句会	近代作家旧蔵書研究会	吟遊社	九年母会
クマヒラ・ホールディングス	熊本県立美術館	くまもと文学・歴史館	群馬県立土屋文明記念文学館	現代川柳研究会
県立神奈川近代文学館	講談社	高知県越知町立横倉山自然の森美術館	高知県立文学館	神戸学院大学地域研究センター
神戸女子大学古典芸能研究センター	神戸市立小磯記念美術館	神戸市立博物館	神戸深江生活史料館	交友プランニングセンター
郡山市文学資料館	郡山久米正雄記念館	國學院大學文学部	高志の国文学館	小諸市
小諸市教育委員会	さいたま市教育委員会	さいたま文学館	堺市博物館	さかい利晶の杜

坂の上の雲ミュージアム
佐佐木信綱研究会
産経新聞社
山頭火ふるさと館
四季派会東京事務局
詩人会議
児童文学同人「花」
司馬遼太郎記念館
紫明の会
勝央美術館
晶文社
ジョセフ彦記念館
白珠社
新宮市立佐藤春夫記念館
新宿区立漱石山房記念館
新書館
新葉館出版
杉並区立郷土博物館
杉発行所
成城大学民俗研究所
西南学院大学博物館
世界人権問題研究センター
世界俳句協会
世田谷文学館
Seven Seas
仙台文学館
相馬御風記念館　御風会
高岡市万葉歴史館
竹中大工道具館
たつの市立龍野歴史文化資料館
田鶴発行所
鬣の会
館林市教育委員会
館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念文学館）
田山花袋記念文学館
短歌ぐるうぷ象の会
短歌人会
遅筆堂文庫
ちゅうでん教育振興財団
調布市武者小路実篤記念館
調布市武者小路実篤記念館運営事業団
潮流出版社
東京大学史料編纂所
東京都江戸東京博物館
東京都台東区中央図書館
TOKYOPOP
時の川柳社
徳島県立文学書道館
徳田秋聲記念館
鳥取県立博物館
鳥羽水族館
豊島区立郷土資料館
中原中也記念館
中村元記念館
新潟市會津八一記念館
新見南吉記念館
西田幾多郎記念哲学館
西宮市立郷土資料館
西脇重三郎を偲ぶ会
日本歌人クラブ
日本近代音楽館
日本近代文学館
日本現代詩歌文学館
女人随筆社
沼津牧水会
野田宇太郎顕彰会（小郡市立図書館内）
俳句文学館
白圭社
原阿佐緒記念館
播磨学研究所
播磨郷土資料館
播磨歴史ネットの会
阪急文化財団
火野葦平資料館
姫路科学館
姫路歌人クラブ
姫路コンベンションビューロー
姫路市書写の里・美術工芸館
姫路市文化国際交流財団
姫路市立城内図書館
姫路市立水族館
姫路市立美術館
姫路文学会
姫路文学人会議
兵庫県歌人クラブ
兵庫県現代詩協会
兵庫県立好古博物館
兵庫県立美術館
兵庫県立人と自然の博物館
兵庫県立歴史博物館
兵庫陶芸美術館
風琴の会
福井県ふるさと文学館
福岡市文学館
福崎町立柳田國男・松岡家記念館
福崎町教育委員会
ふくやま文学館
ブルボン吉田記念財団
文学圏社
文京区立森鷗外記念館
編集工房ノア
防災100年えほんプロジェクト実行委員会
防府観光コンベンション協会山頭火ふるさと館
北海道文学館
前橋文学館
松の花俳句会
松本清張記念館
松山市立子規記念博物館
三浦綾子記念文化財団
美加志保短歌会
岬の分教場保存会
美作学術文化振興財団
碧川かたを朝ドラにする会
室生犀星記念館
麝の木俳句会
森鴎外記念館
焼津市（焼津小泉八雲記念館）
やまぐに俳人会
大和文華館
山梨県立文学館
やまなし文学賞実行委員会
横尾忠則現代美術館
与謝野晶子倶楽部
吉村昭記念文学館
立命館大学国際平和ミュージアム
ロマネコンティ俳句ソシエテ
和歌山市
早稲田大学演劇博物館

3　文学館資料の貸出状況

貸　出　先	展 覧 会 名 等	貸出期間等	資　　料　　名
鎌倉市川喜多映画記念館	企画展「開館15周年記念　鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人」	令和７年８月２日～11月24日	当館制作映像「田舎家に魅せられる哲学者　和辻哲郎」（1991年制作） ※映像データ提供

4　文学館資料の出版物等掲載状況

掲載許可先	掲載番組・書籍等	提供資料・期間等
テレビ朝日報道局 情報番組センター	グッド！モーニング「林修のことば検定スマート」コーナー（令和７年7月23日放送）	夏目漱石　松尾寛一宛書簡　１点 ※画像データ提供
徳島県文化振興財団 徳島県立文学書道館	特別展「青春の詩歌」 （令和7年8月8日～９月23日）	永田耕衣肖像（「加古」出版の頃）１点 ※画像データ提供
株式会社NHK出版	「NHK短歌」令和8年１月～3月号連載 濱松哲郎氏「作品と軌跡　昭和の歌人をよむ」	岸上大作関連写真（肖像３点　書籍１点） ※画像データ提供
読売新聞大阪本社文化部	読売新聞読書面「昭和百年百冊」 令和7年11月16日	和辻哲郎肖像（昭和25年）１点 ※画像データ提供

運 営 管 理

1　利用状況

（1）入館者数

令和７年度（2025年度）常設展観覧者数　〔単位：日、人〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	26	27	25	27	28	24	27	26	20	23	23	26	302
一般	278	410	565	1150	1613	1552	2091	2670	1331	255	226	460	12,601
大・高	34	14	16	113	264	165	69	90	76	20	15	－	876
中・小	5	6	7	80	183	91	34	54	28	8	4	－	500
団体一般	258	490	546	1,850	2,574	2,016	1,731	2,501	1,210	142	141	216	13,675
団体大高	2	2	8	72	161	99	27	43	27	32	4	－	477
団体中小	0	95	5	193	286	115	49	93	65	31	58	－	990
その他	291	409	446	644	712	892	539	719	537	127	420	376	6,112
合計	868	1,426	1,593	4,102	5,793	4,930	4,540	6,170	3,274	615	868	1,052	35,231

令和７年度（2025年度）企画展観覧者数　〔単位：人〕

企画展	１月17日～３月29日 61日 戦時下の大衆文化展		合計 開催日数61日
	～2月28日	3月1日～	
一般	432	441	873
大学生・高校生	29	－	29
中学生・小学生	6	－	6
団体　一般	224	215	439
団体　大学生・高校生	5	－	5
団体　中学生・小学生	6	－	6
招待等（3/1以降18未満含む）	635	365	1,000
幼稚園以下	11	―	11
合計	1,348	1,021	2,369

※常設展観覧者数及び企画展観覧者数は令和8年３月１日からの観覧料区分改正を反映しています。

令和７年度（2025年度）特別展観覧者数　〔単位：人〕

特別展	4月19日～６月22日 56日 没後10年 作家 車谷長吉展	7月５日～9月15日 64日 創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路	9月27日～12月14日 68日 「十二国記」 山田章博原画展	合計 開催日数188日
一般	929	3,541	6,217	10,687
大学生・高校生	24	480	222	726
中学生・小学生	2	288	128	418
団体　一般	1,261	6,154	6,059	13,474
団体　大学生・高校生	9	301	101	411
団体　中学生・小学生	10	508	199	717
招待等	896	1,599	1,117	3,612
幼稚園以下	8	229	173	410
合計	3,139	13,100	14,216	30,455

令和７年度文学館利用状況（再掲）	
常設展・特別企画展入館者（◎）	35,231人
施設利用者	7,222人
その他行事参加者	56,232人
合計	98,685人

◎常設展・企画展・特別展観覧者　内訳	
特別展	30,455人
常設展（企画展開催中）	2,369人
常設展（企画展なし）	2,407人

※特別展または企画展を観覧した人数は、32,824人

入館者数（貸館利用者等を含む）

年　度	開館日数（日）	来館者数（人）		再掲：うち観覧者数（人）			
		来館者数(人)	累計（人）	観覧者数(人)	累計（人）	再々掲：うち特別企画展（人）	（日数）
平成3年度	300	70,427	70,427	44,575	44,575	37,090	204
平成4年度	298	62,755	133,182	32,268	76,843	25,263	171
平成5年度	296	45,104	178,286	24,571	101,414	20,242	196
平成6年度	298	48,134	226,420	23,276	124,690	18,292	134
平成7年度	299	37,224	263,644	13,524	138,214	7,328	78
平成8年度	297	59,602	323,246	29,961	168,175	23,233	141
平成9年度	298	34,522	357,768	14,050	182,225	9,484	134
平成10年度	298	33,995	391,763	16,824	199,049	10,752	160
平成11年度	296	39,383	431,146	23,470	222,519	10,969	120
平成12年度	300	34,885	466,031	16,838	239,357	7,885	116
平成13年度	300	34,055	500,086	16,123	255,480	8,017	123
平成14年度	300	37,284	537,370	15,756	271,236	7,159	130
平成15年度	300	48,264	585,634	26,830	298,066	17,572	141
平成16年度	298	35,979	621,613	14,780	312,846	7,522	133
平成17年度	301	39,694	661,307	14,677	327,523	7,959	117
平成18年度	303	46,445	707,752	16,327	343,850	8,959	131
平成19年度	303	43,738	751,490	14,234	358,084	7,652	131
平成20年度	303	58,002	809,492	26,740	384,824	16,672	122
平成21年度	300	63,529	873,021	28,564	413,388	13,870	135
平成22年度	299	96,391	969,412	53,210	466,598	25,396	146
平成23年度	304	93,474	1,062,886	59,631	526,229	29,515	147
平成24年度	305	139,059	1,201,945	83,021	609,250	39,091	140
平成25年度	302	75,030	1,276,975	37,148	646,398	16,161	175
平成26年度	301	70,686	1,347,661	34,189	680,587	14,720	139
平成27年度	60	34,278	1,381,939	18,176	698,763	9,150	45
平成28年度	198	71,108	1,453,047	20,398	719,161	18,341	186
平成29年度	302	70,255	1,523,302	16,067	735,228	14,047	254
平成30年度	303	95,077	1,618,379	26,660	761,888	24,270	253
令和元年度	279	95,497	1,713,876	29,704	791,592	27,804	242
令和2年度	247	41,531	1,755,407	13,114	804,706	11,916	175
令和3年度	286	84,045	1,839,452	36,146	840,852	34,779	210
令和4年度	300	66,481	1,905,933	21,684	862,536	19,826	228
令和5年度	303	76,676	1,982,609	22,227	884,763	20,330	239

令和6年度	301	75,993	2,058,602	25,048	909,811	23,469	261
令和7年度	302	98,685	2,157,287	35,231	945,042	32,824	249

（2）団体見学受付状況

日程		曜	団体・個人名	人数（人）	備考
令和7年	5月16日	金	大阪市立菫中学校	90人	特別展展示見学
	5月30日	金	姫路市立城乾公民館	18人	特別展展示解説、展示見学
	6月17日	火	姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	19人	特別展展示解説、展示見学
	7月18日	金	姫路市立山陽中学校	32人	特別展展示見学
	8月29日	金	宍粟市立山崎西中学校	22人	特別展展示見学
	12月5日	金	姫路市立神南中学校	9人	特別展展示見学
令和8年	1月28日	水	クラーク記念国際高等学校	32人	常設展展示見学
	1月29日	木	姫路市立山陽中学校	16人	常設展展示見学
	1月29日	木	明石市立魚住中学校	12人	常設展展示見学
	2月6日	金	明石市立大久保中学校	6人	常設展展示見学
	2月13日	金	姫路市立城東小学校	53人	常設展展示見学
	2月27日	金	姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	29人	常設展展示解説、展示見学
	3月19日	木	姫路市立広嶺中学校	17人	常設展展示見学
	3月24日	火	広島学院中学校・高等学校	141人	常設展展示見学

（3）館使用者数

令和７年度（2025年度）館使用状況　〔単位：件、人〕

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合　計			
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
講堂	午前	8	336	7	387	3	206	7	404	5	96	2	93	6	203	3	183	4	226	4	221	4	198	3	254	56	2,807		
	午後	7	498	6	257	9	297	9	418	5	150	10	438	7	326	5	229	6	304	6	214	4	208	5	153	79	3,492	197	11,220
	全日	5	510	6	386	4	450	4	360	7	780	6	371	5	183	5	712	2	110	2	250	10	426	6	383	62	4,921		
和室	午前	9	87	4	33	3	11	0	0	0	0	0	0	1	1	2	8	9	45	4	49	3	15	3	15	38	264		
	午後	10	52	7	27	6	55	0	0	0	0	0	0	1	4	3	31	7	35	0	0	4	25	3	19	41	248	95	1,191
	全日	3	321	3	115	3	65	0	0	0	0	0	0	0	0	1	119	3	23	1	9	1	17	1	10	16	679		
茶室	午前	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	20	0	0	0	0	7	26		
	午後	0	0	2	4	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	9	8	26	148
	全日	4	38	1	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	9	1	17	0	0	10	114		
洋間	午前	0	0	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	20	0	0	0	0	6	35		
	午後	0	0	1	0	1	40	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3	41	1	6	0	0	1	0	11	87	29	363
	全日	3	30	2	80	1	30	0	0	0	0	0	0	1	10	1	0	2	44	0	0	1	17	1	30	12	241		
特展室	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
さんかくギャラリー	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会議室等	午前	4	37	4	52	4	38	3	37	5	54	3	36	1	13	4	43	4	42	3	23	2	21	1	13	38	409		
	午後	3	27	3	23	2	13	3	25	4	20	5	55	0	0	1	10	2	21	4	43	1	8	4	37	32	282	88	801
	全日	0	0	1	11	3	15	2	11	5	38	5	16	0	0	0	0	1	8	1	11	0	0	0	0	18	110		
合計		56	1,936	47	1,425	43	1,245	28	1,255	31	1,138	31	1,009	26	740	36	1,335	48	899	29	875	31	952	29	914	435	13,723	435	13,723

（４）資料特別観覧申請

令和７年度（2025年度）資料特別観覧状況　〔単位：件、枚、円〕

区分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
熟覧			件数	0	0	1	1	1	0	0	3	0	0	0	0	6
複写	電子複写機使用		枚数	0	0	7	6	11	29	125	0	0	0	0	2	180
			金額	0	0	210	180	330	870	3,750	0	0	0	0	60	5,400
撮影	新規撮影	学術用途	枚数	0	0	0	4	0	0	0	5	0	0	0	0	9
			金額	0	0	0	1,240	0	0	0	1,550	0	0	0	0	2,790
		その他用途	枚数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	フィルム貸出し・データ提供	学術用途	枚数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他用途	枚数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			枚数	0	0	8	11	12	29	125	8	0	0	0	2	195
			金額	0	0	210	1,420	330	870	3,750	1,550	0	0	0	60	8,190

（５）出版物等販売数

令和７年度（2025年度）復刻本等売払い状況　　（単位：円、冊）

	図　書　名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
書籍・雑誌	自叙伝の試み	2,800			1						1				2	5,600
	城	1,400			2				1	1					4	5,600
	井上通泰伝	600	1		1		1	1	1						5	3,000
	芳水詩集	1,500					2			1					3	4,500
	明治時代の歴史学界	2,300						1						1	2	4,600
	猫背の散歩	1,200		1	1				1	1		1			5	6,000
	野球美談	1,500	1		1										2	3,000
	意志表示	470				1	3	2		1	1	1	2	2	13	6,110
	冬至梅	1,500			2	1									3	4,500
	冬の宿	460								1					1	460
	自由の彼方で	1,500								1					1	1,500
	播磨の文学	2,300													0	0
	阿部知二－道は晴れてあり	2,000										1			1	2,000
	夫和辻哲郎への手紙	680			1						1	2		3	7	4,760
	妻和辻照への手紙（上）	800			1	1				1	1	2		1	7	5,600
	妻和辻照への手紙（下）	780			1	1				1	1	1		1	6	4,680
	邂逅	1,600							1	1					2	3,200
	播磨古歌考	3,000											1		1	3,000
	近代播磨文学史	1,800												1	1	1,800
	第一阿房列車	490					1					2			3	1,470
	恋うたの現在	1,300	1		1		1						1		4	5,200
	椎名麟三戯曲選	2,000								1					1	2,000
	初井しづ枝文庫目録	500													0	0
	紀要N03～28	800		1	1		5					2		3	12	9,600
図録	和辻哲郎展	1,000	1	1	3	1	2	1	1		1	1	2	2	16	16,000
	酒井宗雅展	1,000									1			1	2	2,000
	森はな展	1,200						1							1	1,200
	繚乱の季節展	1,000													0	0
	椎名麟三の昭和展	1,500		1					1	1					3	4,500
	有本芳水少年の日の春は行く展	1,200										1	2		3	3,600
	二人のヨーロッパ展	1,200			2		2	1		1	1			1	8	9,600
	泉鏡花と「天守物語」展	1,200		1	1	2	3	2	2			1		1	13	15,600
	とっておきコレクション展	800					1					1			2	1,600
	お夏清十郎展	1,200		5		1				1	1		1	1	10	12,000
	「ふしぎ」な絵安野光雄絵本の世界	1,000												1	1	1,000
	森澄雄の世界	1,200			1										1	1,200
	あの日の子どもたち展	1,200			1								1		2	2,400
	戦後期文学のクラシックス展	600													0	0
	ごんぎつねの世界	800						1						1	2	1,600
	作家車谷長吉展	1,200		1	1										2	2,400
	西脇順三郎展	800		2									1	2	5	4,000
	西山英雄装画「播磨灘物語」	1,000								1					1	1,000
	官兵衛と軍師を描いた文豪たち展	600			1		2							1	4	2,400
	夏目漱石　漱石山房の日々展	700			1	2	1	1	1			2	1	1	10	7,000
	姫路文学館ガイドブック	400	4	11	11	9	6	15	12	15	10	3	13	15	124	49,600
	時実新子展	600				1	1		1						3	1,800
	五十嵐播水展	600										1	1		2	1,200
	永田耕衣展	700	1		2	3	3							1	10	7,000
	樋口一葉展	1,000		1	1	1				2					5	5,000
	没後60年岸上大作展	1,000	1			1	1							1	4	4,000

	五味康祐展	1,000													0	0
	西山松之助展	1,000			1		1					2	1		5	5,000
	安田青風展	1,000										1	5		6	6,000
	阿部知二と椎名麟三展	1,100	1		2	1		1		1			2	2	10	11,000
	木山捷平展	1,000	1	5	1	1	1		1	1		4		1	16	16,000
	坂本遼展	1,000	15	2	1										18	18,000
	没後１０年車谷長吉展	1,000	156	218	110										484	484,000
合計		冊数	183	250	153	27	37	27	23	33	19	29	34	44	859	
		金額	180,800	244,900	149,760	19,950	29,600	18,240	16,800	26,710	13,930	24,390	27,540	33,260		785,880

暗唱ノート

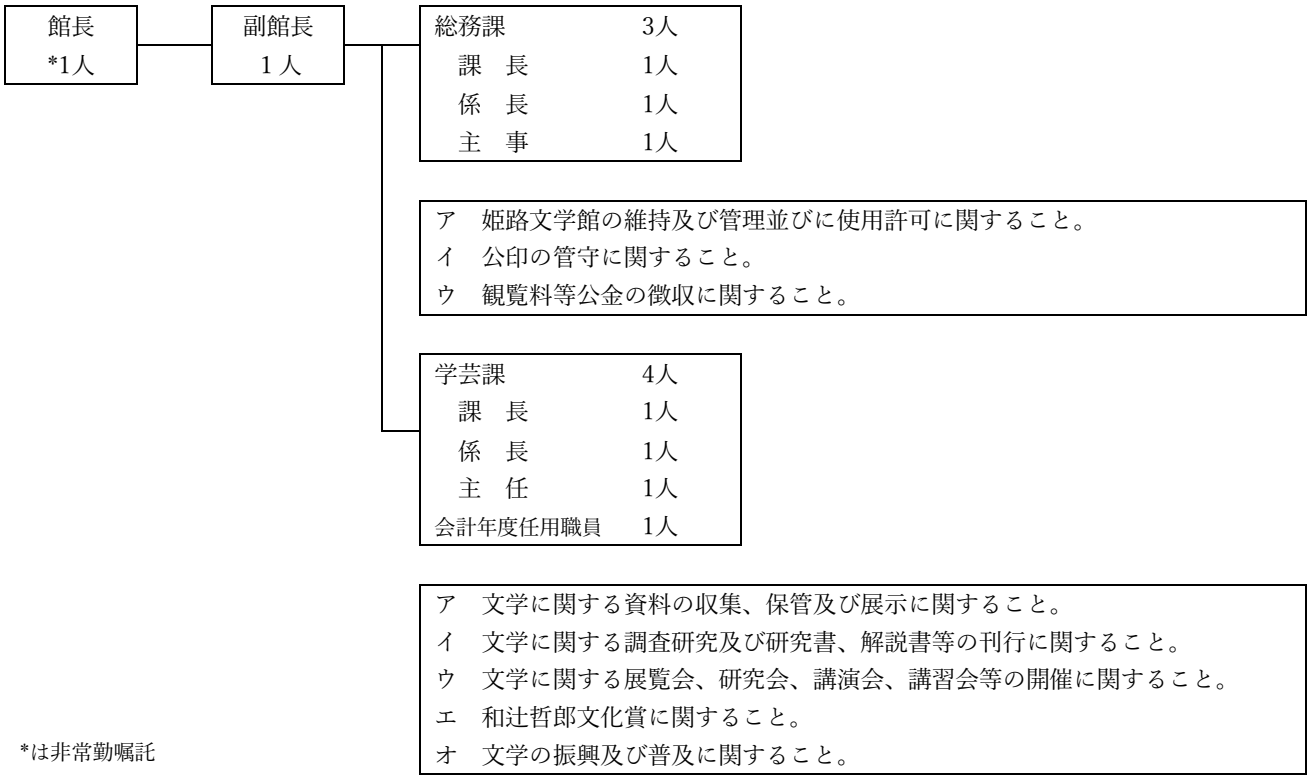
	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
暗唱ノート５年	400	1	1		1	3	1			2				9	3,600
暗唱ノート６年	400	1	1		2	3	1			3			2	13	5,200
暗唱ノート基礎	400		1		3	3	2		1	1	1		2	14	5,600
暗唱ノート発展	400	2	1	2	4	3	1			4	1		1	19	7,600
合計		4	4	2	10	12	5	0	1	10	2	0	5	55	22,000

月別販売金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
復刻本	3,400	2,000	16,260	3,550	10,800	3,840	4,800	11,710	5,530	9,990	5,240	11,060	88,180
図録	177,400	242,900	133,500	16,400	18,800	14,400	12,000	15,000	8,400	14,400	22,300	22,200	697,700
暗唱ノート	1,600	1,600	800	4,000	4,800	2,000	0	400	4,000	800	0	2,000	22,000
計	182,400	246,500	150,560	23,950	34,400	20,240	16,800	27,110	17,930	25,190	27,540	35,260	807,880

2　組織および分掌事務

（令和８年３月31日現在）



*は非常勤嘱託

職員名簿

（令和８年３月31日現在）

館　長	藤原正彦		
副館長（学芸員）	甲斐史子	学芸課課長（学芸員）	竹廣裕子
総務課課長	鎌谷弘美	係長（学芸員）	杉田陽子
係長	蟹井正人	主任（学芸員）	徳重公美
主事	河内佐和子	会計年度任用職員（学芸員）	林田　要

3　予算の概要

令和７年度（2025年度）一般会計歳出予算（令和７年４月１日現在）

款	５５　教　育　費	項	３８　文化振興費	目	４８　文 学 館 費	（単位：千円）

節 区分	金額	説明
7　報　償　費	１０，３３１	文学館の管理運営等に要する経費
8　旅　費	２，１４２	管理運営経費　１２５，４９４ 教育普及活動費　４，２９４ 和辻哲郎文化賞経費　１０，１１６ 特別企画展経費　２５，３００ 資料収集経費　４，９２９ 整備事業費　６，４００ 負担金　９５ （加入団体会費　８３ 出席者負担金　１２）
10　需　用　費	５１，３０１	
11　役　務　費	２，９５５	
12　委　託　料	９６，４１４	
13　使用料及び賃借料	５，９２０	
14　工事請負費	６，４００	
17　備品購入費	９９０	
18　負担金補助及び交付金	１７５	
26　公　課　費	０	
計	１７６，６２８	１７６，６２８

令和７年度（2025年度）一般会計歳入予算（令和７年４月１日現在）

（単位：千円）

款	節		説明
使用料及び手数料	文学館使用料 文学館目的外使用料 文学館特別観覧手数料	１，３０５ １，６７６ ３７	文学館施設占用使用料、目的外使用料、資料複写料等
財産収入	復刻本等売払収入	８９７	復刻本・常設展図録・企画展図録等
諸収入	文学館常設展観覧料 文学館企画展観覧料 文学館共益費等収入 文学館教育普及活動事業参加負担金	１，０３０ １４，７３０ １８６ １，２４０	 没後10年　作家 車谷長吉展 創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路 「十二国記」山田章博原画展 喫茶電気代等 日本文化・文学思想講座、絵本づくり
市債	文化振興債	４，８００	文学館整備事業債
合計		２５，９０１	

施設の概要（令和８年３月31日現在）

文学館構造・規模

敷地面積	18,003㎡
建築面積	3,174㎡
北館	1,324㎡
南館	1,360㎡
望景亭	444㎡
書斎風建物	29㎡
駐輪場	17㎡
延床面積	6,869㎡

北館	鉄骨鉄筋コンクリート造	3,815 ㎡	南館	鉄筋コンクリート造	2,564 ㎡
	●地下１階	1,067 ㎡		●地下１階	1,485 ㎡
	作業室	54 ㎡		収蔵庫	117 ㎡
	ボランティア室	17 ㎡		会議室	73 ㎡
	研究室	36 ㎡		一時保管庫	36 ㎡
	撮影室	16 ㎡		駐車場	786 ㎡
	消毒室	16 ㎡		その他	473 ㎡
	収蔵庫	412 ㎡		●１階	573 ㎡
	その他	516 ㎡		司馬遼太郎記念室	99 ㎡
	●１階	1,134 ㎡		さんかくギャラリー	76 ㎡
	エントランスホール	64 ㎡		よいこのへや	47 ㎡
	姫路城歴史ものがたり回廊	277 ㎡		カフェ	81 ㎡
	ことばの森展示室	283 ㎡		その他	270 ㎡
	その他	510 ㎡		●２階	506 ㎡
	●２階	990 ㎡		図書室	96 ㎡
	企画展示室・和辻展示室	208 ㎡		事務室	80 ㎡
	特別展示室	225 ㎡		閲覧室	39 ㎡
	体験交流ひろば①	65 ㎡		その他	291 ㎡
	体験交流ひろば②	54 ㎡			
	その他	438 ㎡	望景亭	木造平屋建瓦葺	444 ㎡
	●３階	511 ㎡		和室	131 ㎡
	講堂	250 ㎡		茶室	40 ㎡
	準備室	29 ㎡		洋間	65 ㎡
	講師控室	29 ㎡		その他	208 ㎡
	ホワイエ	58 ㎡			
	その他	145 ㎡	書斎風建物	木造平屋建瓦葺	29 ㎡
	●塔屋	113 ㎡			
			駐輪場	鉄筋コンクリート造	17 ㎡

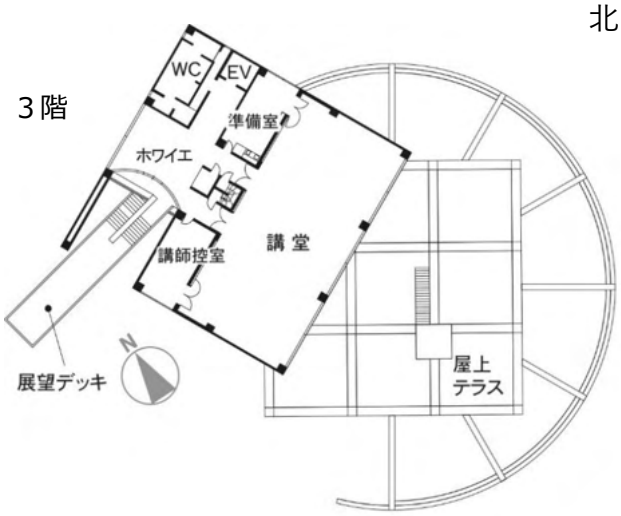
建築費（単位：百万円）	北館	南館
総額	2,605	2,568
建築工事	1,951	1,278
展示工事	550	429
用地費	104	861

大規模施設整備費（北館・南館・外構を同時に整備）（単位：百万円）

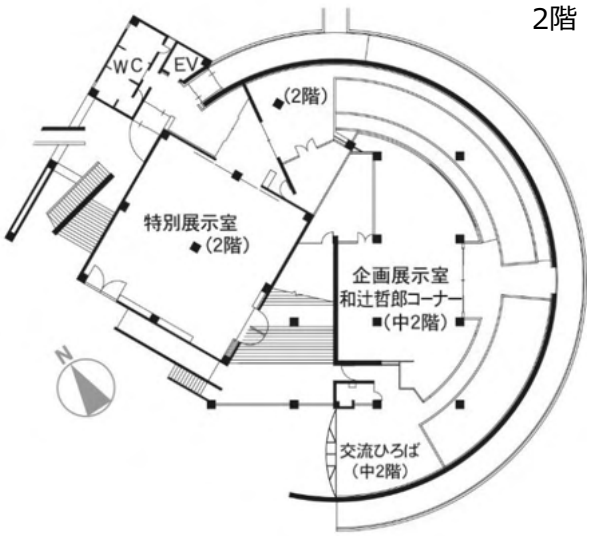
総額	1,993
大規模改修工事	1,415
展示更新制作	578

北　館

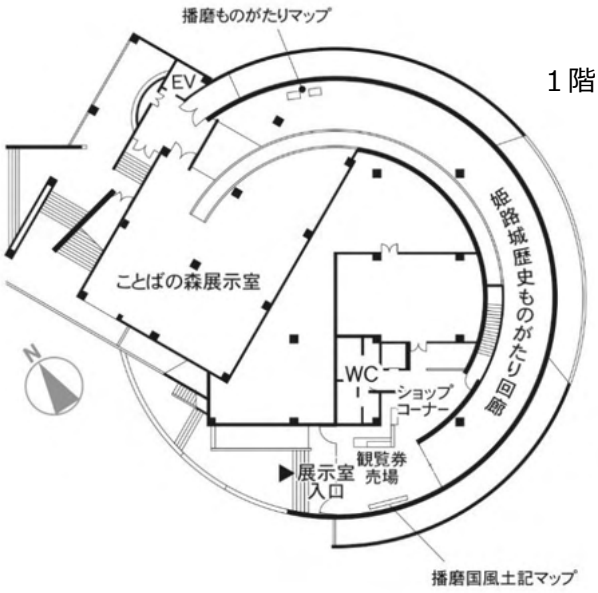
3階



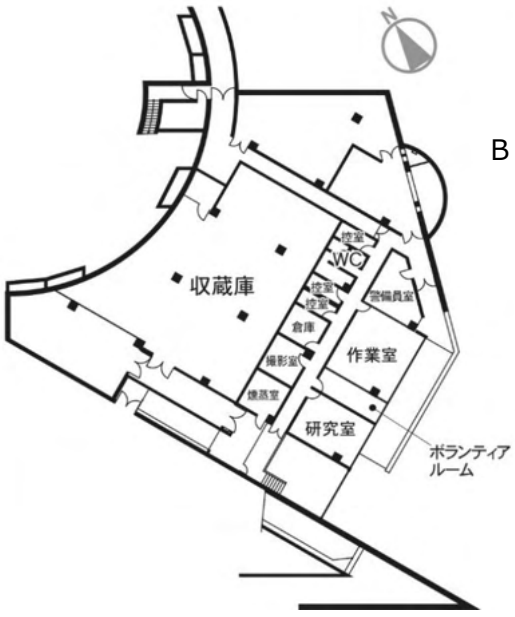
2階



1階

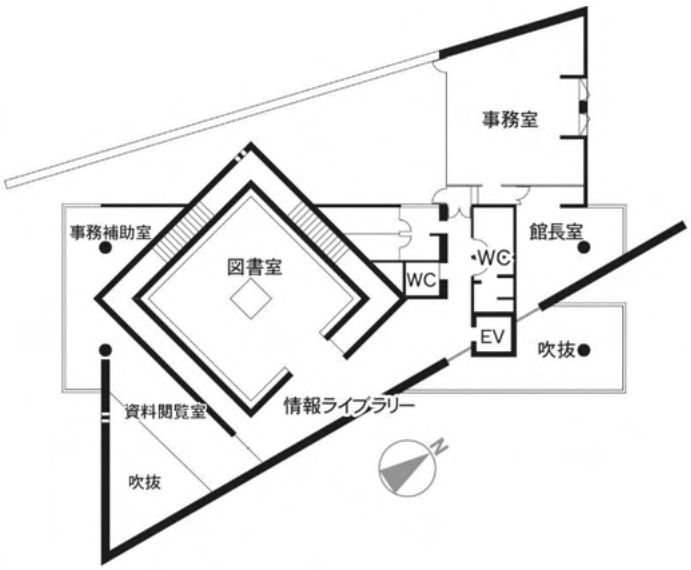


B1階

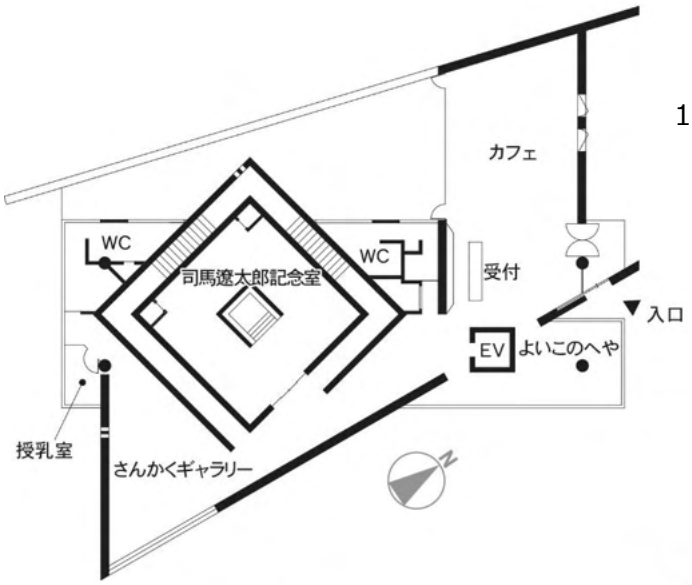


南　館

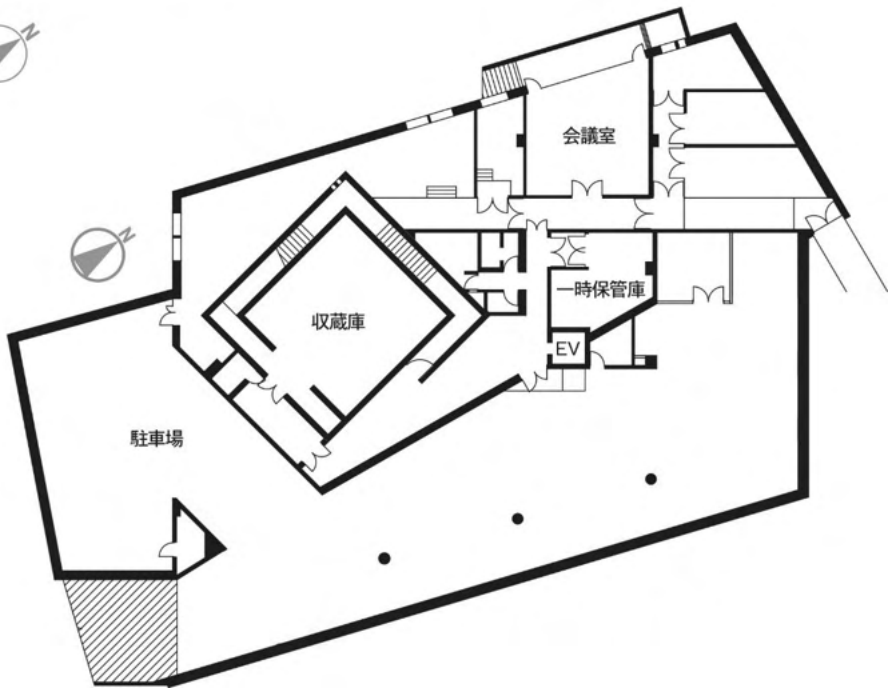
２階


事務室
事務補助室
図書室
WC
WC
館長室
EV
吹抜
資料閲覧室
情報ライブラリー
吹抜

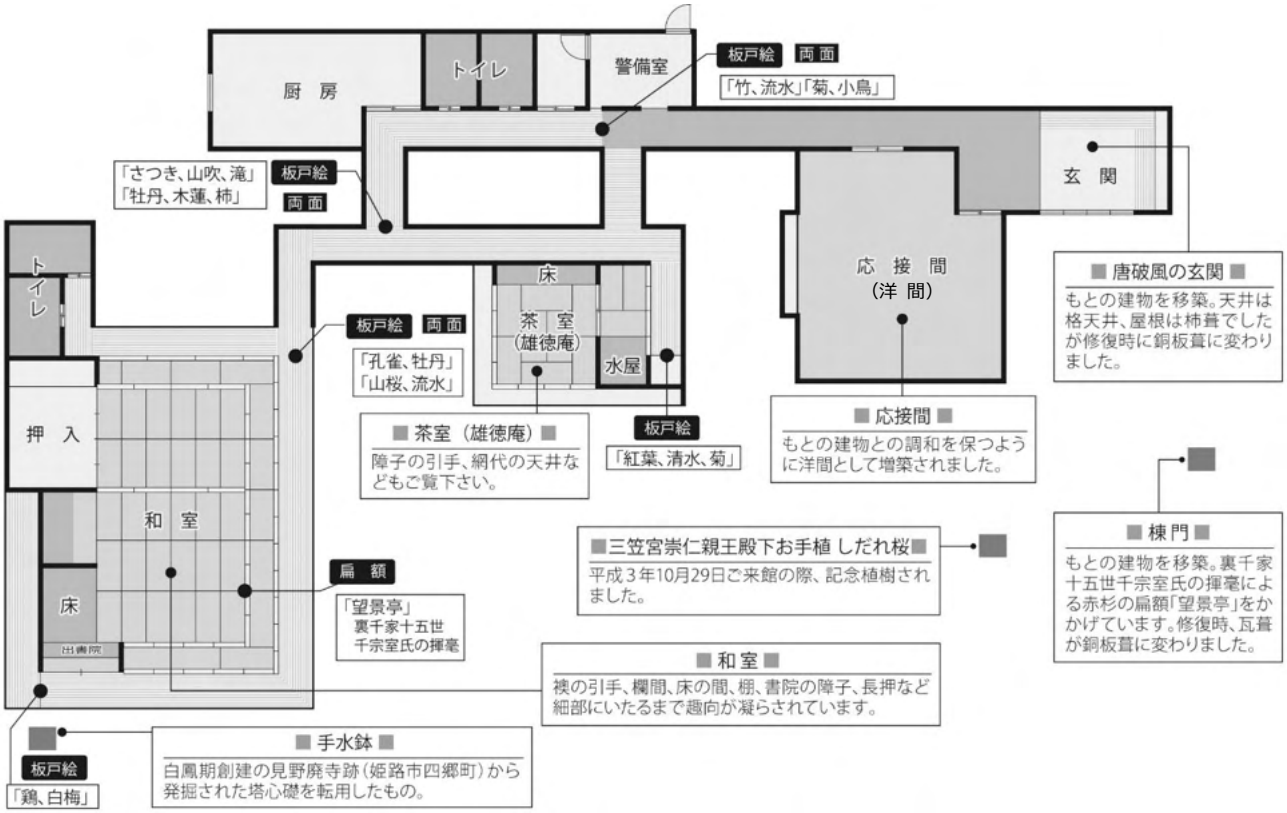
１階


カフェ
WC
WC
司馬遼太郎記念室
受付
入口
EV
よいこのへや
授乳室
さんかくギャラリー

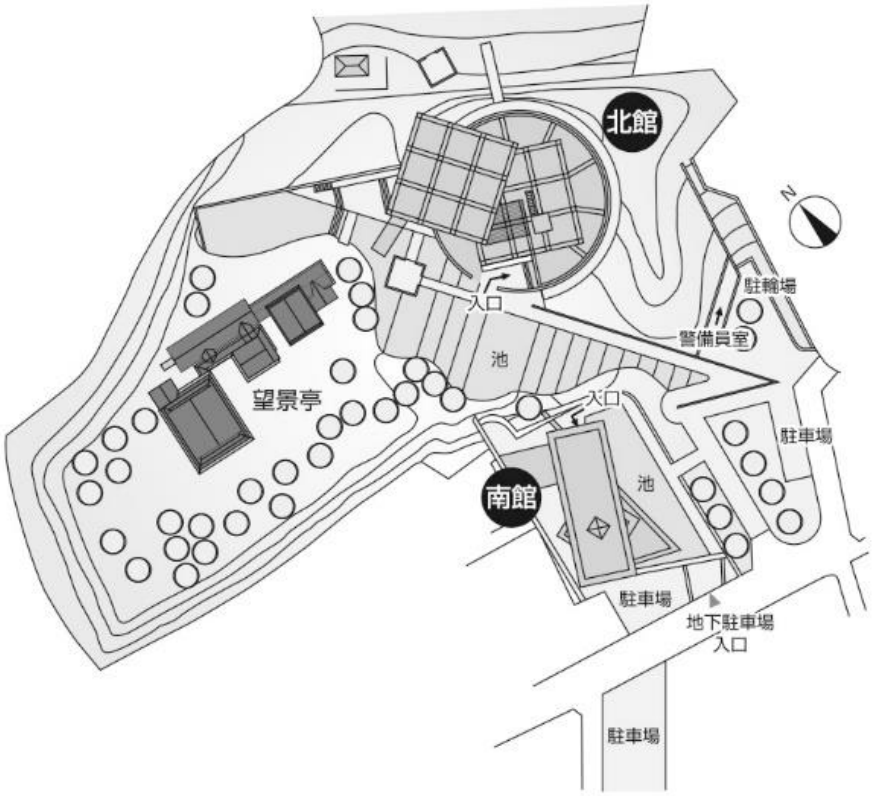
Ｂ１階


会議室
収蔵庫
一時保管庫
EV
駐車場

望　景　亭


厨　房
トイレ
警備室
板戸絵　両面
「竹、流水」「菊、小鳥」
玄　関
「さつき、山吹、滝」
「牡丹、木蓮、柿」
板戸絵
両面
トイレ
床
茶　室
（雄徳庵）
水屋
応　接　間
（洋　間）
■唐破風の玄関■
もとの建物を移築。天井は格天井、屋根は柿葺でしたが修復時に銅板葺に変わりました。
板戸絵　両面
「孔雀、牡丹」
「山桜、流水」
押　入
和　室
床
出書院
■茶室（雄徳庵）■
障子の引手、網代の天井などもご覧下さい。
板戸絵
「紅葉、清水、菊」
■応接間■
もとの建物との調和を保つように洋間として増築されました。
■三笠宮崇仁親王殿下お手植 しだれ桜■
平成3年10月29日ご来館の際、記念植樹されました。
■棟門■
もとの建物を移築。裏千家十五世千宗室氏の揮毫による赤杉の扁額「望景亭」をかかげています。修復時、瓦葺が銅板葺に変わりました。
扁　額
「望景亭」
裏千家十五世
千宗室氏の揮毫
■和室■
襖の引手、欄間、床の間、棚、書院の障子、長押など細部にいたるまで趣向が凝らされています。
板戸絵
「鶏、白梅」
■手水鉢■
白鳳期創建の見野廃寺跡（姫路市四郷町）から発掘された塔心礎を転用したもの。

配　置　図


北館
N
駐輪場
入口
警備員室
池
望景亭
入口
駐車場
南館
池
駐車場
地下駐車場
入口
駐車場

日 誌 抄

4月12日　建築学生対象バックヤード見学ツアー企画で兵庫県立大学人間学部学生に見学会実施。

4月19日　特別展「没後10年　作家車谷長吉展」（以下「車谷展」）開幕。
「車谷展」記念イベント「高橋順子・前田速夫対談「私だけが知っている車谷長吉。」」を開催。登壇者は、高橋順子氏（詩人）、前田速夫氏（元「新潮」編集長）、竹廣裕子学芸課長（司会進行）。

5月18日　国際博物館の日に協賛、常設展無料開放。

5月24日　第1回友の会研修講座「柳田國男生誕１５０年　兄・井上通泰と和歌」を開催。講師は東京学芸大学名誉教授・柳田國男松岡家記念館顧問の石井正己氏。

5月28日　姫路文学館友の会（以下、「友の会」）第1回理事会並びに総会開催。

6月1日　第4回藤原正彦姫路文学館長講演会を開催。

6月3日　トライやる・ウィーク実施（～6月6日）。

6月21日　「車谷展」記念イベント「「抜髪」朗読会」を開催。出演は、小林みね子氏（劇団プロデュース・F）、福本聖美氏（パーカッション）。

7月5日　特別展「創刊50周年記念 花とゆめ展 in 姫路」（以下「花とゆめ展」）開幕。

7月12日　第14回KOTOBAまつりPART1「琴丘高校生の案内で江戸時代のガイドブック『名所図会』にトラベル！」を開催。出演は、姫路市立琴丘高等学校図書文芸部。

7月24日　トライやるDays実施。

7月26日　ちびっこセミナー「世界にひとつの絵本づくり」を開催（8月2日も）。

7月31日　博物館実習実施（～8月5日）。

8月7日　第26回司馬遼太郎メモリアル・デーを開催。

8月10日　「花とゆめ展」記念イベント「師走ゆき先生サイン会」を開催。

9月8日　第38回和辻哲郎文化賞（以下、和辻賞）学術部門第1回推薦会を開催（於東京）。

9月11日　和辻賞一般部門第1回推薦会を開催（於姫路）。

9月27日　特別展　「「十二国記」山田章博原画展」（以下「十二国記展」）が開幕（～12月14日）。
「十二国記」記念イベント「山田章博サイン会」を開催。

10月14日　博物館法改正（令和5年4月1日施行）に伴う再登録を果たし、あらためて登録博物館となる。

10月15日　新収蔵資料の燻蒸につき、従来使用してきたガス（エキヒュームS）の製造停止に伴い、初めての二酸化炭素燻蒸を実施（～30日）。

10月18日　第14回KOTOBAまつりPART2「『遠野物語』朗読会」を開催。出演は、桂佑輔氏（声優）。

10月30日　第1回友の会見学研修会「秋の奈良・京都旅～興福寺・岩船寺・浄瑠璃寺を訪ねて」を実施。

10月27日　和辻賞一般部門第2回推薦会を開催（於姫路）。

10月30日　和辻賞学術部門第2回推薦会を開催（オンライン）。

11月1日　「十二国記展」記念イベント「朗読会「十二国記の世界へ」」を開催。出演は、久川綾氏（声優）。

11月1日　「十二国記展」記念イベント「ミュージカル×原画展 トークショー「越境する〈十二国記〉―ミュージカルで表現する物語」」を開催（姫路文学館友の会協賛事業として実施）。登壇者は、山田章博氏、中原幸子氏（衣裳デザイナー）、竹谷隆之氏（造形作家）、羽尾万里子氏（宣伝デザイナー）、竹平晃子氏（フリーアナウンサー・司会）。

11月13日　友の会ボランティア見学研修会「秋の備中路を訪ねて　～備中松山城下と吹屋地区」を実施。

11月15日　関西文化の日に協賛、常設展無料開放。翌16日も。

11月19日　和辻賞一般部門第3回推薦会を開催（於姫路）。

11月27日　第38期竜王戦祝勝会出席のため、藤井聡太永世竜王、谷川浩司十七世名人が姫路に来訪。藤原正彦館長夫妻が出迎え、姫路文学館にて勝負スイーツを楽しまれた。

12月8日　和辻賞学術部門第3回推薦会を開催（オンライン）。

12月11日　姫路城世界遺産登録日のため常設展無料開放。
第2回友の会理事会を開催。

12月22日　姫路文学館条例、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。令和8年3月1日から施行。

1月8日　和辻賞一般部門選考委員会を開催（於東京）。

1月11日　和辻賞学術部門選考委員会を開催（オンライン）。

1月17日　企画展「戦後80年　戦時下の大衆文化－〈外地〉へのまなざしを振り返る」（以下「大衆文化展」）が開幕（～3月29日）。

1月18日　第11回藤原正彦エッセイコンクール表彰式を開催。

1月31日　第3回友の会研修講座「対談　十五年戦争中、作家と画家たちが〈外地〉で何を見て、また国民に何を伝えたか―その歴史と意味を考える」を開催。講師は、井上章一氏、劉建輝氏。

2月10日　第37回和辻哲郎文化賞受賞作を発表。
2月14日　第14回KOTOBAまつり　PART3「兵庫県立大学環境人間学部　卒業設計展―建築からひろがる風景―」が開幕（～2月20日）。
2月17日　友の会ボランティア見学研修会「早春の淡路を訪ねて～野島断層保存館、淡路夢舞台公苑ほか～」を実施。
2月18日　第17回如月まつりを開催（19日も）。
2月21日　「大衆文化展」記念講演会「顕現と隠蔽－軍事郵便絵葉書にみる十五年戦争」を実施。講師は、劉建輝氏（国際日本文化研究センター教授、企画展監修者）。
2月27日　姫路文学館条例施行規則の改正。令和8年3月1日から施行。
3月1日　デジタルチケット販売開始。18歳未満の観覧料無料。
3月15日　第14回KOTOBAまつり　PART4「絵本朗読劇「おなべ　おなべ　にえたかな？」」を開催。出演は、兵庫県立姫路工業高等学校演劇部。
3月19日　防火訓練を実施。
友の会ボランティア総会・交流会を開催。

姫路文学館友の会

姫路文学館友の会は、文学を愛する市民が一堂に集い、さまざまな分野における学習の場に参加しながら会員相互の親睦会を深め、会員各々が自己の向上をはかっていくための組織として平成３年 10 月１日に発足した。

１　役　員（令和８年５月 31 日現在）

会　　長　　家永善文
副 会 長　　原　誠吾
常務理事　　甲斐史子
理　　事　　石川　誠　　黒田美江子　　坂本竜之介　　筒井勝彦　　鎌谷弘美
監　　事　　内海知香子　　義則敏彦

２　会員数（令和８年３月末日現在）

・ 正 会 員（ボランティア会員 58 人を含む）　　489 人
（年会費 2,000 円×417 人、1,000 円／下半期×72 人）
・ 家族会員（年会費 1,000 円）　　41 人
（年会費 1,000 円×33 人、500 円／下半期×8 人）
・ 学生会員（年会費 1,000 円）　　3 人
・ 賛助会員（法人・団体　年会費 50,000 円）　　4 社

３　令和７年度事業

（1）総会　　5 月 28 日（水）
●記念行事「華麗なるイタリアオペラの世界」
出演：黒川亜希子（ソプラノ）、藤田卓也（テノール）、高礒八千代（ピアノ）

（2）各種講座

①「万葉集」巻十六を読む　　（全 10 回　講師：大森亮尚　受講者　59 人）
②　芥川龍之介の代表作を読む　　（全 10 回　講師：山本欣司　受講者　80 人）

○研修講座

①「柳田国男誕生 180 年　兄・井上通泰と和歌」
講師：石井正己　（５月 24 日　受講者 69 人）
②「歴史家はどうやって歴史を描いているのか？－日本統治の台湾人の洗身・入浴習慣を事例に－」
講師：平井健介　（９月 20 日　受講者 61 人）
③「対談　十五年戦争中、作家と画家たちが〈外地〉で何を見て、また国民に何を伝えたか―その歴史と意味を考える」　　講師：井上章一・劉建輝　（１月 31 日　受講者 150 人）

（3）見学研修会

①「秋の奈良・京都旅　～興福寺・岩船寺・浄瑠璃寺を訪ねて」　　（10月30 日　参加者32人）
②「秋の備中路を訪ねて　～備中松山城下と吹屋地区」　　（11 月 13 日　参加者 21 人）
（ボランティア対象）

（4）協賛事業

特別展「「十二国記」山田章博原画展」協賛
ミュージカル×原画展トークショー「越境する〈十二国記〉―ミュージカルで表現する物語」

（11 月 2 日　参加者 300 人）

(5) 主なボランティア活動

① 郵便発送作業（6 回）

② 各講座・諸行事の受付（年間講座、和辻哲郎文化賞、特別展開会式）（48 回）

③ ワーキンググループ活動

・展示ガイドグループ

勉強会（12 回）

常設展案内（8 回）

・おすすめ展示グループ（2 回）

・おはなし会グループ

全体会議（1 回）

〈よいこのへや〉おはなし会（12 回）

おとなのためのおはなし会（3 回）

絵本の読み聞かせ研修（1 回）

④ その他

・ボランティア全体会議

・如月まつり（展示ガイド・古本市・おはなし会）

4　文学館グッズ販売事業

友の会では、姫路文学館オリジナルグッズを制作し販売しているほか、時宜に応じて姫路文学館にふさわしい物品を入荷し販売している。

オリジナルグッズ

	品　　名	価　格
絵葉書	資料図版（11 種）	各　７０
一筆箋	北館外観（1 種）	３００
	資料図版（2 種）	各３００
	イラスト（2 種）	各２００
メモ帳	イラスト（2 種）	各１００
ファイル	クリアファイル	３５０
紙製バッグ	「十二国記展」オリジナル：完売	５００
その他	一筆便箋・メモ 4 点セット 革製ペンケース、ブックカバー、書籍等 （随時販売）	５００

令和 7 年度グッズ売上合計額　1,242,795 円

5　資料整理業務

平成 12 年度より、姫路市からの委託を受け、継続して行っている。姫路文学館が所蔵または新たに収集する資料について、文学館の方針に従って分類整理、情報検索システムへの登録等の業務を行うもの。

(1) 受託期間　　令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

(2) 業務内容

①　購入・寄贈図書、その他文学館資料の整理、保管、保存。

② 図書データ等の資料データの作成。
③ 情報検索システムへの登録作業。
④ 資料整理全般に関わる一切の業務。
⑤ その他、上記業務に関わる人員の雇用とそれに伴う整理・保存用品および事務用品の購入等。

(3) 雇用者数　　１人

(4) 受託金額　　２，７３２，０００円

6　令和７年度決算（会計年度：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）

収　　入　　２５，５７１，１７１円（資料整理業務費 2,732,000 円含）
支　　出　　１１，７９５，８５１円（資料整理業務費 2,732,000 円含）
翌年度繰越金　　１３，７７５，３２０円

沿　革

昭和 58 年 8 月	文化都市を目指す戸谷松司市長の方針に基づいて、「姫路市立文学資料館」の構想生まれる。
60 年 1 月 28 日	建設構想推進委員会及び資料収集調査委員会が文学資料館基本構想を答申。
61 年 5 月 1 日	姫路市民文化協会内に文学資料館開設準備室が発足。
63 年 2 月 17 日	郷土の哲学者和辻哲郎の生誕 100 年を記念して文化賞を創設。
3 月 31 日	展示基本設計完了。
4 月 1 日	市民局の中に文学資料館開設準備室を設置。
平成元年 3 月 31 日	建築設計完了。
5 月 22 日	文学資料館の正式名称を「姫路文学館」に決定。
7 月 1 日	文学資料館開設準備室が市民局から教育委員会に移る。
9 月 9 日	起工式。
12 月 28 日	展示実施設計完了。
2 年 12 月 21 日	姫路文学館条例、姫路文学館条例施行規則、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則を制定。
12 月 28 日	建築工事完了。
3 年 1 月 31 日	展示工事完了。
3 月 27 日	竣工式。
4 月 1 日	開館。中西進氏、初代館長に就任。
6 月 28 日	兵庫県が創設した「第 1 回さわやか街づくり賞」建築部門を受賞。
7 月 11 日	建設省制定の「手づくり郷土賞」素材部門を受賞。
10 月 1 日	姫路文学館友の会発足。
4 年 3 月 26 日	姫路文学館条例の改正。 4 月 1 日施行。
5 年 3 月 25 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。 4 月 1 日施行。
4 月 23 日	姫路文学館施設整備検討委員会が施設整備基本構想を答申（別館建設を提案）。
6 年 3 月 4 日	入館者 10 万人達成。
3 月 18 日	別館展示設計及び建築設計完了。
10 月 19 日	別館起工式。
7 年 10 月 31 日	別館建築工事完了。
8 年 3 月 18 日	別館展示工事完了。
3 月 26 日	姫路文学館条例の改正。 5 月 25 日施行。
4 月 1 日	姫路市教育委員会行政組織規則の改正、総務課、学芸課の 2 課制となる。 館の名称変更（本館を北館に、別館を南館に）。
5 月 24 日	南館竣工式。
5 月 25 日	南館開館。司馬遼太郎記念室を設置。
7 月 4 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。同日施行。
9 年 3 月 31 日	姫路文学館条例の改正。 4 月 1 日施行。
5 月 31 日	中西進館長退任。
6 月 1 日	上田正昭氏、第 2 代館長に就任。
10 年 3 月 20 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。 4 月 1 日施行。
13 年 8 月 28 日	姫路文学館条例施行規則の改正。同日施行。
14 年 6 月 10 日	姫路文学館公式ホームページ開設。
17 年 2 月 25 日	和辻哲郎文化賞展示コーナーを設置。
19 年 3 月 28 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。 4 月 1 日施行。
20 年 7 月 23 日	博物館法第 10 条の規定による登録博物館となる。
21 年 8 月 7 日	望景亭が国登録有形文化財となる。
23 年 2 月 3 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。 3 月 1 日施行。
26 年 3 月 31 日	上田正昭館長退任。
4 月 1 日	藤原正彦氏、第 3 代館長に就任。
27 年 6 月 23 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。 7 月 1 日施行。
7 月 16 日	北館、南館の大規模改修工事及び展示更新制作開始。
28 年 6 月 24 日	姫路文学館条例の改正。 7 月 30 日施行。
7 月 30 日	北館、南館のリニューアル開館。
29 年 3 月 29 日	姫路文学館条例の改正。 7 月 1 日施行。
30 年 12 月 26 日	姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。 4 月 1 日施行。
31 年 3 月 27 日	姫路文学館条例の改正。10 月 1 日施行。 姫路文学館条例施行規則の改正。10 月 1 日施行。
令和 2 年 3 月 5 日	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 31 日）。
3 年 4 月 25 日	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 11 日）。

12月22日　姫路文学館条例の改正。4月1日施行。
4年3月29日　姫路文学館条例施行規則（教育委員会規則）廃止及び姫路文学館条例施行規則（姫路市規則）制定。4月1日施行。
4月　1日　教育委員会より観光スポーツ局へ移管。
5年6月16日　姫路文学館条例施行規則の改正。公布の日から施行。
7月　1日　組織改正により観光経済局の所管となる。
7年10月14日　博物館法改正（令和5年4月1日施行）に伴う再登録を果たし、あらためて登録博物館となる。
12月22日　姫路文学館条例、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。令和8年3月1日から施行。
8年2月27日　姫路文学館条例施行規則の改正。令和8年3月1日から施行。
8年3月1日　デジタルチケット販売開始。18歳未満の観覧料無料。

条　例　規　則　集

○姫路文学館条例

平成2年12月21日
条例第32号

改正　平成４年３月26日条例第４号
平成８年３月26日条例第26号
平成９年３月31日条例第３号
平成28年６月24日条例第52号
平成29年３月28日条例第34号
平成31年３月27日条例第61号
令和３年12月22日条例第55号
令和５年12月20日条例第83号
令和７年12月22日条例第78号

（設置）

第１条　郷土ゆかりの文学者を顕彰するとともに、文学に関する市民の知識及び教養の高揚を図るため、姫路文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（施設の位置）

第２条　文学館の位置は、次のとおりとする。

姫路市山野井町84番地

（事業）

第３条　文学館は、第１条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

(1)　郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。

(2)　郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。

(3)　前２号に規定する作品、作者及び資料に関する調査及び研究を行うこと。

(4)　文学に関する講演会、講習会、講座等を開催し、及びその奨励を行うこと。

(5)　文学に関する研究書、解説書等を作成し、刊行すること。

(6)　文学及び学芸に関する集会並びに展示のために文学館の施設を提供すること。

(7)　前各号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するため必要な事業を行うこと。

（職員）

第４条　文学館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

（観覧料）

第５条　文学館が展示する文学作品及び資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める額の観覧料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

２　前項の規定により特別展示観覧に係る観覧料を納付した者が、当該特別展示観覧の期間中において常設展示観覧をする場合にあっては、市長は、当該期間中において１回に限り、当該者の常設展示観覧に係る観覧料を徴収しないことができる。

（特別観覧許可及び特別観覧料）

第６条　文学館が保管し、又は展示する文学作品及び資料（以下「文学館資料」という。）を研究のために熟覧し、複写し、又は撮影しようとする者は、市長の許可を受け、１点１回につき3,070円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）の範囲内で市長が規則で定める額の特別観覧料を納付しなければならない。

（占用使用許可及び占用使用料）

第７条　別表第２に掲げる文学館の施設を占用して使用しようとする者は、市長の許可を受け、同表に定める占用使用料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

（使用の制限）

第８条　次の各号のいずれかに該当するときは、前２条の許可（以下「使用許可」という。）をしない。

(1)　公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。

(2)　文学館の設置の目的に反する使用をし、又はそのおそれがあると認めるとき。

(3)　文学館の施設又は文学館資料を損傷するおそれがあるとき。

(4)　文学館の管理に支障があると認めるとき。

(5)　その他市長が不適当と認めるとき。

（許可の条件）

第９条　市長は、使用許可に際し、必要な条件を付すことができる。

（譲渡及び転貸の禁止）

第１０条　使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）

は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（許可の変更等）

第１１条　市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、使用者に対して、その使用許可の変更若しくは使用の停止を命じ、又はその使用許可を取り消すことができる。この場合において使用者に生じた損害については、市長はその責めを負わない。

(1)　使用者が、この条例若しくはこれに基づく規則又は使用許可条件に違反して文学館の施設又は文学館資料を使用したとき、又は使用しようとするとき。

(2)　使用者が、偽りその他不正の手段により使用許可を受けたとき。

(3)　災害その他不可抗力によって使用させることができなくなったとき、又は使用させることが不適当と認められるとき。

(4)　前３号に定めるもののほか、市長が、 公用、保安又は管理上の都合により特に必要と認めるとき。

（観覧料等の減免）

第１２条　市長は、公益上必要と認めるときは、第５条第１項に規定する観覧料、第６条に規定する特別観覧料及び第７条に規定する占用使用料を減額し、又は免除することができる。

（観覧料等の還付）

第１３条　既納の観覧料、特別観覧料及び占用使用料は、還付しない。ただし、第11条第３号若しくは第４号に該当するとき、又は市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

（特別の設備）

第１４条　使用者は、特別な設備をしようとするときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

２　市長は、管理上必要と認めるときは、使用者の負担において必要な設備をさせることができる。

３　使用者は、前２項に規定する設備をしたときは、使用許可期間満了までにこれを撤去し、原状に復さなければならない。

（秩序維持）

第１５条　何人も、文学館において次に掲げる行為をしてはならない。

(1)　文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。

(2)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。

(3)　許可なくして展示された文学館資料に触れること。

(4)　許可なくして模写、模造、撮影等を行うこと。

(5)　許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為を行うこと。

(6)　許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。

(7)　所定の場所以外の場所において飲食し、喫煙し、その他火気を使用すること。

(8)　前各号に定めるもののほか、文学館の管理に支障がある行為をすること。

（入館の拒否、退館命令等）

第１６条　市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、文学館への入館を拒否し、退館を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

(1)　前条の規定に違反する行為をし、又はしようとする者

(2)　前号に定めるもののほか、文学館の管理上の必要な指示に従わない者

（損害の賠償）

第１７条　文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失した者及び第14条第３項に規定する義務を履行しない者は、市長の認定額の損害を賠償しなければならない。

（補則）

第１８条　この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附　則

この条例は、市長が告示で定める日から施行する。ただし、第７条から第14条まで及び別表第２の規定は、平成３年１月４日から施行する。

（平成３年３月14日告示第30号で平成３年４月１日から施行）

附　則（平成４年３月26日条例第４号）

この条例は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成８年３月26日条例第26号）

この条例は、平成８年５月25日から施行する。

附　則（平成９年３月31日条例第３号）

この条例は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成28年６月24日条例第52号）

この条例は、平成28年７月30日から施行する。ただし、第３条第１号及び第２号、第６条、第８条、第11条、第12条（「減額」を「減額し、」に改める部分に限る。）、第15条から第17条まで並びに別表第２備考第３項の改正規定は、公布の日から施行する。

附　則（平成29年３月28日条例第34号）

この条例は、平成29年７月１日から施行する。

附　則（平成31年３月27日条例第61号）

この条例は、平成31年10月１日から施行する。

附　則（令和3年12月22日条例第55号）

（施行期日）

１　この条例は、令和４年４月１日から施行する。

附　則（令和5年12月20日条例第83号）

（施行期日）

１　この条例は、令和6年4月1日から施行する。

（経過措置）

２　この条例による改正後の別表第２の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後の使用に係る使用料について適用し、施行日前の使用に係る使用料については、なお従前の例による。

３　施行日以後に特別展示室を使用しようとする者が、この条例の公布の日前に使用許可に係る申請をした場合における当該使用許可に係る使用料については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（令和７年12月22日条例第78号）

この条例は、令和８年３月１日から施行する。

別表第１（第５条関係）

観覧料

区　分	金額（1人につき）	
	個人	団体
常設展示観覧	円 450	円 360
特別展示観覧	2,000円以内で市長が定める額	

備考

１　「常設展示観覧」とは、文学館が平常的に展示する文学作品及び資料の観覧をいい、「特別展示観覧」とは、文学館が主催して特別に展示する文学作品及び資料の観覧をいう。

２　「団体」とは、観覧しようとする者（次項に規定する者を除く。）の人数が３０人以上のものをいう。

３　１８歳未満の者（１８歳に達する日以後の最初の３月３１日までの間にある者を含む。）は、無料とする。

別表第２（第７条関係）

施設占用使用料

使用時間／使用施設	1日 午前9時から午後5時まで	午前 午前9時から正午まで	午後 午後1時から午後5時まで
特別展示室	円 10,240	円 4,410	円 5,830
講堂	10,240	4,410	5,830
和室	7,330	3,160	4,170
茶室	5,190	2,130	3,160
洋間	7,330	3,160	4,170
さんかくギャラリー	7,330	3,160	4,170

備考

１　使用者が入場料又は入場料に類するものを徴収する場合における使用料は、使用区分に係る使用料の額に、当該使用料の10割に相当する額を加えた額とする。

２　特別展示室を展示の準備又は片付けのために使用するときの使用料は、使用区分に係る使用料の額（前項に該当するときは、その割増料金を加算した額）の５割相当額とする。

３　使用許可時間を超過し、又は時間を早めに使用する場合の超過時間に係る使用料は、所定の使用料（前各項のいずれかに該当するときは、当該各項により計算された額）を基礎として、それぞれの料金表の使用時間の区分ごとに１時間当たりの算出料金（使用料に定めのない時間帯にあっては、当初使用許可を受けた時間区分に係る１時間当たりの算出料金）に超過時間を乗じた額の合計額とする。この場合において、超過時間の計算は、１時間未満のときはこれを１時間とし、１時間を超える場合で１時間に満たない端数時間があるときはその端数時間は１時間として計算する。

４　前項における使用料の算定において、算出した使用料の合計額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。

○姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則

平成2年12月21日
規則第57号

改正　平成　5年 3月25日規則第10号
平成 8年 7月 4日規則第61号
平成 10年 3月20日規則第23号
平成 19年 3月28日規則第15号
平成 23年 2月 3日規則第６号
平成 27年 6月23日規則第60号
平成 29年12月19日規則第59号
平成 30年12月26日規則第60号
令和 7年12月22日規則第61号

（趣旨）

第１条　この規則は、姫路文学館条例（平成２年姫路市条例第32号。以下「条例」という。）第12条の規定による観覧料、特別観覧料及び占用使用料（以下「観覧料等」という。）の減免並びに条例第13条のただし書の規定による観覧料等の還付に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧料等の減免）

第２条　条例第12条の規定により、観覧料等を減免することができる場合及びその額は、次に定めるところによる。

(1)　療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は身体障害者手帳（次項においてこれらを「手帳」という。）の交付を受けた者及びその介護者が観覧するとき　常設展示観覧に係る観覧料の全額及び特別展示観覧に係る観覧料の半額

(2)　市内に居住する65歳以上の者が観覧するとき　常設展示観覧に係る観覧料の全額

(3)　学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の生徒又は児童を引率する者が学校行事として観覧するとき　常設展示観覧及び特別展示観覧に係る観覧料の全額

(4)　使用者が市と共同で占用使用するとき　占用使用料の５割に相当する額

(5)　市が使用するとき　占用使用料の全額

(6)　前各号に定めるもののほか、市長が特別の理由があると認めるとき　観覧料等の額のうち市長が相当と認める額

２　前項の規定により観覧料等の減免を受けようとする者は、前項第１号及び第２号の規定により減免を受けようとする者にあっては当該減免の事由を証する手帳等を提示し、同項第３号の規定により減免を受けようとする者にあっては文学館観覧料等減免申請書を提出し、同項第４号又は第５号の規定により減免を受けようとする者にあっては文学館施設占用使用許可申請書の該当欄にその旨を記載しなければならない。

（観覧料等の還付）

第３条　条例第13条ただし書の規定により観覧料等を還付することができる場合及びその額は次に定めるところによる。

(1)　条例第11条第３号又は第４号に該当するとき　既納の観覧料等の全額

(2)　災害その他不可抗力による事由により使用できなかったとき　既納の占用使用料の全額

(3)　占用使用を中止しようとする者から次に掲げる期日までに正当な理由により使用中止届があったとき

ア　使用期日前２月　既納の占用使用料の８割に相当する額

イ　使用期日前１月　既納の占用使用料の５割に相当する額

２　前項の規定により観覧料等の還付を受けようとする者は、文学館観覧料等還付申請書を市長に提出しなければならない。

（補則）

第４条　この規則の運用に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成３年１月４日から施行する。

附　則（平成５年３月25日規則第10号）

この規則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成８年７月４日規則第61号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成10年３月20日規則第23号）

１　この規則は、平成10年４月１日から施行する。

２　この規則による改正後の姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則第３条第１項の規定は、この規則の施行の日以後に申請のあった使用許可に係る使用料の還付について適用し、同日前に申請のあった使用許可に係る使用料の還付については、

なお従前の例による。

附　則（平成19年３月28日規則第15号）

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成23年２月３日規則第６号）

この規則は、平成23年３月１日から施行する。

附　則（平成27年６月23日規則第60号）

この規則は、平成27年７月１日から施行する。

附　則（平成29年12月19日規則第59号）

この規則は、平成30年4月１日から施行する。

附　則（平成30年12月26日規則第60号）

（施行期日）

1　この規則は、平成31年４月１日から施行する。

（経過措置）

2　この規則による改正後の規定は、この規則の施行の日以後にされた申請に基づく使用許可に係る使用料、占用使用料又は特別展示室使用料（以下「使用料等」という。）について適用し、同日前にされた申請に基づく使用許可に係る使用料等については、なお従前の例による。

附　則（令和７年12月22日規則第61号）

この規則は、令和８年３月１日から施行する。

○姫路文学館条例施行規則

令和4年3月29日
規則第12号

改正　令和５年６月16日規則第47号
令和５年12月20日規則第91号
令和８年２月27日規則第11号

（趣旨）

第１条　この規則は、姫路文学館条例（平成２年姫路市条例第32号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第２条　文学館の開館時間は、次に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める時間とする。

(1)　北館及び望景亭　午前10時から午後５時まで。ただし、条例第７条の許可を受けて条例別表第２に掲げる施設を使用する場合は、午前９時から午後５時まで

(2)　南館の開館時間　午前９時から午後５時まで

2　前項の開館時間は、市長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

（休館日）

第３条　文学館の休館日は、次に掲げるとおりとする。ただし、市長が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1)　月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日（月曜日を含んで連続した休日がある場合においては、当該連続した休日の最後の日の翌日）とする。

(2)　12月25日から翌年１月５日まで

（観覧料等の納付）

第４条　条例第５条に規定する観覧料、条例第６条に規定する特別観覧料及び条例第７条に規定する占用使用料は前納しなければならない。ただし、旅行業法（昭和27年法律第239号）第３条に規定する者で市長が指定した者（以下「旅行業者」という。）が取り扱う観覧料、市長が特別な事由があると認める特別観覧料及び国、地方公共団体又は公共的団体が使用する場合の占用使用料は、この限りでない。

2　第11条の規定による使用時間の延長の許可を受けて使用する場合の当該使用時間延長に係る占用使用料は、使用終了後直ちに納付しなければならない。

（観覧券の交付）

第５条　条例第５条の規定により観覧料を納付した者に対しては、納付と同時に観覧券を交付するものとする。ただし、地方自治法（昭和２２年法律第６９号）第２３１条の２の２の規定により指定納付受託者に観覧料の納付を委託した場合で、かつ、市長が観覧券を交付する必要がないと認める場合は、この限りでない。

2　観覧券の種類は、次のとおりとする。

(1)　個人観覧券

(2)　団体観覧券

(3)　前売観覧券

3　文学館の観覧の取扱いを旅行業者に委任した者については、当該旅行業者が観覧券に代わるものとして発行するものの提出をもって条例第５条に規定する観覧料の納付があったものとみなす。

4　観覧券の交付は、閉館時間の30分前までとする。

（特別観覧許可の申請）

第６条　条例第６条の許可を受けようとする者は、あらかじめ文学館資料特別観覧申請書を市長へ提出し

なければならない。

2　市長は条例第６条の許可をしたときは、当該申請者に文学館資料特別観覧許可書を交付するものとする。

3　条例第６条の許可を受けた者は、熟覧、複写又は撮影に際し、文学館資料特別観覧許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

（特別観覧料）

第７条　条例第６条の規定により市長が規則で定める特別観覧料は、別表のとおりとする。

（占用使用許可等の申請）

第８条　条例第７条の規定により市長の許可を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、あらかじめ文学館施設占用使用許可申請書（以下「申請書」という。）を市長に提出しなければならない。

2　前項の申請書は、使用しようとする日（以下「使用期日」という。）の属する月の３か月前の月の初日から使用期日の３日前までに提出しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

3　前項の規定にかかわらず、特別展示室を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用期日の区分に応じ、当該各号に定める期間内に第１項の申請書を提出することができる。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(1)　使用期日が１月６日から３月31日である場合　当該使用期日の属する年の前々年の10月１日から当該使用期日の３日前まで

(2)　使用期日が４月１日から９月30日である場合　当該使用期日の属する年の前年の４月１日から当該使用期日の３日前まで

(3)　使用期日が10月１日から12月24日である場合　当該使用期日の属する年の前年の10月１日から当該使用期日の３日前まで

（占用使用許可書の交付）

第９条　市長は、条例第７条の許可をしたときは、申請者に文学館施設占用使用許可書を交付するものとする。

2　条例第７条の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、文学館の施設の使用に際し、文学館施設占用使用許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

（使用期間等）

第１０条　特別展示室の使用期間は、毎週火曜日から起算して６日間を１単位とする。ただし、市長が必要と認めるときは、この限りでない。

（使用時間の延長）

第１１条　使用者は、やむを得ない理由により当該許可に係る使用時間を超過し、又は時間を早めに使用する必要があるときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

（使用中止届）

第１２条　占用使用を中止しようとする者は、文学館施設占用使用中止届に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。

（収集の基準）

第１３条　条例第６条に規定する文学館資料（以下「文学館資料」という。）の収集は、次に掲げる文学作品及び資料（以下「資料」という。）について行うものとする。

(1)　郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料

(2)　郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料

(3)　前２号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するために必要な資料

（収集の方法）

第１４条　資料の収集は、購入、受贈若しくは受託又は借用により行うものとする。

（資料の購入）

第１５条　資料を購入するときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値及び価格の妥当性等について学識経験者の意見を聴くものとする。

（資料の寄贈）

第１６条　文学館に資料を寄贈しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2　市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

3　市長は、第１項の規定により寄贈を承諾した資料の引渡しを受けたときは、文学館資料受領書を寄贈者に交付するものとする。

4　前３項の規定にかかわらず、軽易なものについては、これらの規定を適用しないことができる。

（資料の寄託）

第１７条　文学館に資料を寄託しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

（資料の寄託の期間及び返還）

第１８条　資料の寄託の期間は、３年とする。ただし、寄託者との協議により、この期間を変更することができる。

２　寄託者は、寄託の期間中であっても、返還を希望する日の60日前に寄託資料返還申出書を提出して寄託した資料の返還を受けることができる。

（寄託を受けた資料の取扱い）

第１９条　市長は、寄託者の同意を得て、寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）を展観若しくは特別観覧に供し、その複製物を公刊し、又は頒布することができる。

２　市長は、寄託資料のうち補修が必要なものについては、寄託者の同意を得て補修することができる。

（資料の借用）

第２０条　市長は、資料を借用するときは、その所有者に資料借用書を交付し、その控えを保管するものとする。

（資料の貸出し）

第２１条　文学館資料の貸出しを受けようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　市長は、前項の規定による申出者が次の各号のいずれかに該当し、かつ、貸出しの目的が文学、　歴史、芸術等に関する教養の高揚、調査研究等に資するとともに、当該貸出しが文学館の業務に支障がないと認められるときは、貸出しの承諾をすることができる。

(1)　国又は地方公共団体が設置する文学館、博物館又はこれらに類する施設の長

(2)　　前号に規定する施設以外の施設で、博物館法（昭和26年法律第285号）第11条の規定による登録を受けた博物館又は同法第31条第１項の規定による指定を受けた博物館に相当する施設の長

(3)　公共性を有する報道機関が企画主催する文学展等の場合の主催者

(4)　前３号に掲げるもののほか、市長が適当と認めた者

（貸出しの制限）

第２２条　市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、貸出しをしない。

(1)　文学館資料の保存上、貸出しをすることが望ましくない資料

(2)　未整理の資料

(3)　寄贈者、寄託者等の文学館資料の提供者から、あらかじめ貸出しの制限を求められている資料

(4)　前３号に掲げるもののほか、市長が特に貸出しを制限する必要があると認めた資料

（貸出しの期間）

第２３条　文学館資料の貸出し期間は、60日以内とする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

（寄託資料の貸出し）

第２４条　市長は、寄託者の同意を得て寄託資料の貸出しをすることができる。

２　寄託資料の貸出しについては、前３条の規定を準用する。

（文学館資料の翻刻）

第２５条　文学館資料の翻刻を行う者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

２　市長は、前項の承諾に際して必要と認める条件を付すことができる。

（翻刻の制限）

第２６条　市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、翻刻の承諾をしない。

(1)　未整理の資料

(2)　寄贈者、寄託者等の原資料の提供者から、あらかじめ翻刻の制限を求められている資料

(3)　前２号に掲げるもののほか、市長が、特に翻刻を制限する必要があると認めた資料

（文学館資料の熟覧）

第２７条　文学館資料の熟覧は、次に定めるところにより行うものとする。

(1)　熟覧は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2)　文学者の自筆の資料の熟覧については、複写等により二次資料が作成されている場合は、二次資料によって行うものとする。

（文学館資料の複写）

第２８条　文学館資料の複写は、次に定めるところによ

り行うものとする。

(1)　複写は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2)　文学館資料を複写する者は、著作権法（昭和45年法律第48号）を遵守し、著作権に係る問題が生じた場合は、全ての責めを負うものとする。

2　市長は、前項各号に定めるもののほか、複写に関し必要と認める条件を付すことができる。

（文学館資料の撮影）

第２９条　文学館資料の撮影については、前条の規定を準用する。

（熟覧、複写及び撮影の制限）

第３０条　前３条に定めるもののほか、文学館資料の熟覧、複写及び撮影については、第22条の規定を準用する。

（補則）

第３１条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、令和４年４月１日から施行する。

附　則(令和５年6月16日規則第47号)

この規則は、公布の日から施行する。

附　則(令和５年12月20日規則第91号)

この規則は、令和６年4月1日から施行する。

附　則(令和８年２月27日規則第11号)

この規則は、令和８年３月1日から施行する。

別表（第７条関係）

特別観覧料

区　分		特別観覧料（1点1回につき）
複　写	電子複写機による	30円
撮　影	新規撮影　〔学術用〕	310円
	新規撮影　〔その他〕	3,070円
	フィルム貸出し・データ提供〔学術用〕	150円
	フィルム貸出し・データ提供〔その他〕	1,530円

○和辻哲郎文化賞規則

昭和63年５月17日
規則第29号

（目的）

第１条　この規則は、和辻哲郎の日本文化に関する幅広い活動を顕彰し、かつ市民の文化水準の向上に資するため、日本文化に関する優れた著作物に対し、和辻哲郎文化賞（以下「文化賞」という。）を贈与することを目的とする。

（贈与）

第２条　文化賞の贈与は、記章、賞状及び賞金とする。

2　文化賞の贈与は、毎年３月に行う。

（選考委員）

第３条　文化賞の選考は、文化賞選考委員（以下「選考委員」という。）の協議により決定する。

2　選考委員は、日本文化に関し、卓越した見識を有する者のうちから市長が委嘱する。

（選考基準）

第４条　文化賞の選考の対象となる著作物は、毎年９月１日を基準日とし、同日前１年以内に発表されたもので、次の各号に定めるものとする。

(1)　一般部門　日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので和辻の研究業績に共鳴する評論

(2)　学術部門　哲学、倫理学に関するもので高い水準に達した学術論文

（補則）

第５条　この規則の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附　則

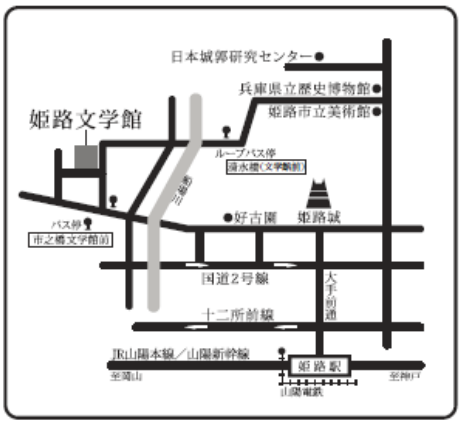
この規則は、昭和63年７月１日から施行する。

利 用 案 内

●開館時間　午前10時～午後５時（入館は午後４時30分まで）
●休 館 日　毎週月曜日・休日の翌日（土・日・休日を除く）
　　年末年始

●観 覧 料

区　分		金　額	
		個　人	20人以上の団　体
常設展示	一　般	450円	360円
	大学生・高校生	300円	240円
	中学生・小学生	150円	120円
特別展示は別料金となります。			



令和８年３月１日から

区　分	金　額	
	個　人	30人以上の団　体
常　設　展　示	450円	360円
特別展示は別料金となります。		

※18歳未満は無料

●アクセス　JR・山陽姫路駅前から
神姫バス９・10・17・18番のりばで乗車６分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩４分
※上記乗り場から発車するバスにも「市之橋文学館前」に止まらないものがありますので、確認のうえご乗車ください。
６番のりばで城周辺観光ループバス乗車10分、「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩３分

●問い合わせ　姫路文学館
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL (079)293-8228　FAX (079)298-2533
e-mail：kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp
https://www.himejibungakukan.jp/

姫路文学館年報　第３４号（令和７年度）

編集・発行　姫　路　文　学　館
〒670-0021　姫路市山野井町84番地
TEL (079) 293-8228
FAX (079) 298-2533

令和８年（2026年）９月１日発行